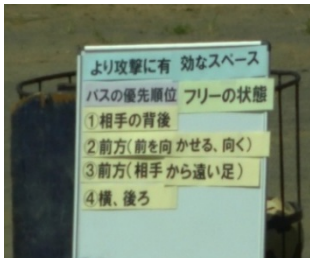
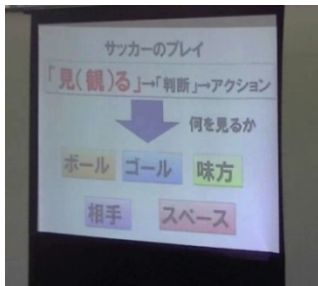


平成 25 年度 体育センター長期研修研究報告

「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、
フリーでパスを受ける動きが身に付くサッカーの授業
—ボールを「つなぐ」「進める」「シュートする」ための
段階的な学習を通して—



神奈川県立体育センター 長期研究員
神奈川県立伊勢原高等学校 佐藤 亮太

目 次

第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	1
4	研究の仮説	1
5	研究の内容と方法	1
6	研究の構想図	2

第2章 理論の研究

1	学習指導要領解説におけるサッカーの内容の比較について	3
2	サッカーの特性について	4
3	本研究での言葉の使い分けについて	4
4	周囲の状況を見ることの重要性	6
5	条件付けられたゲームについて	7
6	「わかる」「できる」について	7
7	診断的・総括的授業評価について	7

第3章 検証授業

1	検証の方法	9
2	学習指導計画	12
3	授業の実際	25
4	検証に係る結果と考察	41
5	指導の工夫の効果と課題	64
6	授業全体を振り返って	67

第4章 研究のまとめ

1	研究の成果と課題	71
2	指導についての提案	72
3	今後の展望	74
4	最後に	74

<引用・参考文献>	75
-----------	----

第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題

「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きが身に付くサッカーの授業
ーボールを「つなぐ」「進める」「シュートする」ための段階的な学習を通してー

2 主題設定の理由

今年度より年次進行で実施されている高等学校学習指導要領では、従前の学習指導要領と比べ、指導内容が明確化されるとともに、ゴール型の技能は「状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること」¹⁾ といったチームや個人の能力に応じた攻防の様相が示され、その様相を導き出すボール操作とボールを持たないときの動きの視点で、指導内容が整理された。

一方で、筆者のサッカーの授業を振り返ると、従前の学習指導要領に示されていた個人的技能のボール操作を中心に授業を展開していたため、基礎練習ではある程度その技能を向上させることはできていたものの、その後のゲームでは、「動きが少ない」「ボールに集まる」、「慌ててボールを蹴る」などの様子が生徒に見られ、ボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きはほとんど見られることはなかった。空間への侵入から攻防を展開するためには、ボールを持たないときの動きに着目した指導が重要と考える。

ところで、サッカーでは、多くの場面で地面上にボールが存在することや、ボール操作が他の球技に比べ困難であることから、空いている空間を生徒に意識させることが難しいと感じる。空間は、サッカーでは一般的にスペースとも呼ばれ、林は「相手も味方もいないエリア」²⁾ と述べ、湯浅は、サッカーの攻撃では、フリーでボールを持つことが大切であり、そのためにはスペースをうまく使うことが必要である³⁾ と述べている。よって、生徒を空間に侵入させて、フリーでパスを受けさせることができれば、ボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって攻防を展開させることができるのではないかと考える。

空間に侵入させて、フリーでパスを受けさせるためには、生徒に見るもの・動く場所を明確に理解させ、パスを受ける動きをできるようにさせることが必要である。しかし、サッカーのゲーム状況は、その展開によって刻々と変化するため、それらのことを生徒に特定させることは難しい。サッカーのゲーム状況について、L・H・シマルは、「保持」「前進」「フィニッシュ」の三つのコンセプトにより、パスを受ける動きは変わってくる⁴⁾ と述べている。よって、このことを参考にして、3つの目的に応じた学習教材を考案し、生徒に「何を見るか」「どこへ動くか」を理解させ、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせれば、ゲームにおいてボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって攻防を展開させることができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、サッカーの授業において、ボールを「つなぐ」「進める」「シュートする」ための学習を段階的に設定し、説明と条件付けられたゲームを行うことによって、生徒に「何を見るか」「どこへ動くか」を理解させ、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせることにしたい。生徒がそれらの能力をゲームの場でも発揮することができれば、ボール操作と空間を埋めるなどの連携した動きによって攻防を展開することにつながるものと考え、本主題を設定した。

3 研究の目的

サッカーの授業において、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解させ、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせる指導についての提案

4 研究の仮説

サッカーの授業において、ボールを「つなぐ」「進める」「シュートする」ための学習を段階的に設定し、説明と条件付けられたゲームを行うことによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解させ、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせることができるであろう。

5 研究の内容と方法

- (1) 授業実践に先立ち、文献等により、理論研究を行う。
- (2) 理論研究を基にした指導計画により授業を行い、仮説検証を中心に授業を振り返る。
- (3) 理論研究及び授業実践とその振り返りを基に研究のまとめを行う。

6 研究の構想図

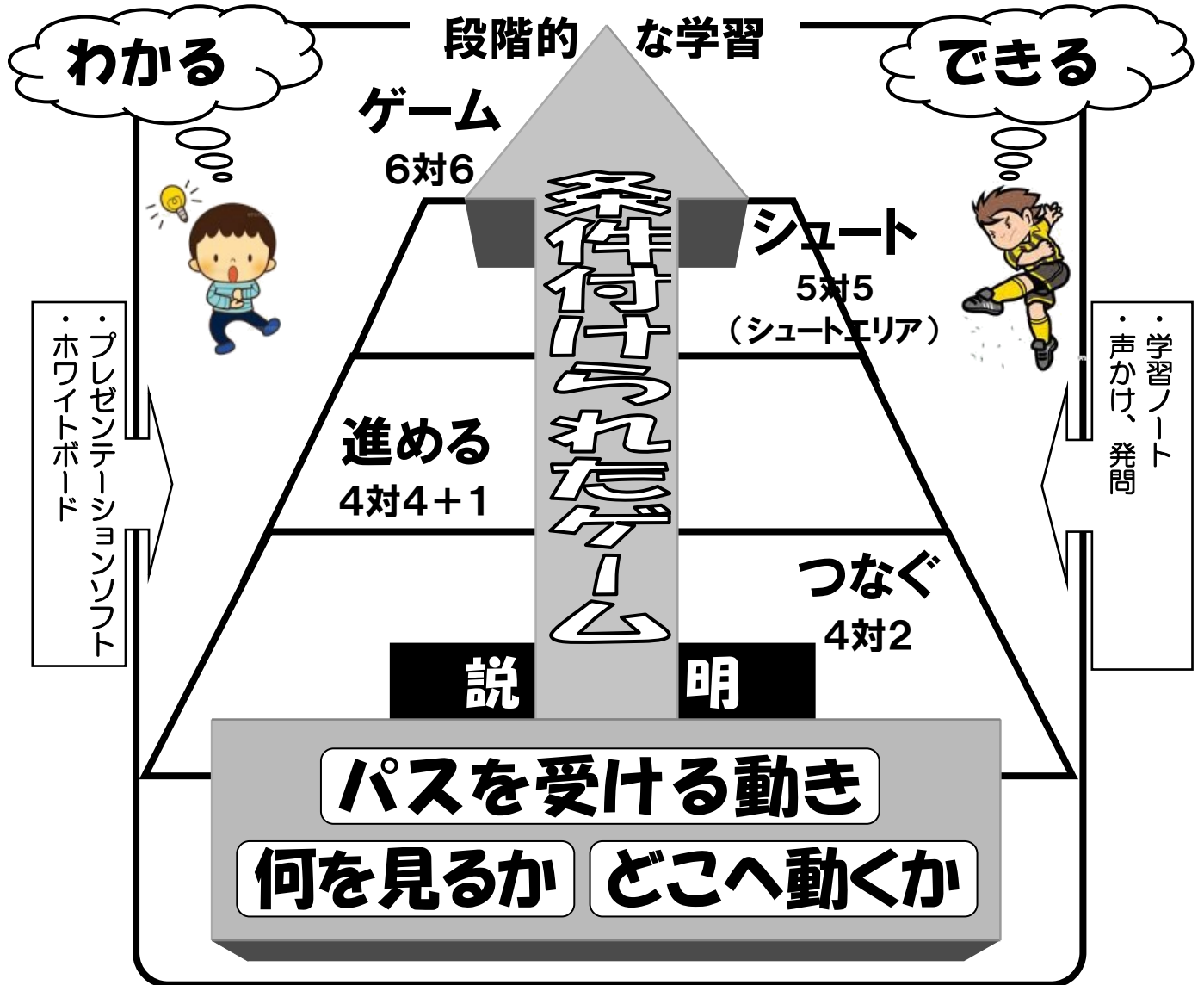
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力

サッカーの特性にふれた楽しさや喜びを深く味わう

空間を埋めるなどの連携した動きによって攻防を展開

「何を見るか」「どこへ動くか」

フリーでパスを受ける動き



【生徒の現状と課題】

- ・ゲーム中の動きが少ない。
- ・連携した動きから攻防が展開できていない。
- ・何を見たらよいか理解できていない。
- ・どこへ動いたらよいかわからない。

【指導の現状と課題】

- ・ボール操作に多くの時間を割いた授業。
- ・平成21年に改訂された学習指導要領の「空間」に関する技能の指導が課題。
- ・指導内容が明確に示されていない。

第2章 理論の研究

1 学習指導要領解説におけるサッカーの内容の比較について

平成21年12月に発行された高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編の体育の球技（ゴール型）の技能に示されている内容は次のとおりである。

表2-1 高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編 第1部保健体育 第2章 第1節体育
3内容 E球技 1技能 ア ゴール型 解説・例示 その次の年次以降（抜粋）¹⁾

<p>○ボール操作</p> <p>「状況に応じたボール操作」とは、コート上の空間や味方と相手の動きを見ながら、防御をかわして相手ゴールを攻めたり、味方が次に動く空間を予測してパスを送ったり、味方や相手の動きを見ながらボールをキープしたりすることである。</p> <p>〈例示〉</p> <ul style="list-style-type: none">・守備者のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートを打つこと。・守備者の少ないゴールエリアに向かってトライすること。・味方が作りだした空間にパスを送ること。・ゴールに向かってボールをコントロールして運ぶこと。・守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすること。・シュートを打たれない空間にボールをクリアすること。 <p>○ボールを持たないときの動き</p> <p>「空間を埋めるなどの連携した動き」とは、攻撃の際は、シュートしたりパスをしたりトライしたりするために、相手の守備を見ながら自陣から相手ゴール前の空間にバランスよく侵入する動きのことを示している。また、守備の際は、空間を作りだす攻撃をさせないように、突破してきた攻撃者をカバーして守ったり、相手や味方の位置を確認して、ポジションを修正して守ったりする動きのことである。</p> <p>〈例示〉</p> <ul style="list-style-type: none">・自陣から相手陣地の侵入しやすい場所に移動すること。・シュートやトライをしたり、パスを受けたりするために味方が作りだした空間に移動すること。・モールやラックから、味方と連携してボールをつなぐための動きをすること。・ボール保持者がプレイしやすい空間を作りだすために、必要な場所に留まったり、移動したりすること。・スクリーンプレイやポストプレイなどの味方が侵入する空間を作りだす動きをすること。・得点を取るためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすること。・チームの作戦に応じた守備位置に移動し、相手のボールを奪うための動きをすること。・味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすること。・一定のエリアからシュートを打ちにくい空間に相手や相手のボールを追い出す守備の動きをすること。
--

また、平成11年12月に発行された高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編の体育の球技のサッカーに示されている内容は次のとおりである。

表2-2 高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編 第1部保健体育 第2章 第1節体育
4各領域別の内容 E球技 1技能の内容 ウ サッカー（抜粋）⁵⁾

<p>ウ サッカー</p> <p>サッカーでは、相手との攻防の中で手を用いないでボールを運び、ゴールにシュートして得点することを競うゴール型のゲームの特性を理解し、既習の集団的技能や個人的技能を活用して、学習段階に応じた作戦を立て、ゲームができるようにする。</p> <p>集団的技能としては、速攻、遅攻、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス、チームのシステム、ゴールキーパーとの連携等での自己の役割を理解し、ゲームで生かせるようにする。</p> <p>個人的技能としては、パス、トラッピング、ドリブル、ヘディング、タックル、シュート、スローイング、フェイント、ゴールキーピングなどを身に付けるようにする。</p>

平成11年12月に発行された学習指導要領解説において、各領域で取り扱われる内容は、運動の種目名で示されていた。その中で、技能は各種目特有の技術の名称で示されていた。サッカーでは、集団的技能として速攻やマンツーマンディフェンス等、個人的技能としてパス、ドリブル、ヘディング等が技能の内容として示されていた。

一方、平成21年12月に発行された学習指導要領解説においては、取り扱う種目こそ改訂前の学習指導要領と同じであるものの、各種目が特性や魅力に応じて「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」の3つの型として示された。技能については、各型それぞれの内容を身に付けさせるために、型に共通する動きをボール操作等とボールを持たないときの動きとして、具体的な動きの例示が示されている。ゴール型では、ボール操作の例示として「味方が作りだした空間にパスを送ること」等が、ボールを持たないときの動きの例示として「自陣から相手陣地の侵入しやすい場所に移動すること」等が、「ゴール型」種目共通の動きとして示されている。

平成21年に改訂された学習指導要領解説における「ゴール型」の技能の解説や例示には、「空間」に関わる内容や例示が多く示されている。そのため、ゴール型種目を指導する際には、「空間」に関する知識や技能が重要になるのではないかと考える。

2 サッカーの特性について⁶⁾

杉山らは、サッカーの機能的特性、構造的特性、効果的特性について、次のように述べている。

(1) 機能的特性（生徒から見た運動の魅力）

サッカーは、ゲームにおいてゴールキーパーとスローインを行う者しか手を使用できない。ほとんどのプレーヤーは、それ以外の部位でボールを操作して、同じコート内で敵と味方が入り乱れて個人対個人やチームとして、個人技能を発揮したり戦術を工夫しながら攻防をくり返し、相手のゴールにより多くの得点をめざし、勝敗を競い合うことが楽しい運動である。また、生徒一人ひとりがさまざまな技能レベルであるにもかかわらず、ルールの簡易さ、技能の発揮のしかたの幅の広さ、プレーの空間的対等性などにより、すべてのレベルに合ったゲームを構成することができ、チームの構成員として互いに教え合ったり、作戦を考え合ったりするなかで、個人の技能やチーム力の向上が高まり、質的向上の楽しさを味わうことができる運動でもある。

(2) 構造的特性（運動独自の技術的構造・ルールなど）

サッカーは、ゴール型として同じコート内で、主として足でボールを蹴って進める。手や腕の使用が禁止されているため、ボールを操作する身体部位や技能の発揮のしかたに特徴があり、個人的技能や集団的技能を把握しチームに合った作戦を立てて、相手との攻防のなかでゴールに得点することを競う混戦型のゲームを展開する運動である。

(3) 効果的特性（運動が心身に及ぼす影響）

練習やゲームを通して個人的技能や集団的技能を高めるなかで、体力や運動能力の向上に役立つ。同時に、集団としての自主的・主体的な学習活動で互いの意見交換や支援を図るなかで、社会生活に必要な態度の育成や具体的活動での健康・安全への配慮の育成にも役立つ運動である。

3 本研究での言葉の使い分けについて

(1) 「空間」・「スペース」

林は、サッカーにおける空間とは、一般にスペースと呼ばれ、「相手も味方もいないエリア」²⁾と述べている。また、湯浅は、サッカーの攻撃では、フリーでボールを持つことが大切であり、そのためにはスペースをうまく使うことが必要である³⁾と述べている。それらのことから、本研究では次のように定義付けすることとした。

ア 「空間」・「スペース」を「フリーの状態をボールを扱うことのできるエリア」と定義する。

なお、授業では「スペース」を使うこととした。

イ フリーの状態を「相手に影響されずに、ボールをコントロールできる状態」と定義する。

(2) 攻撃のコンセプト（目的）

表2-3はL・H・シマルによって示された、攻撃のコンセプトである。L・H・シマルは、サッカーの攻守のコンセプトを「保持」「前進」「フィニッシュ」に分け、これらのコンセプトを順序よく理解することで、プレイに一貫性を持たせることになり、ゴールを決めるという目的からそれることなくプレイできる⁴⁾としている。

表 2-3 攻撃のコンセプト

保持	前進	フィニッシュ
----	----	--------

本研究では、生徒に分かりやすい「つなぐ」「進める」「シュートする」という言葉を使い、それを3つの目的とし、パスを受ける難易度により段階的に指導することによって、よりフリーでパスを受ける動きが身に付きやすくなると考えた。

(3) パスを受ける難易度

サッカーのプレイは、シュートを打ちゴールすることを目的に行われる。ゴールを決めるために「シュート」を打ち、シュートを打つためにボールを前へ「進め」、ボールを前へ進めるためにボールを「つなぐ」のである。⁴⁾

各空間におけるディフェンスのプレッシャーは、「つなぐ」ための空間よりも「シュートする」ための空間の方が強く早くなり、ディフェンスの人数も多くなる。そのため、「シュートする」ための空間は「つなぐ」ための空間と比較して狭くなる。「つなぐ」ための空間では、「シュートする」ための空間と比較すると相手人数も少なく、プレッシャーも強くない。そのため、プレイする空間は広くなると考えることができ、パスも通しやすくなる。

これらのことから、「つなぐ」ための学習よりも、「シュートする」ための学習の方がパスを受ける難易度が高いと考え、その難易度から、「つなぐ」「進める」「シュートする」ための学習を段階的に設定した。

(4) 段階的な学習

本研究では、次のような段階的な学習を組むこととした。

① つなぐための学習 (段階)

攻撃方向に関わらず、ボール保持者との間にパスコースを作って、フリーでパスを受ける動きを身に付ける段階。本研究において、ボールをつなぐための空間とは、前方へのパスコースがなくなった際に、ボール保持者の横や後ろでパスを受けることのできる空間を指す。

② 進めるための学習 (段階)

ボールを相手ゴール方向へ進めるために、フリーでパスを受ける動きを身に付ける段階。本研究において、ボールを進めるための空間とは、ボール保持者よりも前方の空間を指す。

③ シュートするための学習 (段階)

シュートを打つために、フリーでパスを受ける動きを身に付ける段階。本研究において、シュートするための空間とは、相手DFとGKの間の空間を指す。

4 周囲の状況を見ることの重要性について

中川は、ボールゲームにおける状況判断の概念的モデルを以下の図のように示している⁷⁾

- (1) 外的ゲーム状況に対する選択的注意：外的ゲーム状況の中の適切な情報源へ選択的に注意を働かせること
- (2) ゲーム状況の認知：選択的に注意した後に、注意した情報源から情報を獲得し、評価して、現在のゲーム状況の記述を得る。
- (3) ゲーム状況の予測：過去および現在の認識に基づいて未来のゲーム状況を想像し先取りする。
- (4) プレーに関する決定：ここまでのゲーム状況の認知と予測に基づいて、プレーに関する決定をまさに下す。

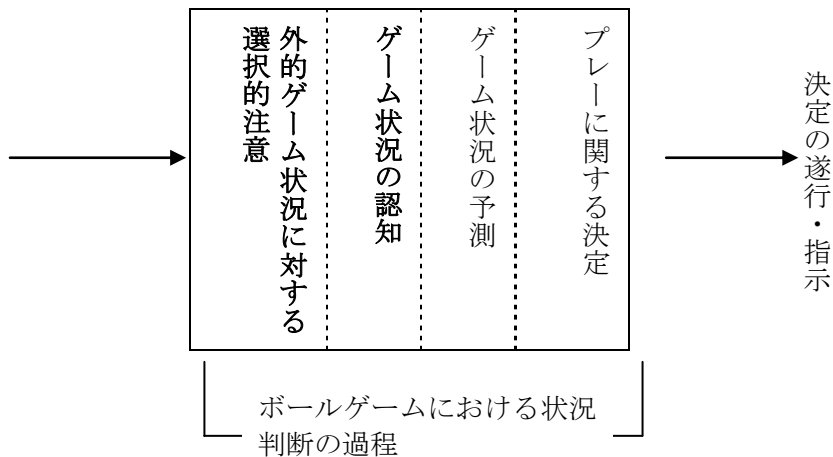


図2-1 ボールゲームにおける状況判断の過程に関する概念的モデル⁷⁾

図2-1から、シュートやパス等のプレイは、周囲の状況を判断する過程を経てから行われていることが分かる。そして、状況判断を行うためには、「外的ゲーム状況に対する選択的注意」「ゲーム状況の認知」等の、周囲を「見る」ことが最初に行われているのである。

また、図2-2及び図2-3は、財団法人日本サッカー協会の『サッカー指導教本 2007』において、ボールを持っていない時の個人戦術について示されたものの一部である。⁸⁾

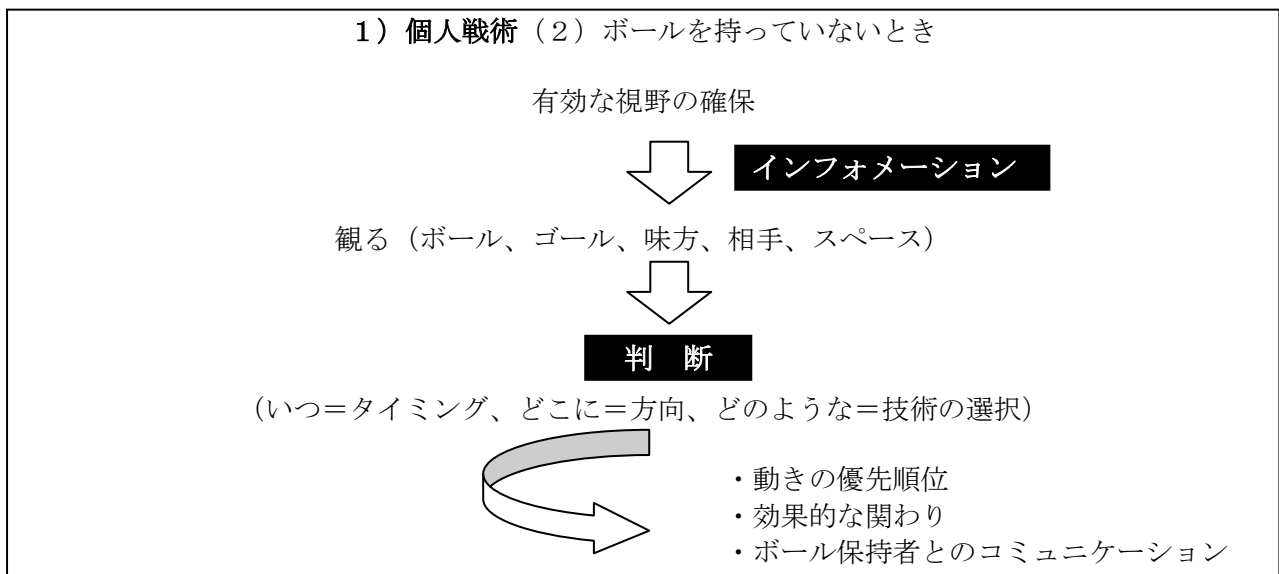


図2-2 個人戦術／ボールを持っていない時⁸⁾

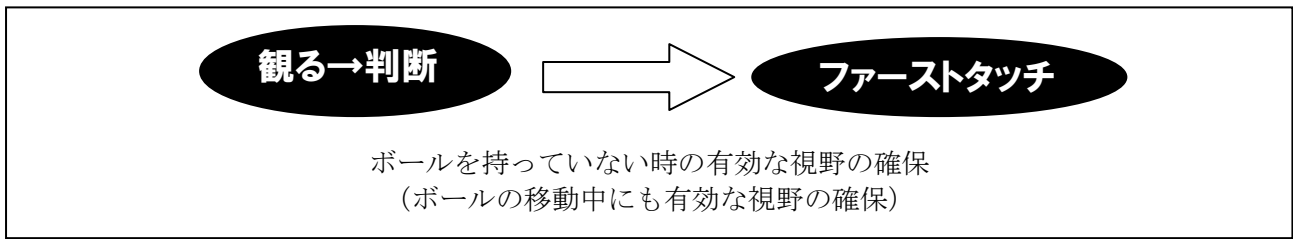


図 2-3 「インフォメーション」を得るために（抜粋）⁸⁾

サッカーのプレイのすべては周囲の状況を見ることから始まる。状況が刻一刻と変化し続けるサッカーは、「状況のスポーツである」⁴⁾とも言われている。したがって、何かプレイを行う時には、周囲の状況を見て、何を行うか判断することが重要となる。林は、サッカーのプレイは「見る」→「判断」→「アクション」→「見る」という一連の流れの繰り返しで行われると述べている。⁹⁾

また、L・H・シマルも「知覚」→「判断」→「改める」→「実行」のプロセスでサッカーのプレイは行われていると述べている。⁴⁾

つまり、サッカーにおいて技能を発揮するためには、ドリブルやパス等のボール操作をしっかりと身に付けることも重要であるが、それと同時に周囲の状況を見て、状況を的確に把握する力も同じように重要である。どんなにボール操作が優れていても、実際にゲームの中で周囲の状況を把握することができなければ、「空間」を活用し、フリーでパスを受ける動きができないと考える。

「空間」は常にコート内の同じ位置にあるわけではなく、コート上を人が動くことによって「現われては消え、消えては現れる」といった動的なものである。³⁾したがって、常に周囲の状況を見なければ、コート上のどこに「空間」があるか把握できず、フリーでパスを受けることが難しくなってしまうと考えられる。³⁾

5 条件付けられたゲームについて

リンダ・L・グリフィン「戦術的気づきの指導が行われる場合、どのようなゲームであっても基本的な考え方として、生徒の戦術的思考を促すためにゲームは修正され、条件づけられる。ゲームのルールを変えることによって、プレイヤーが『この状況の中で成功させるためには何を行わなければならないか』という問題に取り組まざるを得ないような、プレイ条件を浮き立たせることができる。」¹⁰⁾としている。

6 「わかる」・「できる」について

岡出は「『できる』ためには『わかる』ことが必要であり、両者を切り離すこと自体に問題がある。わからないと『できる』ようにはならない。しかし、わかったからといってすぐに『できる』ようにはならない。わかったことが『できる』ようになるには、それを実際に試すことが必要になる。また実際に試すことを通して、わかった内容の理解も一層深まっていく。したがって、実際に授業を行う際には『わかる』ことを『できる』ことに結び付けていく配慮が必要になる」¹¹⁾と述べている。

本研究において、「何を見るか」・「どこに動くか」に関する知識を理解することを「わかる」ととし、条件付けられたゲームや6対6（5対5）のゲームの中で、その知識をもとに空間を活用して、フリーでパスを受ける動きが出現することを「できる」ととした。また、「わかる」と「できる」ことをつなげるために、説明と条件付けられたゲームを中心に授業を展開した。

7 診断的・総括的授業評価について

今回の授業では、事前と事後で、診断的・総括的授業評価を行った。診断的・総括的授業評価とは、高田・岡澤らによって開発された、シーデントップ、クルム、高橋らが主張する運動（技能）目標、認識目標、社会的行動目標、情意目標に一致する授業評価尺度である。質問内容や診断基準の詳細は表2-4と表2-5に示したとおりである。

表 2-4 診断的・総括的授業評価の質問内容¹²⁾

1	私は、少しむずかしい運動でも練習するとできるようになる自信があります。
2	体育で、ゲームや競争をするときは、ルールを守ります。
3	体育のグループやチームで話し合う時は、自分から進んで意見を言います。
4	体育では、自分から進んで運動します。
5	体育で、ゲームや競争で勝っても負けても素直に認めることができます。
6	体育で、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。
7	体育は、友だちと仲よくなるチャンスだと思います。
8	体育をしているとき、どうしたら運動がうまくできるか考えながら勉強しています。
9	体育ではいたずらや自分勝手なことをしません。
10	体育で、「あっ、わかった!」「ああ、そうか」と思うことがあります。
11	体育で体を動かすと、とても気持ちがいいです。
12	体育は、明るくて暖かい感じがします。
13	体育では、みんなが、楽しく勉強できます。
14	体育をするとすばやく動けるようになります。
15	体育で運動するときは、自分のめあてを持って勉強します。
16	私は、運動が、上手にできる方だと思います。
17	体育では、精一杯運動することができます。
18	体育では、わかったと思うこと（知識）を実際に生かすことができます。
19	体育では、1つの運動がうまくできると、もう少し難しい運動に挑戦しようという気持ちになります。
20	体育ではクラスやグループの約束ごとを守ります。

※各質問に対して「はい」・「どちらともいえない」・「いいえ」の3段階評定法を用いる。「はい」を3点、「どちらともいえない」を2点、「いいえ」を1点に得点化し、各因子は5項目の合計得点、総合評価は全ての項目の合計得点から算出し、結果を導き出す。

表 2-5 各項目・次元の得点に関する診断基準¹²⁾

項目名	+	0	-
たのしむ（情意目標）	15.00～13.12	13.12～10.83	10.83～5.00
できる（運動目標）	15.00～11.72	11.72～9.20	9.20～5.00
まなぶ（認識目標）	15.00～11.22	11.22～8.86	8.86～5.00
まもる（社会的行動目標）	15.00～13.81	13.81～11.75	11.75～5.00
総合評価	60.00～50.44	50.44～43.57	43.56～20.00

第3章 検証授業

1 検証の方法

(1) 研究の仮説

サッカーの授業において、ボールを「つなぐ」「進める」「シュートする」ための学習を段階的に設定し、説明と条件付けられたゲームを行うことによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解させ、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせることができるであろう。

(2) 期 間

平成25年9月2日(月)～10月11日(金)

(3) 場 所

神奈川県立伊勢原高等学校 グラウンド(雨天時 武道場・視聴覚室)

(4) 対 象

第3学年1・2・5・7組の サッカー選択者 女子24名

(5) 単元名

球技 ゴール型「サッカー」

(6) 方 法

ア 単元学習指導計画立案

イ 実態調査と分析

(ア) 予備アンケート 7月11日(木) 実施

(イ) 事前アンケート 8月30日(金) 実施

(ウ) 事後アンケート 10月18日(金) 実施

ウ 授業実践

エ 学習カード分析

オ VTRの分析

カ 結果の分析

(7) 分析の視点と方法

	具体的な視点		手がかり	内容
<p>ア 段階的な学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>(ア) つなぐための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>a 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。</p>	<p>(a) 学習ノート (5・6 時間目)</p>	<p>○ゲームの中でボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイすることができましたか。 ○パスを受けることのできる位置について理解することができましたか。 ○今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。</p>
		<p>b フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>(a) VTR (b) 学習ノート (5・6 時間目)</p>	<p>○VTR分析を行い、味方がパスを受けた際に、自分とボール保持者の間に相手がいらない位置への動きができたかどうかを判断し、単位時間当たりの回数を算出する。 ○ゲームの中で、味方からフリーの状態でもパスを受けることのできるスペースへ移動することができましたか。 ○今日の授業で新たにできるようになったことを書きましょう。</p>
	<p>(イ) 進めるための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>a 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。</p>	<p>(a) 学習ノート (7・8 時間目)</p>	<p>○ゲームの中でボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイすることができましたか。 ○今日の授業でうまくいったこと・よかったことを書きましょう。 ○今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。</p>
		<p>b フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>(a) VTR (b) 学習ノート (7・8 時間目)</p>	<p>○VTR分析を行い、味方がボールをコントロールした際に、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きができたかどうかを判断し、単位時間当たりの回数を算出する。 ○ゲームの中で、フリーの状態でもパスを受けることのできるボール保持者よりも前方のスペースへ移動することができましたか。 ○今日の授業で新たにできるようになったことを書きましょう。</p>
	<p>(ウ) シュートするための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>a 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。</p>	<p>(a) 学習ノート (12・13 時間目)</p>	<p>○ゲームの中でボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイすることができましたか。 ○今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。</p>
		<p>b フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>(a) VTR (b) 学習ノート (13 時間目)</p>	<p>○VTR分析を行い、味方がボールをコントロールした際に、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きができたかどうかを判断し、単位時間当たりの回数を算出する。 ○ゲームの中で、フリーの状態でもパスを受けることのできるシュートを打つことのできるスペースへ移動することができましたか。 ○今日の授業で新たにできるようになったことを書きましょう。</p>

<p>イ ゲームで、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>a 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。</p>	<p>(a) 事前・事後アンケート</p> <p>(b) 事後アンケート</p>	<p>○ゲーム中に状況把握するために見るべきものが5つあります、わかるものがあれば書いてください。</p> <p>○見るべきものが理解でき、周囲の状況を認識できる。</p> <p>○あなたは、パスをもらおうとする時、どのようなところに動きますか。</p> <p>○ボールを持っていない時、どのようにプレイすべきか判断できる。</p> <p>○B～Eの中でAからゴロのパスを受けることができる位置にいる選手を記号ですべて選びなさい。</p> <p>○下の図でAがボールを保持している状態で、Fがシュートを打つためにゴール前のスペースへ移動しようとした。このときAとBはどのようなプレイをしたらよいか答えなさい。</p> <p>○今回の授業を通してわかったこと、理解したことを具体的に書いてください。</p>
	<p>b フリーでパスを受ける動きができたか。</p>	<p>(a) VTR</p> <p>(b) 事前・事後アンケート</p> <p>(c) 事後アンケート</p>	<p>○複数名によるVTR分析を行い、ボール保持者がボールを受けてから、ボールが離れるまでの間にフリーでパスを受ける動きができていたかどうかを判断し、単位時間当たりの回数を算出する。</p> <p>○パスをもらえる空間に動くことができる。</p> <p>○今回のサッカーの授業を通してあなた自身ができるようになったことや身に付いたことを書いてください。</p>

2 学習指導計画

(1) 単元目標

※ () は2年次で扱ったと考える内容

- ア 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できるようにする。
 ・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。(技能)
- イ サッカーの授業に主体的に取り組むとともに、(フェアなプレイを大切にしようとする事)、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事など(や、健康・安全を確保すること)ができるようにする。(態度)
- ウ 技術などの名称や行い方、(体力の高め方)、課題解決の方法、競技会の仕方(など)を理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。(知識、思考・判断)

(2) 評価規準

ア 内容のまとめりごとの評価規準【その次の年次以降】

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
球技の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとする事、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとする事などや、健康・安全を確保して、学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた球技を継続するための取り組み方を工夫している。	球技の特性や魅力に応じて、ゲームを展開するための作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めて、身に付けている。	技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解している。

イ 単元の評価規準【その次の年次以降】

・は、その次の年次(2年) ●は、それ以降の年次(3年)

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<p>●球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>・フェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>●役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。</p> <p>●合意形成に貢献しようとしている。</p> <p>●互いに助け合い高め合おうとしている。</p> <p>・健康・安全を確保している。</p>	<p>●これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。</p> <p>●課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。</p> <p>・チームの仲間の技術的な課題や有効な練習方法の選択について指摘している。</p> <p>●作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けてい</p>	<p>●ゴール型では、空間への侵入などから攻防を展開するための状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きができる。</p>	<p>●技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・球技に関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>●課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</p> <p>●競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・審判の方法について、学習した具体例を挙げている。</p>

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康や安全を確保・維持するために、自己や仲間の体調に応じた活動の仕方を選んでいる。 ●球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。 		
--	---	--	--

ウ 学習活動に即した評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
<p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動を継続することは、健康の保持増進に役立つとともに人生を豊かにすることといった運動を継続することの意義 <p>↓</p> <p>①サッカーの学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と活動を行う上で必要な役割を作ること。 ・決めた役割に対して、責任をもって分担すること。 ・グループで果たすべき責任が生じた場合には、積極的に引き受ける姿勢が求められること。 <p>↓</p> <p>②役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の感情を尊重しながら発言したり、提案者の発言を尊重したり、建設的な修正意見を提案しながら話し合いを進めることが大切であること。 <p>↓</p> <p>③合意形成に貢献しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートの記述等からチームの目標に応じた自己の課題を設定すること。 <p>↓</p> <p>①これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートやゲーム分析を通して、目標達成の程度の検証と課題を見直すこと。 <p>↓</p> <p>②課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場面では、相手の意見を途中で遮らず最後まで聴くこと。 ・必ず全員が発言すること。 <p>↓</p> <p>③作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを「する」だけでなく「見る」「支える」ということも生涯スポーツであること。 <p>↓</p> <p>④球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パスをもらってすぐや、フェイントを入れるなどして、ゴールの四隅をねらって、シュートすること。 <p>↓</p> <p>①守備者のタイミングをはずし、守備者のいないところをねらってシュートを打つことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空間に移動する味方の動きに合わせて、タイミングよくパスを送ること。 <p>↓</p> <p>②味方が作りだした空間にパスを送ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低い姿勢で守備者から遠い方の足でボールをコントロールしながら、周囲の状況を見ること。 <p>↓</p> <p>③守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携した味方の動きに合わせて空間に移動すること。 <p>↓</p> <p>④シュートをしたり、パスを受けたりするために味方が作りだした空間に移動することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの原理原則 ・ゲームの中で見るべきもの ・空間について <p>↓</p> <p>①サッカーの技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲーム等を通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があること。 <p>↓</p> <p>②課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営の仕方や役割に応じた行動の仕方 <p>↓</p> <p>③競技会の仕方について、学習した具体例を挙げている。</p>

<p>・共通の目標に向けて共に切磋琢磨する仲間をもつことが、自らの運動の継続に有効であること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>④互いに助け合い高め合おうとしている。</p>		<p>・味方が抜かれた際に、素早くボール保持者とゴールを結んだ一直線上に移動すること。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>⑤味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができる。</p>	
---	--	---	--

(3) 指導と評価の計画 (16 時間)

	時	ねらい・学習活動	関心 意欲 態度	思考 判断	運動 の 技能	知識 理解	評価 方法
はじめ	1	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方、授業上の注意等を理解する。 ○基本的な技能の復習をする。 ○状況に応じたシュート・ボールキープを身に付ける。 <p>1 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元目標、単元の流れの説明 ・学習の進め方、学習ノートについての説明 ・授業上の注意事項の確認 ・チーム分け、自己紹介、役割分担 <p>2 基本的なボール操作の復習</p>					
	2	<p>3 サッカーの種目特性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの原理原則の説明 ・ゲームの中で見るべきものについて ・空間についての説明 <p>4 基本的なボール操作の復習 (安定したボール操作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス交換 (2人1組、4人組) <p>5 ためしのゲーム (6人対6人)</p>				①	学習ノート
	3	<p>6 シュート</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) パスをコントロールして、ドリブルでコーンをかわしてシュート (2) パスをコントロールして、コーンの前でストップしてからコーンをかわしてシュート 					
	4	<p>7 状況に応じたボール操作</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ボールキープ <ul style="list-style-type: none"> ・ボールキープゲーム (ボールと相手の間に体を入れる+周囲を見る) 8 場やルールを工夫したゲーム (シュートゲーム①) <ul style="list-style-type: none"> ・2対2対2対2 (ボール8個、ゴール4個) 	②				行動観察、学習ノート
なか①	5	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○周囲を見ながら、状況に応じたボール操作ができるようにする。 ○シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。 ○目標達成の程度の検証と課題を見直すことができるようにする。 <p>ボールをつなぐための段階</p> <p>1 ボールをつなぐための学習</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 4対1 (手でのパス→手でゴロのパス) (2) 4対2のパス回し <ul style="list-style-type: none"> ・9グリッド、パスを10回回す。できるだけ誰もいないグリッドへ移動する。 (3) 4対3、ゴール4つ (空間を利用してパスを回す) <ul style="list-style-type: none"> ・手で行う。シュートは足で行う。 ・ゴールを決めるか、ボールアウト、パスカットで攻守交替。 	①				行動観察、学習ノート
	6				①		行動観察

なか②	7	ボールを進めるための段階	<p>2 ボールを進めるための学習</p> <p>(1) パスコースを増やしたパス&ムーブ</p> <p>(2) ラインゴールゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4対3 (攻守交替制) ・ 3対3+1フリーマン ・ ゴールエリアでパスを受けたら1点 (ゴールエリアでボールを止めたら1点) (3) 4対4+1フリーマン ・ ゴールを6つ設置する。 ・ 大ゴール2点、小ゴール1点 				③		行動観察
	8								④
	9	3 班別対抗戦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5対5 or 6対6 ・ 交替は自由 ・ タッチラインを割ったらキックインでリスタート ・ ゴールキックのケースは手で投げても、パントキックでよい。 			②	④		行動観察、学習ノート
なか③	10	ディフェンス	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○味方が作りだした空間にパスを送ることができるようにする。 ○味方が抜かれた際のディフェンスの動きができるようにする。 ○これまでの学習を踏まえて、目標に応じたチームや自己の課題を設定できるようにする。 ○課題解決の方法について理解できるようにする。 <p>1 ディフェンス</p> <p>(1) ゲット・ザ・コーン</p> <p>(2) 4対2</p> <p>(3) ミニ2対2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ディフェンスのチャレンジ&カバーの動きを覚える。 <p>(4) 2対2からスタートのゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 失点したチームは1人人数を増やす。 ・ チャレンジ&カバー 					②	行動観察、学習ノート
	11								

なか④	12	ボールをシュートするための段階	1 ボールをシュートするための学習 (1) これまでの学習成果の検証 (2) 今までの復習 (3) 攻撃時にねらうべきスペースについて (4) スペースについての復習 (5) 攻撃時にねらう優先順位の高いスペース ・ GKとDFの間のスペース (特にゴール正面) ・ 中央突破とサイド攻撃について (6) オフサイドについて				①	学習ノート
	13		2 シュートするための学習 (1) シュートエリアを設定した5対5のゲーム ①シュートゾーンからでないでないとシュートは打てない ②攻撃側はボールが侵入ラインを超えなければ、シュートゾーンに入れない。 ③攻撃側がシュートゾーンにいる状態でボールが侵入ラインを超えたらオフサイド ④守備側は攻撃側がシュートゾーンに入っていたらシュートゾーンに入ることができる。 ⑤シュートゾーン内では3タッチまで		①	⑤		行動観察、学習ノート
まとめ	14	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○空間への侵入や空間を埋めるなど、チームで連携した動きを生かしたゲームを展開できるようにする。 ○合意形成のために必要な態度や調整の仕方を見付けられるようにする。 ○サッカーを生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けられるようにする。 </div>						
		まとめのゲーム	1 班別対抗戦 ・ 5対5 or 6対6 ・ セルフジャッジで行う。			②	③	行動観察、学習ノート
	15		2 班別対抗戦 ・ 前回のゲームから見えてくる課題は何かチームで考え、作戦を立てる。 ・ 5対5 or 6対6 ・ セルフジャッジで行う。			③		行動観察、学習ノート
16	3 班別対抗戦 ・ 前回のゲームから見えてくる課題は何かチームで考え、作戦を立てる。 ・ 5対5 or 6対6 ・ セルフジャッジで行う。 4 生涯スポーツとしてのサッカーについて 5 単元の振り返り		③	④			行動観察、学習ノート	

(4) 単元計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
5	○オリエンテーション	本時の学習内容の確認	本時の学習内容の確認 準備運動 (基本技能の確認)					
10	・単元目標の説明 ・単元の流れの説明 ・学習の進め方についての説明 ・授業上の注意事項の確認 ・学習ノートについての説明 ・グループピング	○サッカーについて	ウォーミングアップ(ボール操作の確認)					
15	・役割分担 ・自己紹介(グループ内で)	・サッカーの原理原則について ・試合中見るべきものについて ・空間について	グリッドの中をドリブル&フリーラン ボールキープ (2人1組) 2人1組鬼ごっこ 対人パス パス&ムーブ					
20	○準備運動	○ためしのゲーム	○シュート 【発問】サッカーの一番の目的は何ですか。 ※ゴールを決めるためには、シュートが必要なことを理解する。 ※ゴールの四隅をねらうことが大切であることを理解する。 ・パスを受けてコーンをかかわしてシュート	○シュート2 2対2対2対2ゴール4つ 【発問】守備者がいる状態で、ゴールするにはどうしたらよいか。	○「つなぐ」ための段階 ・パスコースを作り、受けることができる位置へ動く。 ・広い空間にいる味方へのパス	○「進める」ための段階 ・ボール保持者より前方の空間へ動く。 ・攻撃に有効な空間にいる味方へのパス		
25	○ボール操作	5対5 or 6対6			【発問】ドリブルやパスを落ち着いてするためにどのような状態が望ましいか。 「スペース」=自分が自由に使える場所	【発問】何を見たら、ドリブルやパスのしやすい場所へ移動しやすいか。 ※相手の位置を見ることの重要性を理解する。	【発問】どこでパスを受けたらボール操作しやすいか。その場所は点を取るために有効な場所か。 【発問】点を取るために有効な場所とはどこか。	【発問】点を取るのに有効な空間は、ただボール操作がしやすい空間と比べて広さやプレッシャーの強さはどう違うか。
30	○対人パス ・2人1組 ・ボール2個 ・パス&ムーブ	・交替は自由だが、必ず全員出場する。 ・ポジションを決める。 ・リスタートは通常通りだが、ゴールキックはパントキックでよい。 ・審判を行う			●グリッド内移動&パス ・4対1鳥かご(手でパス、手で転がす) ・9グリッド、4対2	●4対2(ボールをもらえる位置への移動) ●グリッド内移動&パス ・9グリッド、4対3	●攻撃方向を意識したボゼッションゲーム ●ラインゴールゲーム ・4対3(攻守交替制) ・3対3+1フリーマン)	●攻撃方向を意識したボゼッションゲーム ●4対4+1フリーマン(ゴール6個設置したゲーム)
35								
40								
45								プレイしやすい空間だけでなく、ボール保持者より前方の空間への意識をもってプレイ
50	本時のまとめ ・学習ノートの記入 ・整理運動 ・用具の片付け							

9	10	11	12	13	14	15	16	
5～8時間目と同様	本時の学習内容の確認 準備運動（基本技能の確認）							
	ウォーミングアップ(動きの確認) ゲット・ザ・コーン 4対2 ミニ2対2	視聴覚室にて 2時間と9時間目のゲームのビデオを観て、ゲームの様相の違いを比較する。		ウォーミングアップ(動きの確認) シュートエリアを設定したゲームを手で行う。 4対2				
班別対抗戦 今までの学習を生かしてゲームを行う。 ●5対5 or 6対6 ・今までの学習の確認を行う。 (サッカーの原理原則、空間を見付ける、周囲の状況を把握する)	○ディフェンスについて 【チャレンジ&カパーについて】 ボール保持者をマークする人のポイント。 ボールを持っていない相手をマークする人のポイント ・基本的なポジショニング ・見るべきもの ●2対2 ディフェンスのチャレンジ&カパーを意識したゲーム		○「シュートする」ための段階 【発問】 相手のDFとGKの間の空間へ動く ・空間へ移動する味方を見て、移動しようとしている空間へのパス 【発問】 攻撃の際狙うべき優先順位の高いスペースはどこか。 【発問】 シュートが打てる空間へパスを送るにはどのようにパスするのが良いか。 ※シュートを打てる空間は相手も警戒するので、狭くプレッシャーが厳しいことを理解する。タイミングの良いパスが必要であることを理解する。 ●攻撃時に狙うべきスペースについての学習 ・GKとDFの間のスペースをねらう。(特にゴール正面) ・オフサイドについての学習		班別対抗リーグ戦 5対5 or 6対6 ・シュートをしたりパスを受けたりするために空間へ移動する。 ・空間へ移動する味方の動きに合わせて、タイミングよくパスを出す。 ・交替は自由だが、必ず全員出場する。 ・ポジションを決める。 ・タッチラインを割ったらキックインで再開する。 ・セルフジャッジ 自ら空間を見つけ、移動したり、パスを出したりする。			
	●2対2からスタートするゲーム 失点したチームは1人追加 4人のチームからゴールが決まったら2対2にリセット		●シュートエリアを設定した、5対5のゲーム ・GKとDFの間の空間にタイミングの良いパスを送る。 ・オフサイドに気をつけて、タイミングよく、GKとDFの間のスペースに侵入する。		相手のDFとGKの間の正面の空間でパスを受ける動き。			
本時のまとめ ・学習ノートの記入 ・整理運動 ・用具の片付け							本時のまとめ ・学習ノートの記入 ・整理運動 ・用具の片付け 単元のまとめ	

(5) 指導の工夫

ア 学習のポイントについて

段階	ねらい (イメージする生徒の姿)	見るべき もの	「見る」ためのポイント	
つなぐための段階	<p>①パスを受けることのできる位置について理解する。</p> <p>②パスコースを作ることができるようにする。</p>	ボール 味方 相手	ボール保持者	<ul style="list-style-type: none"> ボールを見ないで、他のものも見る。 ボールをトラップする前に周囲の状況を見る。
			ボールを持たない時	<ul style="list-style-type: none"> ボール以外のものも見る。
進めるための段階	<p>①動きの優先順位を理解する。</p> <p>②ボール保持者よりも前のスペースでボールを受けられるようにする。</p>	ボール 味方 相手 スペース	ボール保持者	<ul style="list-style-type: none"> ボールをトラップする前に周囲の状況を見る。
			ボールを持たない時	<ul style="list-style-type: none"> 常に周りを見る。 特に相手の位置をしっかりと把握する。 動きの優先順位の高い順番に見ていく。 相手や味方の位置を見ることで、スペースは見付けやすくなる。
シュートするための段階	<p>①攻撃時にねらうべきスペースの優先順位を理解できるようにする。</p> <p>②オフサイドの意味を理解できるようにする。</p> <p>③相手DFとGKの間のスペースにタイミングよく動くことができるようにする。</p>	ボール 相手 味方 スペース ゴール	ボール保持者	<ul style="list-style-type: none"> 味方の動きを見て予測すること。 ゴール前ではスペースが狭くなる。
			ボールを持たない時	<ul style="list-style-type: none"> 味方が何をしようとしているかを見る。 ゴール前ではスペースが狭くなる。

どこへ動くか	「動く」ためのポイント		行った活動
ボール保持者と自分の間に相手がいない位置	ボール保持者	①フリーの味方への足もとへのパス	①4対1手でのパス回し ②4対2のパス回し ③4対3のパス回し (全員触ったらゴールヘシュート)
	ボールを持たない時	①ボール保持者と自分の間に相手がいないようにすること。 ②できれば、ボール保持者と味方で相手を中心に三角形を作ること。 ③パスをもらえる位置にいても、パスが来ないことがあること。	
ボール保持者よりも前方の空間	ボール保持者	①優先順位の高い順に見ていくこと。	①4対3のラインゴールゲーム (攻守交替制) ②3対3+1フリーマンのラインゴールゲーム ③4対4+1フリーマン (ゴール6個設置) ④4対4+1フリーマン
	ボールを持たない時	①動きの優先順位を理解する。 ア 相手の背後 イ 前方 (前を向く) ウ 前方 (相手から遠い足) ②味方との距離を適切に保つこと。 (同じ場所に固まらない。) ③ボール保持者との距離感を適切に取ること。(近ければ遠ざかり、遠ければ近づく。) ④基本は、ボール保持者の前方にパスコースを作ること。	
相手DFとGKの間の正面の空間	ボール保持者	①味方の動きを予測すること。 ②受け手とのタイミングを合わせる こと。 ③使える空間は狭くなること。	①シュートエリアを設定した5対5のゲーム (攻守交替制) ②シュートエリアを設定した5対5のゲーム
	ボールを持たない時	①パスの出し手とのタイミングを合わせる こと。 ②ボールを受けたらできるだけ、早くシュートを打つこと。 ③待ち伏せはオフサイドという反則であること。 ④使える空間は狭くなること。	

イ 説明について

(ア) 学習ノート

本時の学習内容を生徒に確認させ、「何を見るか」「どこへ動くか」の知識の学習や今までの復習、課題の設定、授業の振り返りを行わせたりするためのノートである。授業の中で学んだ知識を生徒が記入する箇所やねらいとする動きの説明、その日の活動の説明が記載してあり、実技を行いながらポイントの確認や動き方の確認させることができるようにした。

(イ) ホワイトボード・マグネット表示

毎時間の説明の際に、知識のポイントや技能のポイントを生徒に端的に伝えることができるようにホワイトボードにマグネット表示を貼り付けて視覚的に理解させることができるようにした。また、パスを受ける動きについての説明をするときはマグネットを使い、コートを上から見た時の視点で動きの説明を行い、動きをイメージさせやすいよう工夫した。

(ウ) プレゼンテーションソフト

ゲームの中で見るべきものやフリーでパスを受ける動きについて理解させるためにプレゼンテーションソフトを使用した。生徒が選手の動きをイメージできるようアニメーションを使い、動きを表す等の工夫を行った。

(エ) ゲームVTRの活用

2時間目のためのゲームと9時間目のゲームの様子をビデオカメラで撮影し視聴させることで、生徒が自分たちの変化を実感できるようにした。

ウ 条件付けられたゲームについて

(ア) 4対1手でのパス回しゲーム

○ねらい

普通のパスとゴロのパスのどちらがパスを回しやすいか考えさせ、ボールを持たない人が動かななくてはならないことを気付かせる。

○コート

5 m×5 mの正方形

○ルール

①攻撃側はパスを10回回す。

②守備がボールに触る（パスカット or ボール保持者にタッチ）か、10回パスが回ったら攻守交替する。

【攻撃側】

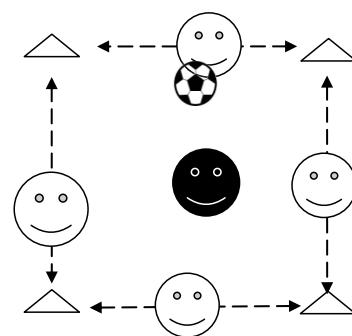
①正方形の辺上のみを動くことができる。

②ディフェンスに触られないよう10回パスを回す。

【守備側】

①ボールに触るために足を使ってもOKとする。

②ボール保持者にタッチしても攻守交替する。



(イ) 4対2パス回し

○ねらい

パスコースを作る動きができ、パスを受けることができるようにさせる。

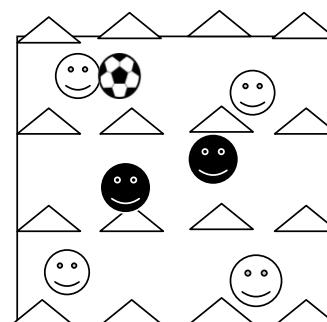
○コート

15 m×15 mの正方形（コート内にマーカーを置きグリッドを作り、どこへ動くかの目安とした。）

○ルール

①攻撃側は10回パスを回す。

②守備がボールを取るか、10回パスが回ったら攻守交替とする。



(ウ) 4対3のパス回し+シュート

○ねらい

パスコースを作る動きができ、パスを受けることができるようにさせる。

○コート

15m×15mの正方形（コート内にマーカーを置きグリッドを作り、どこへ動くかの目安とした。）

○ルール

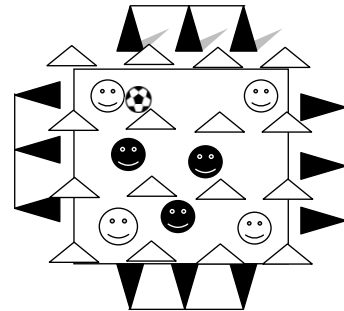
- ①攻撃側が全員ボールに触ったら、どちらかのゴールにシュートする。
- ②守備がボールを取るか、シュートが決まるかボールアウトで攻守交替する。
- ③シュートが決まったら1点とする。

【攻撃側】

- ①攻撃側は全員がボールに触る。
- ②全員がボールに触ったら、どちらかのゴールにシュートする。

【守備側】

- ①ボールを奪いに行く。
- ②ゴールされないようにする。



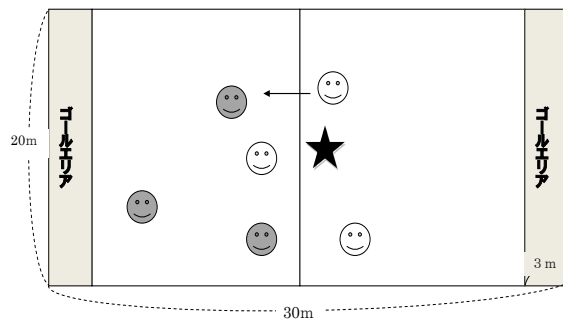
(エ) 3対3+1フリーマンのラインゴールゲーム

○ねらい

攻撃側に数的有利な状況を作り、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受けられるようにさせる。

○ルール

- ①ゴールエリアにボールを運ぶことができれば1点とする。
- ②フリーマンは常に攻撃に参加する。



★・・・フリーマン

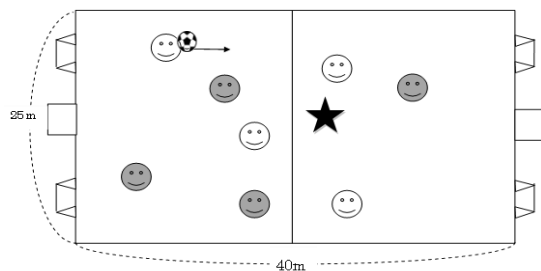
(オ) 4対4+1フリーマンのゲーム

○ねらい

攻撃側に数的有利な状況を作り、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受けられるようにさせる。

○ルール

- ①3つのうちのいずれかのゴールにシュートを決めたら1点とする。
- ②フリーマンは常に攻撃に参加する。



★・・・フリーマン

(カ) シュートエリアを設定した5対5のゲーム

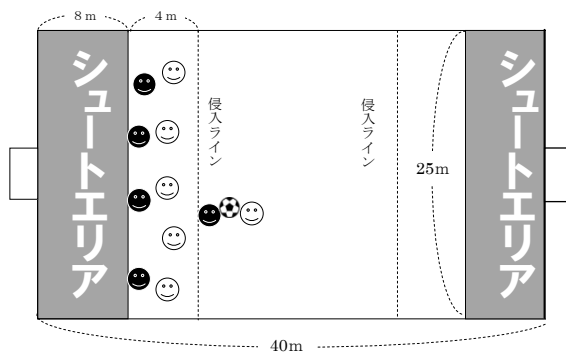
○ねらい

ボール保持者とのタイミングと相手との間合いを計って、タイミングよく相手DFとGKの間のスペース（シュートエリア）に侵入させる。

○ルール

【攻撃側】

- ①シュートエリアからのみシュートを打てる。
- ②攻撃側はボールが侵入ラインを超えな



れば、シュートエリアに入れない。

③攻撃側がシュートエリアにいる状態でボールが侵入ラインを超えたらオフサイドとする。

④シュートエリア内では3タッチまでとする。

【守備側】

①守備側は攻撃側がシュートエリアに入っていたらシュートエリアに入ることができない。(攻撃側がシュートエリア内から全員出たら、守備側も出なくてはならない)

エ その他の工夫について

(ア) サッカーの知識の学習

a サッカーのプレイの原理原則について

b 空間

スペースとは

・コート上の誰もいないエリア } フリーの状態でボールを扱うことができるエリア
・自分が自由に使えるエリア }

c スペースを有効に使うために

サッカーの技能発揮の流れ

d 重要になる技能

(a) 周囲を見る力

(b) 基本的なボール操作

(c) フリーランニング

e プレイ中、見るべきもの

「ゴール」、「ボール」、「味方」、「相手」、「スペース」

(イ) 周囲を見ることを意識したウォーミングアップについて

a ランニンググループピング

b 2人1組鬼ごっこ

c パスコースを増やしたパス&ムーブ

d ゲット・ザ・コーン

e ミニ2対2

(ウ) ディフェンスを意識した活動について

2対2からスタートのゲーム

(オ) 班編成について

予備アンケートの結果から、サッカー経験、運動歴等を考慮し、運動技能のレベルが均等になるよう班編成を行った。また、グループ内に「キャプテン」「副キャプテン」を各1名「記録係」「用具係」を各2名ずつ決め、それぞれに役割を設け、役割を果たさなければ活動が円滑に進まないことを理解させて、授業を進めた。

3 授業の実際

【本時の展開】（1／16 時間）

平成 25 年 9 月 2 日（月） 第 4 校時（11：50～12：40）

（1）ねらい（1～4 時間目）

- ①学習の進め方、授業上の注意等を理解する。
- ②基本的な技能の復習をする。
- ③状況に応じたシュート・ボールキープを身に付ける。

（2）本時のねらい

＜関心・意欲・態度①＞サッカーの学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。（評価：5／16 時間）

＜関心・意欲・態度②＞グループでの役割分担を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとすることができるようにする。（評価：4／16 時間）

（3）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (30分)	<p>【学習内容】</p> <p>＜関心・意欲・態度②＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と活動を行う上で必要な役割を作ること。 ・決めた役割に対して、責任を持って分担すること。 ・グループで果たすべき責任が生じた場合には、積極的に引き受ける姿勢が求められること。 	
	<p>【学習内容】</p> <p>＜関心・意欲・態度①＞運動を継続することは、健康の保持増進に役立つとともに人生を豊かにすることといった運動を継続することの意義などを理解すること。</p> <p>1 集合、挨拶、健康観察、出席確認</p> <p>2 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元目標・流れの説明 ・学習の進め方についての説明 ・授業上の注意事項の確認 ・学習ノートについての説明 ・チーム分け、自己紹介、役割分担 	<ul style="list-style-type: none"> ○出席番号順に並べ、挨拶をする。健康観察をする。 ○単元の目標や流れを説明する。授業上の注意事項や学習の進め方についての説明をする。 ○学習ノートを配付し、内容を見せながら説明する。 ○学習ノートにメンバー名、番号、役割を記入するよう指示する。 ○話合いがうまく進まないグループに声かけをする。
なか (15分)	<p>3 準備運動</p> <p>4 ボール慣れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対人パス ・向かい合ってインサイドでパス（1対1） ・ボールをコントロールしてからパス（1対1） ・パスをしたら後ろに回る。（2対2） 	<ul style="list-style-type: none"> ○インサイドキックの技能のポイントを説明する。 ○うまく蹴れない生徒にはボールを蹴る足の面の向きや軸足の向きを確認する。
まとめ (5分)	<p>5 本時のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 <p>6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的に記入できるよう説明する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

＜授業者による振り返り＞

明るく、体育の授業に積極的な生徒が多く、チーム内での役割を決める話合い等はスムーズに行われていた。ボール操作では、サッカーを行うのは中学校以来という生徒がほとんどで、高校でのサッカー未経験者については、ボールを「止める」「蹴る」ということにまだ慣れていない様子であった。

【本時の展開】（2／16 時間）

平成 25 年 9 月 3 日（火） 第 5 校時（13：25～14：15）

（1）ねらい（1～4 時間目）

- ①学習の進め方、授業上の注意等を理解する。
- ②基本的な技能の復習をする。
- ③状況に応じたシュート・ボールキープを身に付ける。

（2）本時のねらい

<知識・理解①>サッカーの技術などの名称や行い方について、理解できるようにする。（評価：2／16 時間）

（3）本時の評価

≪知識・理解①≫サッカーの技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。【観察・学習ノート】（指導：2／16 時間）

（4）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (20分)	<p>1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。</p> <p>2 サッカーの種目特性について (1) サッカーの原理原則の説明</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習内容】 <知識・理解①> ・サッカーの原理原則 ・空間について ・ゲームの中で見るべきもの</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【発問】 サッカーのゲームでの最終目的は何か。 A. シュートを打ってゴールを決めること。 ・空間についての説明を聞く。 ・サッカーは「見る」→「判断」→「アクション」の繰り返しであることを理解する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【発問】 状況把握のために見るべきものは何か。 A. ボール、ゴール、味方、相手、スペース ⇒周囲を見て状況を把握することが必要であることを理解する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○武道場 1 階で行う。 ○チームごとに整列並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○学習ノートとプレゼンテーションソフトを活用しながら説明する。 ○サッカーの原理原則の説明をする。 ○シュートを打つためのプロセスとして、ある程度フリーでパスを受けることが大切で、それがスペースを使うということであることを指導する。
なか (25分)	<p>3 準備運動と復習</p> <p>4 ためしのゲーム（5対5 or 6対6） ・交替は自由だが、必ず全員出場する。 ・ポジションを決める。 ・リスタートは正規のルール通りだが、ゴールキックはパントキックでよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全にゲームができるよう配慮する。 ○チームのパワーバランスが適切かどうかチェックする。 ○コートのはさは縦 20m×横 40m。キーパーゾーンはゴールラインの midpoint から半径 3 m の円とする。
まとめ (5分)	<p>5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。</p> <p>6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶</p>	<p>≪知識・理解①≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノート、ゲーム記録カードを回収する。

<授業者による振り返り>

ためしのゲームはどの生徒も意欲的かつ楽しそうに取り組んでいた。授業の前半でサッカーの原理原則をプレゼンテーションソフトを使用して説明したこともあってか、積極的にシュートを打つ意識やスペースを活用しようとしている意識の生徒は見受けられたが、自分の所にボールが来るのを待っている生徒が多く、スペースへ移動する様子はあまり見られなかった。

【本時の展開】（3/16 時間）

平成 25 年 9 月 6 日（金） 第 2 校時（9：50～10：40）

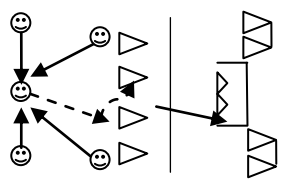
（1）ねらい（1～4 時間目）

- ①学習の進め方、授業上の注意等を理解する。
- ②基本的な技能の復習をする。
- ③状況に応じたシュート・ボールキープを身に付ける。

（2）本時のねらい

<運動の技能①>守備者のタイミングを外し、守備者のいない所にシュートを打つことができるようにする。（評価 6/16 時間）

（3）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (20分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容の確認 3 準備運動（ボール操作等の要素を入れながら） ・ランニンググルーピング ・対人パス（コントロールをつけて）	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○ランニンググルーピングは、一辺 20m の正方形で行う。 ○パスの距離は 5 m
なか (25分)	4 シュート 【発問】サッカーの最大の目的は何ですか。 A. ゴールを決めること。 (1) パスを受けてからコーンをかわしてシュートする。  どこからパスをもらうか自分で選択する。	○サッカーは最終的にシュートを打ってゴールすることが目的であることを確認する。 ○段階として、ドリブルでコーンをかわしてシュート→コーンの前で一度ストップしてからシュート段階的に行うことを説明する。 ○ミニゴールの横にコーンゴールを設置する。 ○ゴールからコーンまでの距離を 10m に設定する。 ○ポストから 1m の所にマーカーを置く。
	【発問】シュートを決めるためには、ゴールのどこをねらったらよいか。 A. ゴールの四隅	
	【学習内容】 <運動の技能①>パスをもらってすぐや、フェイントを入れるなどして、ゴールの四隅をねらって、シュートすること。	
	(2) コーンとゴールの距離を離し、シュートの距離を長くする。	○技能のポイントや練習の仕方をしっかりと教える。 ○うまく蹴ることのできない生徒への支援を行う。
まとめ (5分)	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノート、ゲーム記録カードを回収する。

<授業者による振り返り>

ウォーミングアップの説明に時間を費やしてしまい、シュート練習の時間が短くなってしまった。また、シュート練習も動きが複雑であったため、動きを覚えるのにさらに時間がかかってしまい、本時のねらいを達成するための活動が薄くなってしまった。ポストシュートなど、よりシンプルな学習活動の方が、打つシュートの本数も多くできたと感じた。

活動内容を 1 時間の中に詰め込みすぎてしまっているため、次回以降より活動内容を精選していく必要があると感じた。

【本時の展開】（4 / 16 時間）

平成 25 年 9 月 9 日（月） 第 4 校時（11 : 50 ~ 12 : 40）

（1）ねらい（1 ~ 4 時間目）

- ①学習の進め方、授業上の注意等を理解する。
- ②基本的な技能の復習をする。
- ③状況に応じたシュート・ボールキープを身に付ける。

（2）本時のねらい

<運動の技能①>守備者のタイミングをはずし、守備者のいない所をねらってシュートを打つことができるようにする。（評価 6 / 16 時間）

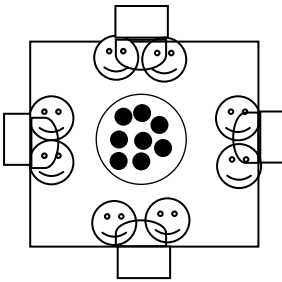
<運動の技能③>相手とボールの間に体を入れ、味方の動きを見ながらボールをキープすることができるようにする。（評価：7 / 16 時間）

（3）本時の評価

《関心・意欲・態度②》グループでの役割分担を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとしている。

【観察・学習ノート】（指導：1 / 16 時間）

（4）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ 20分	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。
	2 本時の学習内容確認 3 準備運動（ボール操作等の要素を入れながら）	
	【発問】 どうしたら、自分のボールを取られないでいられるだろうか。	
	【学習内容】 <運動の技能③>低い姿勢で守備者から遠い方の足でボールをコントロールしながら、周囲の状況を見ること。 ・2人1組鬼、パス&ムーブ、ボールキープ	
	4 シュート	
	【発問】 シュートを決めるためにはゴールの四隅をねらう以外に何が必要か。 A. 相手のタイミングを外すこと。	
	【学習内容】 <運動の技能①>パスをもらってすぐやフェイントを入れるなどして、ゴールの四隅をねらって、シュートすること。	
なか 25分	<p>(1) シュートゲーム 1人キーパーで1人がシュート。シュートを打ったらキーパー交替でキーパーであった選手が攻撃をする。</p>  <p>記録係は点数を数える。 副キャプテンは話合いの司会をする。</p>	<p>○ゴールの四隅をねらうこと、フェイントやもらってすぐ打つとゴールが決めやすくなることを説明する。 ○生徒の様子を見てルールを変える。(ねらうゴールの位置、得点等) ○2人目は1人目がシュートしたゴール以外に打つことを伝える。 ○多く得点するための話合いの時間を設定する。 ○一辺 20mの正方形のコート、キーパーゾーンの半径は3m。中央の円の半径は1m。その中に8球ボールを用意する。 《関心・意欲・態度②》</p>
まとめ 5分	<p>5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。</p> <p>6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶</p>	<p>○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。</p>

<授業者による振り返り>

前回の授業から引き続き、シュートをねらいとした授業内容を行った。今回はゲームの要素を取り入れて行ったこともあり、生徒も意欲的に活動した。また、周囲を見なければならぬ要素もあったため、チーム内での声かけなども自然と生まれよい雰囲気の授業であった。

【本時の展開】（5／16時間）

平成 25 年 9 月 10 日（火） 第 5 校時（13：25～14：15）

（1）ねらい（5～9時間目）

- ①周囲を見ながら、状況に応じたボール操作ができるようにする。
- ②シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。
- ③目標達成の程度の検証と課題を見直すことができるようにする。

（2）本時のねらい

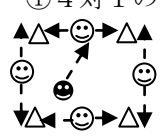
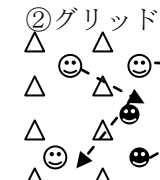
<運動の技能④>シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。（評価：9／16時間）

<関心・意欲・態度④>技能を高めるために、互いに助け合い、高め合おうとすることができるようにする。（評価：8／16時間）

（3）本時の評価

≪関心・意欲・態度①≫サッカーの学習に主体的に取り組もうとしている。【観察・学習ノート】（指導：1／16時間）

（4）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (20分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動（ボール操作等の要素を入れながら） ・2人1組鬼（ボールを使って）、パス（パス&ムーブ）、ボールキープ	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○周囲を見る意識を常に持ってプレイするよう声かけをする。
なか (25分)	4 空間への移動・パス① 【学習内容】 <運動の技能④>コート内のフリーでパスを受けることのできる空間へ移動すること。 （1）パスをもらえる位置への移動 ①4対1のパス回し  手でノーバウンドのパス→手でゴロのパス 【発問】 ノーバウンドでのパスとゴロのパスのどちらが通りにくいか。 A. ゴロのパス	○手でのパスで行いノーバウンドのパスと転がしたパスの違いを説明する。 ○1辺5mの正方形を使う。 ○パスを受けるときはスペースへ移動することが重要であることを説明する。 ○ディフェンスを中心に三角形を作ればよいことを説明する。
	【学習内容】 <関心・意欲・態度④>共通の目標に向けて共に切磋琢磨する仲間を持つことが、自らの運動の継続に有効であること。 （2）空間への移動 ②グリッド内移動&パス（ポゼッションゲーム）  ・4対2、9グリッド ・できるだけ誰もいないグリッドへ移動し、パスを受ける。 10回パスを回す。	≪関心・意欲・態度①≫ ○生徒の様子を見て、守備側の人数を変える。 ○グリッドの広さは1辺15mの正方形とする。 ○5m間隔でマーカーを置く。
まとめ (5分)	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

ボールを持たない時のパスをもらう動きの習得をねらいとした授業であったが、まだどこへ動いたらよいかわからない生徒が多々見受けられる。また、スペースや相手との距離感を意識させるためにマーカーを置いたことが、逆に範囲をわかりにくくしてしまったのが反省点である。

【本時の展開】（6 / 16 時間）

平成 25 年 9 月 13 日（金） 第 2 校時（9 : 50 ~ 10 : 40）

（1）ねらい（5 ~ 9 時間目）

- ①周囲を見ながら、状況に応じたボール操作ができるようにする。
- ②シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。
- ③目標達成の程度の検証と課題を見直すことができるようにする。

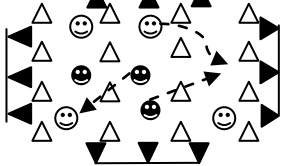
（2）本時のねらい

<運動の技能④>シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。（評価：9 / 16 時間）

（3）本時の評価

《運動の技能①》守備者のタイミングをはずし、守備者のいない所をねらってシュートを打つことができる。（指導：3・4 / 16 時間）【観察】

（4）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ 20分	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動（ボール操作等の要素を入れながら） ・ボールキープ、パス交換（パス&ムーブ）	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○周囲を見る意識を常に持ってプレイするよう声かけをする。
なか 25分	4 空間への移動・パス① 【学習内容】 <運動の技能④>コート内のフリーでパスを受けることのできる空間へ移動すること。 （1）グリッド内移動&パス（ポゼッションゲーム） 【発問】何を見たら、ドリブルやパスのしやすい場所へ移動しやすいか。 A. 相手の位置 （2）空間を利用したゲーム（空間を利用して攻撃） ①攻撃側ゴール4つの4対3  5回パスを回して、近くのゴールにシュートする。得点するかボールアウトで攻守交替する。	○パスをもらうことのできる位置がどのような位置かを説明する。 ○パスコースが複数ある場合はパスが来ないこともあるがパスをもらうために動くことが重要であることを説明する。 ○相手と味方の位置を把握することが大切であることを説明する。 ○生徒の様子を見ながら、空いているグリッドを指示する。 ○ゲームに入っていない時でも、コートの外から空間を常に意識するよう指導する。 ○グリッドの広さは1辺 15mの正方形とする。 ○5m間隔でマーカーを置く。 《運動の技能①》
まとめ 5分	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

パスをもらえる位置に移動しても、パスコースが複数あった場合、パスが来ないこともあるという説明をしたところ、生徒の理解度が深まったように感じた。一方でこちらが設定した活動内容で想定していた動きにならなかったときの対処方法をしっかりと持っておかなくてはならないと感じた。

【本時の展開】（7/16 時間）

平成 25 年 9 月 17 日（火） 第 5 校時（13：25～14：15）

（1）ねらい（5～9 時間目）

- ①周囲を見ながら、状況に応じたボール操作ができるようにする。
- ②シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。
- ③目標達成の程度の検証と課題を見直すことができるようにする。

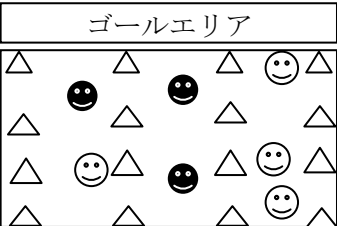
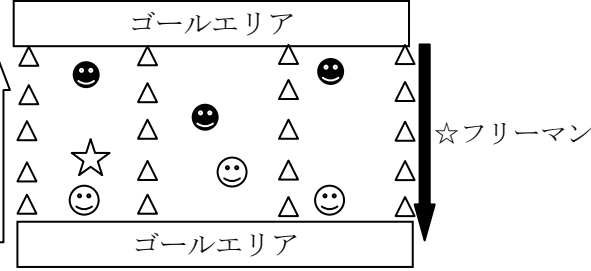
（2）本時のねらい

<運動の技能④>シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。（評価：9/16 時間）

（3）本時の評価

《運動の技能③》守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすることができる。【観察】（指導：4/16 時間）

（4）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (15分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動（ボール操作等の要素を入れながら） ・ボールキープ、パス交換（パス&ムーブ）	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○周囲を見る意識を常に持ってプレイするよう声かけをする。
なか (28分)	4 空間への移動・パス② 【学習内容】 <運動の技能④>ボール保持者よりも前の空間でフリーでパスを受けること。 【発問】攻撃により有効な空間とはどこか。 A. ボール保持者よりも前方 (1) 攻撃方向を意識した 4 対 3  <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールエリアでボールを止めることができたから 1 点となる。 ・点が入るか、ディフェンスが止めたら、攻守交替する。 (2) ゴールエリアを設定した 3 対 3 + 1 フリーマン 	○攻撃に有効なスペースを探すことを意識するよう指導する。 ○前回の 4 対 3 と比べてパスの通りやすさの比較をし、その違いを学習ノートに記入するよう指示する。 ○ディフェンスの基本を説明する。 ○コートのはさは縦 20m×横 25m とする。 ○ゴールエリアの奥行きは 3m とする。 ○攻撃の際、コートを広く使う意識が大切であることを説明する。 ○ゴール、相手、味方の様子を見てドリブル、パス、キープのどれをするかを判断が重要であることを理解できるように声かけをする。 《運動の技能③》
まとめ (7分)	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	○具体的に記入できるよう説明する。 ○体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

攻撃方向を意識させたことと、フリーマンを設定し数的有利な状況を作ったことにより、ボールよりも前方のスペースでボールを受けようとするプレイが出た。また、シュートではなくゴールエリアにボールを運ぶルールにしたことで、前でもらう意識より強くなったように思うが、得点した際の喜びはシュートしてゴールした時と比べると小さかったように感じた。

【本時の展開】（8／16 時間）

平成 25 年 9 月 20 日（金） 第 2 校時（9：50～10：40）

（1）ねらい（5～9 時間目）

- ①周囲を見ながら、状況に応じたボール操作ができるようにする。
- ②シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。
- ③目標達成の程度の検証と課題を見直すことができるようにする。

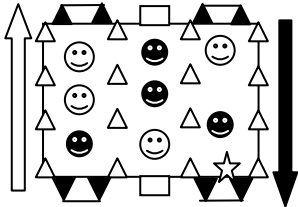
（2）本時のねらい

<運動の技能④>シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。（評価：9／16 時間）

（3）本時の評価

《関心・意欲・態度④》技能を高めるために、互いに助け合い高め合おうとしている。（指導：5／16 時間）【観察・学習ノート】

（4）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ 15分	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動（ボール操作等の要素を入れながら） ・ボールキープ、パス交換（パス&ムーブ）	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○グリッドを使用して、ドリブル、パス、キープ等の要素を入れた準備運動を行わせる。
なか 28分	4 空間への移動・パス② 【学習内容】 <運動の技能④>ボール保持者よりも前の空間でフリーでパスを受けること 【復習】攻撃により有効な空間とはどこか。 【学習内容】 <運動の技能④>パスの優先順位、動きの優先順位に従ってプレイすること。 (1) ゴールを6つの4対4+1フリーマン  ☆・・・フリーマン (2) ゴール2つの4対4+1フリーマン ・リスタートはキックイン ・ゴールキックはスローかパントキックで行う。	○常に周囲の状況を見るよう声かけをする。 ○攻撃に有効な空間を探すことが重要であることを説明する。 ○ディフェンスの基本についての説明をする。 ○どのようにしたらうまく点が取れるか考えられるような声かけをする。 《関心・意欲・態度》 ○マーカーを置いてスペースを可視化する。スペースを意識したゲームを行う。 ○コートのはしは縦 25m、横 40m
まとめ 7分	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	○具体的に記入できるよう説明する。 ○体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

前回の活動をより実践に近づける意味で、ゴールを3つ設置した攻撃側が数的有利のゲームを活動として設定した。これまで3時間の学習もあって、スペースへ移動してパスをもらおうとする意識が生徒の中にも出てきていることが、授業内の生徒の発言等からうかがうことができた。

また、シュートの要素が入ったことによってプレイの選択肢が増えることによる難しさも加わったが、生徒たちは非常に積極的に授業に取り組んでいた。

【本時の展開】（9／16 時間）

平成 25 年 9 月 24 日（火） 第 5 校時（13：25～14：25）

（1）ねらい（5～9 時間目）

- ①周囲を見ながら、状況に応じたボール操作ができるようにする。
- ②シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。
- ③目標達成の程度の検証と課題を見直すことができるようにする。

（2）本時のねらい

＜運動の技能④＞シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができるようにする。（評価：9／16 時間）

＜思考・判断②＞課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直すことができるようにする。（評価：9／16 時間）

（3）本時の評価

＜運動の技能④＞シュートやパスを受けたりするために、味方が作りだした空間に移動することができる。（指導：5～9／16 時間）【観察】

＜思考・判断②＞課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。（指導：9／16 時間）【観察・学習ノート】

（4）展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (15分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○周囲を見る意識を常に持ってプレイするよう声かけをする。
なか (28分)	【学習内容】 <運動の技能④>連携した味方の動きに合わせて空間に移動すること。 4 班別対抗戦 ・5対5 or 6対6 ・交替は自由だが、必ず全員出場する。 ・ポジションを決める。 ・タッチラインを割ったらキックインで再開する。 ・ゴールキックはパントキックで行う。 	○ゲーム前に、ゲームの中で見るべきもの、サッカーの原理原則等を確認するよう声かけをする。 ○今日の試合でのチームの目標を決めるよう促す。 ○今まで学習したことを意識するよう声かけをする。 ○安全に配慮して行えるようにする。 ○コートは縦 25m、横 40m キーパーエリアは半径 3 m とする。 <運動の技能④>
まとめ (7分)	【学習内容】 <思考・判断②>学習ノートやゲーム分析を通して、目標達成の程度の検証と課題を見直すこと。 5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	<思考・判断②> ○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノート、を回収する。

＜授業者による振り返り＞

ボールを持っていない生徒がボールをもらうために、自らスペースを探して動いている様相が見られ、単元最初に行ったゲームの様相との変化が見られた。攻撃についてはねらいが達成できているが、攻撃のレベルを上げるためには、ディフェンス時にボールばかり見て、ボールに集まってしまう状況を変えていく必要があると感じた。

【本時の展開】(10/16 時間)

平成 25 年 9 月 27 日 (金) 第 2 校時 (9 : 50~10 : 40)

(1) ねらい (10~13 時間目)

- ①味方が作りだした空間にパスを送ることができるようにする。
- ②味方が抜かれた際のディフェンスの動きができるようにする。
- ③これまでの学習を踏まえて、目標に応じたチームや自己の課題を設定できるようにする。
- ④課題解決の方法について理解できるようにする。

(2) 本時のねらい

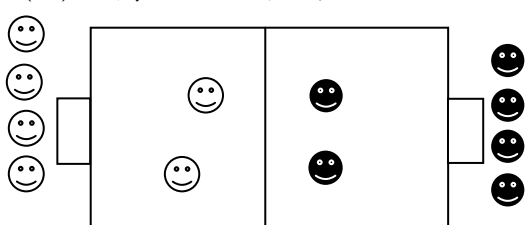
<運動の技能⑤>味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができるようにする。(評価 : 13/16 時間)

<知識・理解②>課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりすることができるようにする。(評価 : 10/16 時間)

(3) 本時の評価

《知識・理解②》課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。【観察・学習ノート】(指導 : 10/16 時間)

(4) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (15分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動(ボール操作等の要素を入れながら) ・4対1、ゲット・ザ・コーン	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○周囲を見る意識を常に持ってプレイするよう声かけをする。
なか (28分)	4 ディフェンスについて 【発問】ディフェンスの一番の目的は何ですか。 A. 点を取られないこと。 【学習内容】 <運動の技能⑤>味方が抜かれた際、素早くボールとゴールを結んだ一直線上にポジショニングすること。 (1) 2対2スタートのゲーム  <ul style="list-style-type: none"> ・失点したら1人追加する。 ・ゴールラインを割ったらメンバーを入れ替える。 ・タッチラインを割ったらキックインで再開する。 	○チャレンジ&カバーを意識するよう伝える。 ○ボール保持者をマークする場合と、ボールを持ってない相手をマークする場合のポイントを説明する。 ○味方同士の連携を意識した守備ができるよう声かけをする。 ○オフENS側には、空間を意識した攻撃をさせる。 ○コートのはさは縦25m×横40mとする。 ○簡単に裏を取られてしまったり、点を決められてしまうチームへの支援を行う。
まとめ (7分)	【学習内容】 <知識・理解②>自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題設定、課題解決の練習方法などの選択と実践、ゲーム等を通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があること。 5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	《知識・理解②》 ○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

ディフェンスの動きを意識した2対2を行い、運動強度が強く途中で生徒が動けなくなってしまうことも心配したが、生徒は積極的に活動した。ポイントの説明に多くの時間を割いてしまったため、活動時間が少なくなってしまうことが反省点である。また、ディフェンスの意識はあるができていない生徒がいるのでフォローアップが必要である。

【本時の展開】(11/16 時間)

平成 25 年 9 月 30 日 (月) 第 4 校時 (11:50~12:40)

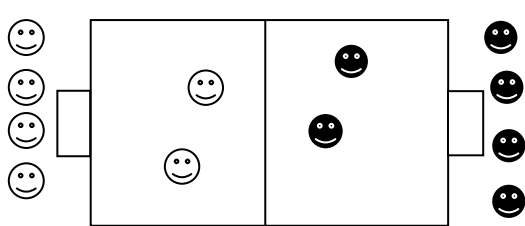
(1) ねらい (10~13 時間目)

- ①味方が作りだした空間にパスを送ることができるようにする。
- ②味方が抜かれた際のディフェンスの動きができるようにする。
- ③これまでの学習を踏まえて、目標に応じたチームや自己の課題を設定できるようにする。
- ④課題解決の方法について理解できるようにする。

(2) 本時のねらい

<運動の技能⑤>味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができるようにする。(評価:13/16 時間)

(3) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (15分)	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動(ボール操作等の要素を入れながら) ・ゲット・ザ・コーン、ミニ2対2 	<ul style="list-style-type: none"> ○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。 ○周囲を見る意識を常に持ってプレイするよう声かけをする。
なか (28分)	<p>4 ディフェンスについて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【発問】前回の授業で数的不利なチームがゴールを決めることができました。なぜでしょうか。</p> </div> <p>A. ディフェンス側が皆ボールだけを見てしまったから</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【学習内容】 <運動の技能⑤>味方が抜かれた際、素早くボールとゴールを結んだ一直線上にポジショニングすること。</p> </div> <p>(1) 2対2スタートのゲーム</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・失点したら1人追加する。 ・ゴールラインを割ったら2人交代 ・攻撃側が1度でもパスを回したら、守備側は自陣まで戻ってディフェンスする。 ・4人のチームからゴールを決めたらリセット 	<ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジ&カバーを意識するよう声をかける。 ○ボール保持者をマークする場合と、ボールを持ってない相手をマークする場合のポイントを説明する。 ○味方同士の連携を意識した守備ができるよう声かけを行う。 ○オフェンス側には、スペースを意識した攻撃をできるように、支援する。 ○コート of 広さは縦 25m×横 40mとする。
まとめ (7分)	<ol style="list-style-type: none"> 5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノート of 記入をする。 6 次回の確認・学習ノート of 提出・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的に記入できるように説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

前回同様ディフェンスについての学習であったが、より実践に近づけていこうとするあまり、活動そのもののルールが複雑になってしまった部分があった。人数の増やし方はこちらでコントロールした方がスムーズであったと反省した。ディフェンスについては前回に比べて、良いプレイが多く見受けられ、チャレンジ&カバーは、人数が少ない状況であれば意識しながらできるようになってきているように感じた。

【本時の展開】(12/16 時間)

平成 25 年 10 月 1 日 (火) 第 5 校時 (13:25~14:15)

(1) ねらい (10~13 時間目)

- ①味方が作りだした空間にパスを送ることができるようにする。
- ②味方が抜かれた際のディフェンスの動きができるようにする。
- ③これまでの学習を踏まえて、目標に応じたチームや自己の課題を設定できるようにする。
- ④課題解決の方法について理解できるようにする。

(2) 本時のねらい

<知識・理解①>攻撃時にねらうべきスペースについて理解できるようにする。

(3) 本時の評価

≪知識・理解①≫攻撃時にねらうべきスペースについて具体例を挙げている。【学習ノート】

(4) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (5分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。
なか (40分)	3 これまでの学習成果の検証 [発問] 2 時間目の試合と 9 時間目の試合で違うと思うことは何か。 A. <u>スペースを意識しながら動くことができている。</u>	○2 時間目と 9 時間目のゲームの映像を見せて、変容を学習ノートに記入するよう指示する。 ○見るポイントを伝える。
	2 シュートを打てるスペースについて A. <u>相手 GK と DF の間の正面のスペース</u> 【学習内容】 <知識・理解①> GK と DF の間のスペース (特にゴール正面) をねらうこと。	
	4 攻撃時にねらうべきスペースについて (1) スペースについての復習 (2) 攻撃時にねらう優先順位の高いスペース ・ GK と DF の間のスペース (特にゴール正面) ・ 中央突破とサイド攻撃について (3) オフサイドについて 5 次回の活動内容について 6 必要となる技能について	○プレゼンテーションソフトと学習ノートを使用しながら、理解を深められるようにする。
まとめ (5分)	7 本時のまとめ ・ 本時の学習を振り返る。 ・ 学習ノートの記入をする。 8 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	≪知識・理解①≫ ○具体的に記入できるよう説明する。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

雨天プログラムでの実施となってしまうが、単元初めのゲームと 9 時間目の中間のゲームの様子を解説を交えながら、生徒達がビデオで見ることによって、自分たちの動きの変容を実感できたようで非常に反応も良かった。生徒達が自分自身の成長を実感できたことによって次回以降の良いモチベーションにもなったと思う。

【本時の展開】(13/16 時間)

平成 25 年 10 月 4 日 (金) 第 2 校時 (9 : 45~10 : 30)

(1) ねらい (10~13 時間目)

- ①味方が作りだした空間にパスを送ることができるようにする。
- ②味方が抜かれた際のディフェンスの動きができるようにする。
- ③これまでの学習を踏まえて、目標に応じたチームや自己の課題を設定できるようにする。
- ④課題解決の方法について理解できるようにする。

(2) 本時のねらい

<運動の技能②>味方が作りだした空間にパスを送ることができるようにする。(評価 : 14/16 時間)

<思考・判断①>これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定することができるようにする。(評価 13/16 時間)

(3) 本時の評価

《運動の技能⑤》味方が抜かれた際に、攻撃者を止めるためのカバーの動きをすることができる。【観察】(指導 : 10・11/16 時間)

《思考・判断①》これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。【学習ノート】(指導 13/16 時間)

(4) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (15分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 準備運動	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。
なか (25分)	4 空間への移動・パス③ 【学習内容】 <運動の技能②>味方の動きを見て、味方が移動する空間へタイミングよくパスをすること。 (1) シュートゾーンを設定した 5 対 5 のゲーム  ①シュートゾーンからのみシュートを打てる。 ②攻撃側はボールが侵入ラインを超えなければ、シュートゾーンに入れない。 ③攻撃側がシュートゾーンにいる状態でボールが侵入ラインを超えたらオフサイドとする。 ④守備側は攻撃側がシュートゾーンに入っていたらシュートゾーンに入ることができる。	○最初は、攻守交替制で手のボール操作で動きを行ってから、足での操作、オールコートに移行する。 ○オフサイドについての復習をする。 ○攻撃時に目指すスペースについての説明をする。 ○ゴール前の決定的なスペースを陥れるにはどのようなことが必要か考えられるような声かけをする。 《運動の技能⑤》
	【学習内容】 <思考・判断①>学習ノートの記述等からチームの目標に応じた自己の課題を設定すること。	
まとめ (5分)	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	《思考・判断①》 ○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

技術的に少し難しい活動内容であったが、生徒たちは自発的にチームで作戦会議をする等、コミュニケーションをとりながら課題を解決していこうとする姿勢が見られた。ここに来て、チーム内での声かけの量が多くなってきたように感じる。

【本時の展開】(14/16 時間)

平成 25 年 10 月 7 日 (月) 第 4 校時 (11:50~12:40)

(1) ねらい (14~16 時間目)

- ①空間への侵入や空間を埋めるなど、チームで連携した動きを生かしたゲームを展開できるようにする。
- ②合意形成のために必要な態度や調整の仕方を見付けられるようにする。
- ③サッカーを生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けられるようにする。

(2) 本時のねらい

<関心・意欲・態度③>合意形成に貢献しようとするができるようにする。(評価:16/16 時間)

<知識・理解③>競技会の仕方を理解できるようにする。(評価:14/16 時間)

(3) 本時の評価

《運動の技能②》味方が作りだした空間にパスを送ることができる。【観察】(指導:13/16 時間)

《知識・理解③》競技会の仕方について、言ったり書き出したりしている。【観察・学習ノート】(指導:14/16 時間)

(4) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (5分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。
なか (37分)	3 試合の形式についての話し合い 【学習内容】 <関心・意欲・態度③>相手の感情を尊重しながら発言したり、提案者の発言を尊重したり、建設的な修正意見を提案しながら話し合いを進めることが大切であること。 ・自分の考えを学習ノートに書いた後、チーム内での話し合いで発表する。 ・チームでまとまった意見を全体の前で発表する。 4 空間への移動・パス④ (1) 班別対抗戦 【発問】ゲームの中で見るべきものは何か。 A. ボール、ゴール、相手、味方、スペース 【学習内容】 <知識・理解③>運営の仕方や役割に応じた行動の仕方 ・交替は自由だが、必ず全員出場する。 ・タッチラインを割ったらキックインで再開する。 ・ゴールキックはパントキックかスローでよい。 ・ジャッジはセルフジャッジを行う。 ・6人対6人(人数の少ないチームに合わせる) ・簡易オフサイドの適用	○グループの全員が発言できるよう配慮する。 ○合意形成の場面が活性化するよう、合意形成を図るテーマや内容を明確にする。 ○今まで学習してきたことを確認し、それを意識しながらゲームができるようにする。 《運動の技能②》 ○コートのはさは縦25m×横40m、キーパーゾーン半径3mとする。 ○今までの学習で意識してきた、周囲を見ることが、空間を意識するよう伝える。
まとめ (8分)	5 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 6 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	《知識・理解③》 ○試合結果やチームでの反省や目標を記入するよう指示する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

簡易オフサイドを設定し、プレイするスペースが狭くなってしまったことにより、パスがなかなか通りにくい状況になってしまっていたがその中でも工夫しながらゲームを展開していた。

【本時の展開】(15/16 時間)

平成 25 年 10 月 8 日 (火) 第 5 校時 (13:25~14:15)

(1) ねらい (14~16 時間目)

- ①空間への侵入や空間を埋めるなど、チームで連携した動きを生かしたゲームを展開できるようにする。
- ②合意形成のために必要な態度や調整の仕方を見付けられるようにする。
- ③サッカーを生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けられるようにする。

(2) 本時のねらい

<思考・判断③>作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための調整の仕方を見付けることができるようにする。(評価:15/16 時間)

(3) 本時の評価

《思考・判断③》作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための調整の仕方を見付けている。(観察・学習ノート) (指導:15/16 時間)

(4) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (7分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 前時までの成績発表	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。
なか (35分)	4 今日の試合についての作戦会議 ・スペースを使って攻めていくためにどのようなことを意識していくかを考える。	○スペースを意識した攻防を展開するために個人として意識することを学習ノートに記入するよう指示する。
	【学習内容】 <思考・判断③>話し合いの場面では、相手の意見を途中で遮らず最後まで聴くこと。必ず全員が発言すること。	
	5 空間への移動・パス④ (1) 班別対抗戦 ・交替は自由だが、必ず全員出場する。 ・ポジションを決める。 ・タッチラインを割ったらキックインで再開。 ・ゴールキックはパントキックかスローでもよい。 ・ジャッジはセルフジャッジを行う。 ・6対6 (欠席・見学者がいる場合は人数の少ないチームに合わせる。) ・簡易オフサイドの適用	○今まで学習してきたことを確認し、それを意識しながらゲームができるようにする。 《思考・判断③》 ○グループの全員が発言できるよう配慮する。 ○合意形成の場面が活性化するよう、合意形成を図るテーマや内容を明確にする。 ○これまでの学習で意識してきた、周囲を見ることと、空間を意識するよう伝える。 ○コートのはりさは縦 25m×横 40m、キーパーゾーン半径 3mとする。
まとめ (8分)	6 本時のまとめ ・本時の学習を振り返る。 ・学習ノートの記入をする。 7 次回の確認・学習ノートの提出・挨拶	○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

オフサイドのルールを軽くしたことにより前回よりもスペースを活用しやすくなっていたように見えた。前回よりもよりスペースについての課題や目標を意識させたことも効果があったように思われる。

【本時の展開】(16/16 時間)

平成 25 年 10 月 11 日 (金) 第 2 校時 (9 : 50~10 : 40)

(1) ねらい (14~16 時間目)

- ①空間への侵入や空間を埋めるなど、チームで連携した動きを生かしたゲームを展開できるようにする。
- ②合意形成のために必要な態度や調整の仕方を見付けられるようにする。
- ③サッカーを生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けられるようにする。

(2) 本時のねらい

<思考・判断④>球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けることができるようにする。(評価：16/16 時間)

(3) 本時の評価

《関心・意欲・態度③》合意形成に貢献しようとしている。【観察】(指導：14/16 時間)

《思考・判断④》球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。【学習ノート】(指導：16/16 時間)

(4) 展開

時間	学習内容と活動	教師の指導・手だてと評価
はじめ (10分)	1 集合、挨拶、出欠確認、健康観察 ・キャプテンはチームの出欠を報告する。 2 本時の学習内容確認 3 前時までの成績発表	○チームごとに並べ、挨拶をし、出欠の報告を受ける。 ○本時の内容を説明する。
なか (30分)	4 今日の試合についての作戦会議 ・スペースを使って攻めていくためにどのようなことを意識していくかを考える。 5 空間への移動・パス④ (1) 班別対抗戦 ・交替は自由だが、必ず全員出場する。 ・ポジションを決める。 ・タッチラインを割ったらキックインで再開する。 ・ゴールキックはパントキックかスローでもよい。 ・ジャッジはセルフジャッジを行う。 ・6人対6人 ・簡易オフサイドの適用	○スペースを意識した攻防を展開するために個人として意識することを学習ノートに記入するよう指示する。 ○グループの全員が発言できるよう配慮する。 ○合意形成の場面が活性化するように、合意形成を図るテーマや内容を明確にする。 《関心・意欲・態度③》 ○今まで学習してきたことを確認し、それを意識しながらゲームができるようにする。 ○今までの学習で意識してきた、周囲を見ることが、空間を意識するよう声かけをする。 ○コートのはりさは縦 25m×横 40m、キーパーゾーン半径 3 m
まとめ (10分)	6 生涯スポーツとしてのサッカー 【学習内容】 <思考・判断④>スポーツを「する」だけでなく「見る」「支える」ということも生涯スポーツであること。	《思考・判断④》 ○具体的に記入できるよう説明する。 ○けが人、体調不良者の有無を確認する。 ○次回の授業内容を伝える。 ○学習ノートを回収する。

<授業者による振り返り>

16 時間の中で最も動きの活発なゲームの様相となっていた。また、セルフジャッジでゲームを行ったが、最後までフェアプレイの姿勢を崩すことなく試合を行っていたことはとてもよかった。チーム内のコミュニケーションも活発になっており、指示の声や味方を励ます声も多く、受けた側もしっかりとそれに応えていた。

4 検証に係る結果と考察

(1) 段階的な学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。

研究の主題に迫るため、検証授業から得られたデータを基に、設定した分析の視点に沿って分析し、考察した。なお、分析・考察を進める上で、文中に使用した図表の生徒数については表3-1のとおりである。また、文中の生徒の記述内容については、できる限り生徒が記述したまま載せることにした。

表3-1 文中に使用した図表の生徒数及び各時間に行った活動

時間	2	5	6	7	8	12	13	15
生徒数	24名	24名	24名	24名	22名	23名	23名	24名
活動	6対6のゲーム	「つなぐ」段階		「進める」段階		「シュートする」段階		6対6のゲーム
		4対2		3対3+1	4対4+1	シュートするための学習についての講義	シュートエリアを設定した5対5	

※事前及び事後アンケート24名

ア つなぐための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。

(ア) 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。

a 学習ノート分析

図3-1は6時間目の学習ノート「ゲームの中でボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイすることができたか。」の回答である。「できた」「どちらかというときできた」と回答した生徒の割合は、87.5%であった。

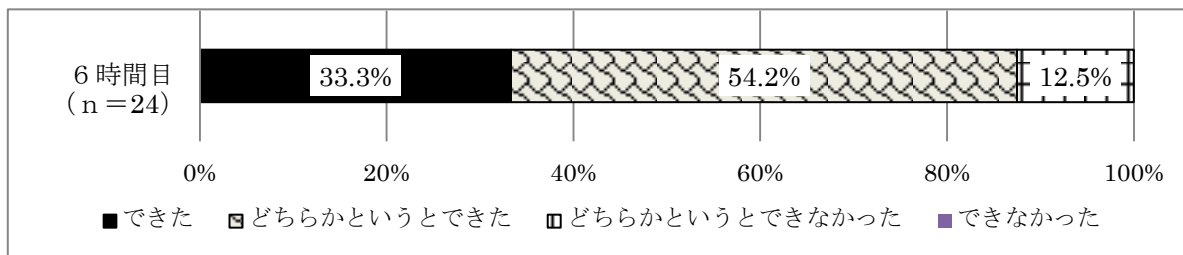


図3-1 学習ノート「ゲームの中で、ボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイすることができたか。」の回答（6時間目）

図3-2は6時間目の学習ノート「パスを受けることのできる位置について理解することができましたか。」の回答である。「できた」「どちらかというときできた」と回答した生徒の割合は、79.2%であった。

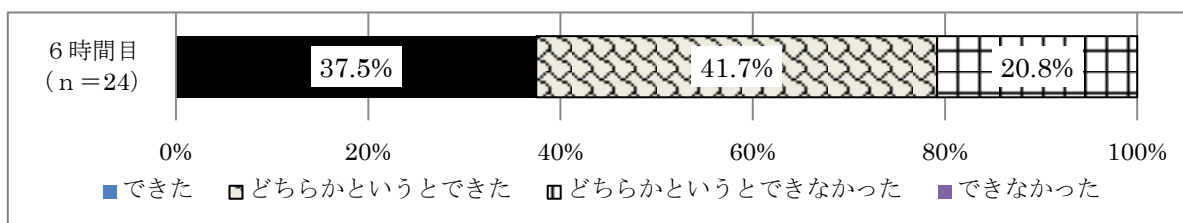


図3-2 学習ノート「パスを受けることのできる位置について理解できたか。」の回答（6時間目）

図3-3は、5・6時間目の学習ノート「今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。」の記述で「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたと判断できた生徒と理解できたと判断できなかった生徒の割合である。記述内容の判断・分類は、筆者と2名のサッカー経験25年以上の体育センター所員の計3名で行った※1。(※1 自由記述の判断・分類は以下同様に行った)なお、表3-2が分類結果(抜粋)である。

つなぐための段階で「何を見るか」または「どこへ動くか」を「理解することができた」と判断できた生徒は、87.5%であった。

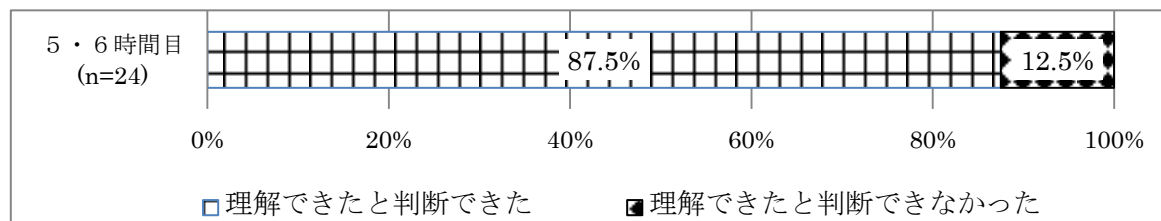


図3-3 「何を見るか」「どこへ動くか」の理解について学習ノートの記述内容から分類した生徒の割合(5・6時間目)

表3-2 理解に係る学習ノートの記述内容による分類(5・6時間目)(抜粋)

「理解できた」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースでパスをもらうためにオフザボールの人は味方がパスを出しやすい所に動く。 ・パスをもらえる位置がよくわかった。 ・ボールと味方の間に敵がいたら出せない。 ・自分が動いて味方のパスをもらうことが大事だと分かった。
「理解できた」と判断できなかった記述	<ul style="list-style-type: none"> ・まだドリブルがむずかしい ・どこに行けばいいかわからなくて、ちょこちょこしてた。

(ア) 『何を見るか』『どこへ動くか』を理解できたか。』についての考察

5・6時間目では、見るべきものを「ボール」「味方」「相手」とし、生徒がボール保持者と自分の間に相手がない場所への動きが理解できるように学習を進めた。

「ゲームの中で、周囲の状況を見ながらプレイすることができましたか。」では、肯定的な回答をした生徒の割合が87.5%(図3-1)であったことから、「ボール」だけではなく、「味方」「相手」を含めた周囲の状況を見る意識をほとんどの生徒が持っていたのではないかと考えられる。

「パスを受けることができる位置について理解することができましたか。(6時間目)」(図3-2)では、「できた」「どちらかというのできた」の肯定的な回答をした生徒の割合が79.2%であり、周囲の状況を見ること(図3-1)に比べ、肯定的な回答をした生徒の割合は低かった。そこで、否定的な回答をした生徒の記述を見たところ、「4:3だと攻めにくい。」等の記述があった。生徒にとっては、6時間目で行った4対2に加えて行った4対3の活動が難しく、パスを受けることができなかったため、パスを受ける位置が理解できていないと感じていたのではないかと考えられる。

学習ノートの「今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。」の記述で「何を見るか」または「どこへ動くか」を理解できたと判断できた記述は87.5%(図3-3)であった。授業者の意図が、ほとんどの生徒には伝わり、「何を見るか」「どこへ動くか」については、概ね理解できたものとする。一方で、ボールを持たないときの動きと同様に、技能として必要なボール操作について、記述していた生徒や、どこへ動いたらよいかわからないといった記述をしていた生徒もいた。

(イ) フリーでパスを受ける動きができたか。

a VTR分析

フリーでパスを受ける動きができたかを検証するため、4対2のパス回しのVTR分析を行った。VTR分析は筆者が行い、味方がパスを受けた際に、自分とボール保持者の間に相手がいない位置への動きの出現数をカウントした。

図3-4は、6時間目に行った4対2のパス回しのオフense時における1分間あたりのフリーで、パスを受ける動きの出現数毎の人数分布である。

2.0~3.9回の生徒が最も多く10名であった。また、10回以上の動きが出現した生徒は2名いた。一方、出現数が0であった生徒が1名いた。

また、6時間目に行った「4対2のパス回し」における1分間の1人あたりのフリーでパスを受ける動きの平均出現数は、4.28回（標準偏差2.85）であった（図3-5）。

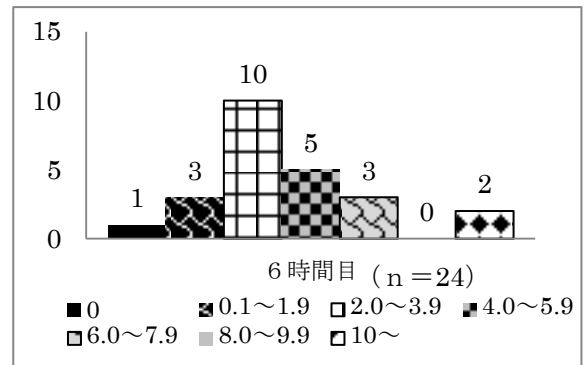


図3-4 VTR分析 4対2における1分間あたりのフリーでパスを受ける動きの出現数毎の人数分布(6時間目)

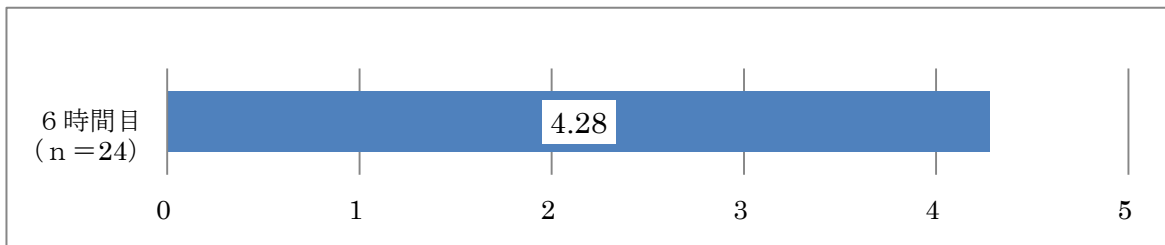


図3-5 VTR分析 4対2における1分間の1人あたりのフリーでパスを受ける動きの平均出現数(6時間目)

b 学習ノート分析

図3-6は6時間目の学習ノート「ゲームの中で、味方からフリーの状態でパスを受けることのできるスペースへ移動することができましたか。」の回答である。「できた」「どちらかというとできた」と回答した生徒は79.1%であった。

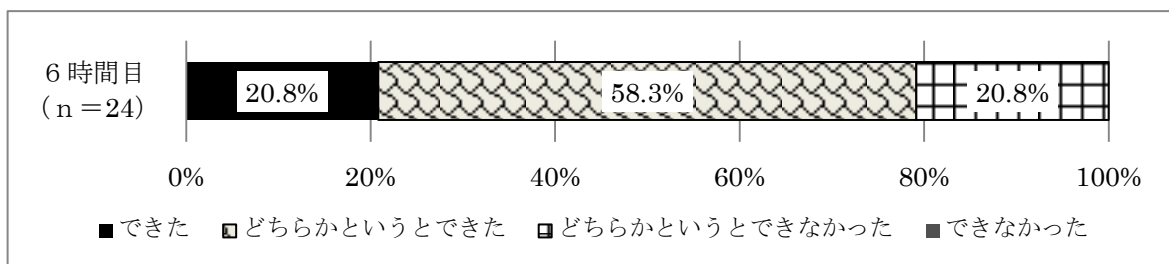


図3-6 学習ノート「フリーの状態でパスを受けることができるスペースへ移動できたか。」の回答(6時間目)

図3-7は5・6時間目の学習ノート「今日の授業で新たにできるようになったことを書きましょう」の記述から、①「フリーでパスを受けることができた」と判断できた生徒、②「見ることができた」と判断できた生徒、③いずれとも判断がつかなかった生徒の3つに分類し、割合を示したグラフである。なお、表3-3が分類結果(抜粋)である。(P.42※1参照) テーマ「『何を見るか』『どこへ動くか』を理解し、・・・」を踏まえ、「動きができた」の記述に加え、「見ることができた」の記述についても分類し、グラフに示した。(①「フリーでパスを受ける動き」と②「見ること」の両方ができた生徒については、「フリーでパスを受ける動きができた」に含めた。※2以降、自由記述の分類については、複数の記述

のある生徒については、少ない数値のカテゴリーに含めることとした。)

5・6時間目で「フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた生徒は54.2%であった。

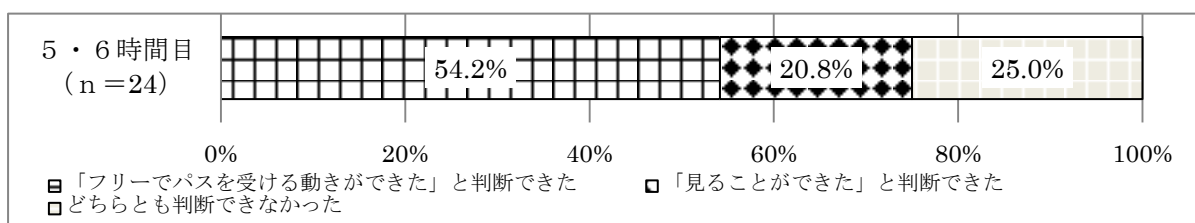


図3-7 学習ノートの記述内容から分類した生徒の割合（5・6時間目）

表3-3 動きに係る学習ノートの記述内容による分類（5・6時間目）（抜粋）

「フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から動いてパスをもらうことがちよっぴりできた。 ・ボールをもらう時にパスを受けやすいところに動く。 ・パスが受けれるように工夫した。
「見ることができた」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・周りを見て、パスをできた。 ・フリーな人を見付けられた。 ・スペースをみつける。
いずれとも判断できなかった記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょこちょこ動けたけど、走りまわるだけになってしまった。 ・ディフェンスの時、積極的に自分からボールを取りに行けた。

(イ) 「フリーでパスを受ける動きができたか。」についての考察

24名中23名の生徒が、授業の中で、フリーでパスを受ける動きが1回以上出現していた。(図3-4)。0回であった生徒においても5時間目のVTRを見ると、フリーでパスを受ける動きが出現していた。このことから、5・6時間目で、すべての生徒が、フリーでパスを受ける動きが出現した(図3-4)。また、フリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均回数は4.28回であった(図3-5)。(10回パスを回すに約40秒かかることを考えると、10回パスを回すまでに2回以上は動きが出現することになる。)

学習ノートの「ゲームの中で、味方からフリーの状態でパスを受けることのできるスペースへ移動することができましたか。」では、79.1%の生徒が肯定的な回答をした(図3-6)。

これらのことから、実際の動きの出現と、「動きができたか」の自己評価は、一致しない可能性があり、その原因としては、動きの出現頻度などが考えられる。

学習ノート「今日の授業で新たにできるようになったことを書きましょう。」の記述で、「フリーでパスを受けることができた」「見ることができた」のどちらとも判断できなかった生徒が25%いた(図3-7)が、「自分の思っている位置に蹴られるようになった。」「パスの精度がはじめの方よりもあがった。」等、ボール操作に関する記述をしている生徒が多かった。5・6時間目には、実際、ボール操作についても指導しており、生徒自身がフリーでパスを受ける動きよりも、ボール操作にできた手ごたえを感じたことによって、学習ノートに書こうとした優先順位が高くなったことが要因として考えられる。

また、フリーでパスを受ける動きをするために必要な「周囲を見ること」について、25%の生徒が記述した。「見るべきもの」を理解させたことによって、見ることができたことを一番の成果と感じた生徒もいたと考えられる。

ア 「つなぐための学習で、説明と条件付けられたゲームによって『何を見るか』『どこへ動くか』を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。」についてのまとめ

以上のように分析した結果、次のようなことが明らかになった。

○9割弱の生徒が、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解することができた。

○すべての生徒がフリーでパスを受けるための動きをすることができた。

このことから、つなぐための学習によって、ほとんどの生徒が「何を見るか」「どこへ動くか」を理解したことが確認でき、また、フリーでパスを受ける動きが全ての生徒において確認できたことから、説明と条件付けられたゲームは、概ね妥当であったと考えられる。

イ 進めるための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。

(ア) 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。

a 学習ノート分析

図3-8は8時間目の学習ノート「ゲームの中で、ボールを持っていないとき、周囲の状況を見ながらプレイすることができましたか。」の回答である。「できた」「どちらかというのできた」と回答した生徒は86.3%であった。

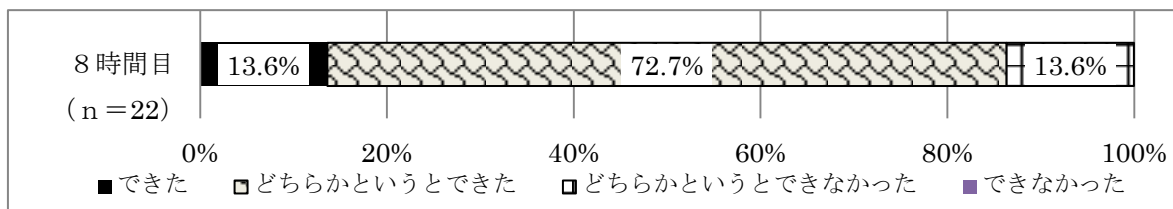


図3-8 学習ノート「ゲームの中で、ボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイすることができましたか。」の回答（8時間目）

図3-9は、7時間目の学習ノート「今日の授業でうまくいったこと・よかったこと」、8時間目の学習ノート「今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。」の記述から、①「進める段階での理解」と判断できた生徒、②「つなぐ段階の理解」と判断できた生徒、③いずれの記述とも判断できなかった生徒の3つに分類した結果である。なお、表3-4が分類結果（抜粋）である。（P.42※1、P.43※2参照）

「進める段階のフリーでパスを受ける動きの理解」と判断できた生徒の割合は、58.3%であった。「つなぐ段階での理解」と判断できた生徒は25%、理解できたと判断できなかった生徒は16.7%であった。

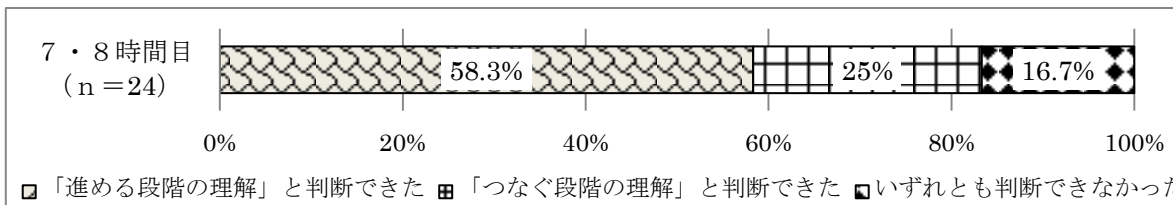


図3-9 学習ノートの記述内容から分類した生徒の割合（7・8時間目）

表3-4 理解に係る学習ノートの記述内容による分類（7・8時間目）（抜粋）

「進める段階の理解」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ディフェンスの人の後ろでボールをもらう。 ・周りを見る。相手の背後に回る。 ・スペースに移動するとき迷ってしまう。ゴールに一直進大事。 ・近すぎるなどと思ったら離れる。遠すぎたら近づく。これ大事。 ・ルックアップを心がける。 ・まわりの状況を見てプレーすることができた。
「つなぐ段階の理解」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人の動きの大切さ。動いてくれないとパス出せないから厳しい。 ・味方の位置を把握する。
いずれの記述とも判断できなかった記述	<ul style="list-style-type: none"> ・よくわからない言葉ばっかだし、何をどうやるのかイマイチわからなかった。 ・みんな攻守の切り替えが遅かったから、声をかけあいたい。 ・とってもむずかしかった。

(ア) 『何を見るか』『どこへ動くか』を理解できたか。』についての考察

7・8時間目の、「見るべきもの」を「ボール」「味方」「相手」「スペース」とし、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きが理解できるよう学習を進めた。

学習ノートの「ゲームの中で、ボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイできましたか。」(図3-8)では、肯定的な回答をした生徒が86.3%であった。6時間目(図3-1)の87.5%に比べ、増えていないが、「見るべきもの」としての「スペース」が新たに加わったことが影響しているかもしれない。

また一方で、否定的な回答をした生徒の自由記述には、「とてもむずかしかった」等の記述があり、実際に攻守が入り混じった中で、周囲を見たり、スペースに動いたりすることの難しさを感じている様子をうかがうことができる。

7時間目の学習ノート「今日の授業でうまくいったこと・よかったこと」、8時間目の学習ノート「今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。」の記述から、「進める段階での理解」ができたと判断できなかった生徒が41.7%いた(図3-9)。

これは、「スペース」という見るべきものが追加されるとともに、ボール保持者よりも前方でパスをもらうという動きの条件の厳しさなどが、原因として考えられる。一方で、直接的には、指導していないが、攻守の切り替えや、声かけについての、ゲームで必要となることならについての記述も見られた。

(イ) フリーでパスを受ける動きができたか。

a VTR分析

フリーでパスを受ける動きができたかどうかを検証するため、8時間目で行った活動のVTR分析を行った。

VTR分析は、筆者が行い、味方がボールをコントロールした際に、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きの出現数をカウントした。

図3-10は8時間目の4対4+1フリーマンにおいて、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受けようとする1分間(攻守両方含む)

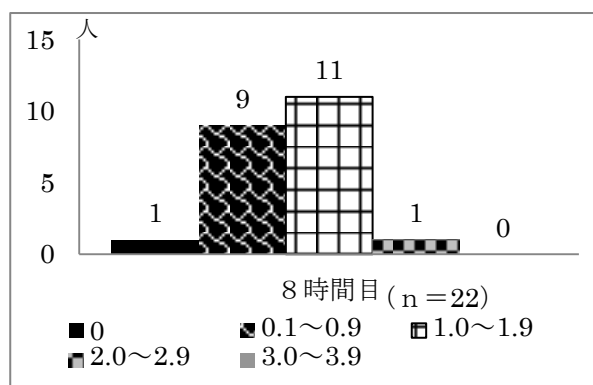


図3-10 VTR分析 ボール保持者より前方の空間で、フリーでパスを受けようとする1分間あたりの動きの出現数毎の人数分布(8時間目)

あたりの動きの出現数の回数ごとの人数分布である。

1.0回～1.9回が11名、0.1回～0.9回が9名、2.0回～2.9回と0回が各1名であった。

また、8時間目に行った「4対4+1フリーマン」における、1分間あたりのボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きの平均出現数は、0.9回/人（標準偏差0.51）であった。（図3-11）

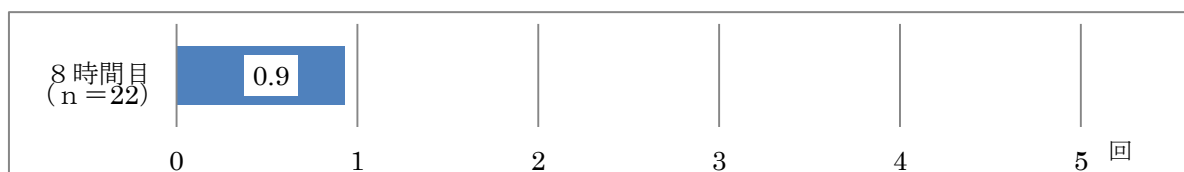


図3-11 ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きの出現数（1人あたりの平均）（8時間目）

図3-12は8時間目学習ノート「ゲームの中で、フリーの状態でパスを受けることができるボール保持者よりも前方のスペースへ移動することができましたか。」の回答である。「できた」・「どちらかというときできた」と回答した生徒は、8時間目では63.6%であった。

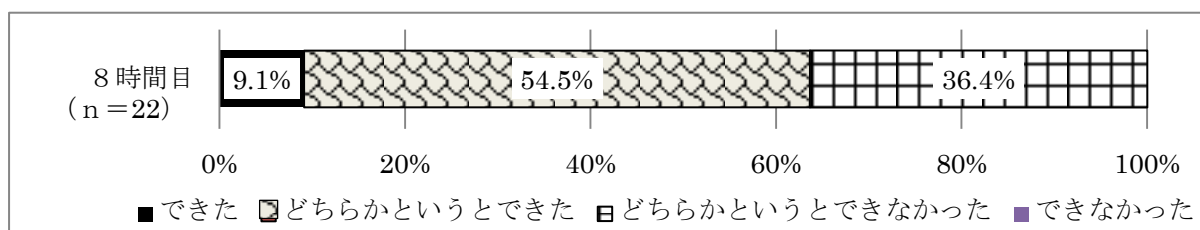


図3-12 学習ノート「ゲームの中で、フリーでパスを受けることができるボール保持者よりも前方のスペースへ移動できたか。」の回答（8時間目）

図3-13は、7・8時間目の学習ノート「今日の授業で新たにできるようになったことを書きましょう。」の記述から、①「進めるための空間（ボール保持者よりも前方の空間）でパスを受ける動きができた」と判断できた生徒、②「つなぐための空間でパスを受ける動きができた」と判断できた生徒、③「見ることができた」と判断できた生徒、④いずれの記述とも判断できなかった生徒の4つに分類し、割合を示したグラフである。なお、表3-5が分類結果（抜粋）である。（P.42※1、P.43※2参照）また生徒の記述の中に出てくる「スペース」については、ボール保持者よりも前方のスペースと判断した。

7・8時間目において、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた生徒は50%、ボール保持者の横や後ろにパスコースを作って、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた生徒は8.3%であった。

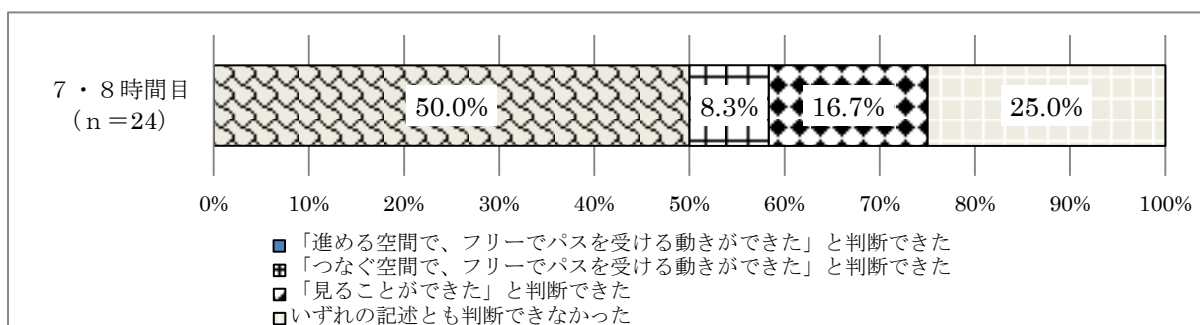


図3-13 学習ノートの記述内容から分類した生徒の割合（7・8時間目）

表3-5 動きに係る学習ノートの記述内容による分類（7・8時間目）（抜粋）

「進めるための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の背後に回る ・ムーブがうまくいったし、スムーズになった。 ・ゲームでスペースに動いてパスがもらえた ・スペースに動けるようになった。
「つなぐための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール持っていない時に動けたからパスをもらえた。 ・パスを回す時に相手のところに行くことができました。
「見ることができた」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけてゴールを目指すことができた。 ・周りを見れた。
いずれの記述とも判断できなかった記述	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧なパスを出す。 ・声を出して指示をする。 ・ボールを持った時に少し落ち着けるようになった。

(イ) 「フリーでパスを受ける動きができたか。」についての考察

8時間目のVTR分析では、22名中21名の生徒が、活動の中で1回はボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きが出現していた（図3-10）。0回であった1名は、自陣の深い位置で、主にパスの出し手やディフェンスとしてプレイをしていたため、0回であったと考えられる。また、この生徒においても7時間目ではボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きが出現していた。このことから、7・8時間目で、全ての生徒が、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きが出現した。

ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数は0.9回であった（図3-11）。「つなぐ」ためのパスを受ける動きと比較し、攻撃方向を意識し、相手と攻守が入り交じった状況で、「進める」ためのフリーでパスを受ける動きの難しさがあるのではないかと考えられる。

学習ノート「ゲームの中で、フリーでパスを受けることのできるボール保持者よりも前方のスペースへ移動することができましたか。」では36.4%の生徒が「どちらかというのできなかった」と回答した（図3-12）。VTR分析では22名中21名の生徒が、フリーでパスを受ける動きが出現したにも関わらず、このような結果になったのは、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きはできているが、パスが通らなかったこと等により、フリーでパスを受ける動きができていないと判断したのではないかと考えられる。学習活動は、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きを出現させるのに効果的であったと考えられるが、生徒ができたことをより実感できるような工夫が必要であったと考える。

7・8時間目の学習ノート「今日の授業で新たにできるようになったことを書きましよう。」の記述で、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きができた判断できた生徒は50.0%であった（図3-13）。いずれの記述とも判断できなかった生徒は、主にボール操作についての記述がなされていた。ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きができたかどうかの判断はできないが、ボール操作についてより強くできた実感し、記述する優先順位が高かったのではないかと考える。

イ 「進めるための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、『何を見るか』『どこへ動くか』を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。」についてのまとめ

以上のように分析した結果、以下のことが明らかになった。

○5割強の生徒がボール保持者よりも前方の空間でパスを受けるために「何を見るか」「どこへ動くか」を理解することができた。

○すべての生徒がボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きができた。

このことから、進めるための学習によって、「何を見るか」「どこへ動くか」の理解については、全員の確認はできなかったが、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きについては、全ての生徒において確認できたので、説明と条件付けられたゲームは、概ね妥当であったと考えられる。

ウ シュートするための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。

(ア) 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。

a 学習ノート分析

図3-14は13時間目の学習ノート「ゲームの中で、ボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイできましたか。」の回答である。「できた」「どちらかというときできた」と回答した生徒は82.6%であった。

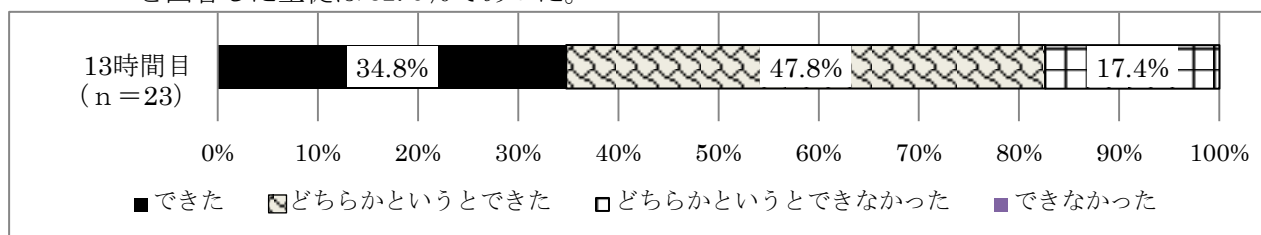


図3-14 学習ノート「ゲームの中で、ボールを持っていない時、周囲の状況を見てプレイできたか。」の回答（13時間目）

図3-15は12・13時間目の学習ノート「今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましよう。」の記述から、①「シュートする段階での理解」と判断できた生徒、②「進める段階での理解」と判断できた生徒、③「つなぐ段階での理解」と判断できた生徒、④いずれの理解とも判断できなかった生徒の4つに分類した結果である。なお、表3-6が分類結果（抜粋）である。（P.42※1、P.43※2参照）

「シュートする」段階の理解と判断できた生徒が69.6%、「進める」段階の理解と判断できた生徒が8.7%、「つなぐ」段階の理解と判断できた生徒が4.3%、理解できたと判断できなかった生徒が17.4%であった。

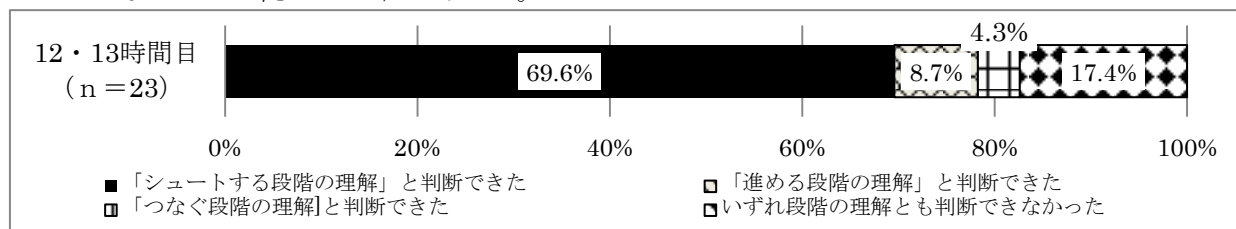


図3-15 学習ノートの記述内容から分類した生徒の割合（12・13時間目）

表3-6 「理解に係る学習ノートの記述内容による分類（12・13時間目）」（抜粋）

「シュートするための段階の理解」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・GKとDFの間にパスを出してシュートしやすくなる。 ・攻撃時に有効なスペースについて。 ・いかにスペースを有効活用して点につなげるか。シュートが入りやすいスペースなど。 ・オフサイドにならない攻め方。 ・中央突破よりも、サイドから行って、ゴール正面に行く方がいい。 ・オフサイドにならないためにどう動いたらよいか。 ・ボールを受ける人と出す人が互いに同じことを考えてないといけない。
「進める段階の理解」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースが結構あいていた。 ・実際に自分達のゲームを見て、スペースの使い方などが上達してきているのがわかった。 ・攻撃する時にどこのスペースに動けばいいかわかった。ビデオ見た時に、自分が動いてないのがよくわかった。
「つなぐ段階の理解」と判断できた記述	パスを待つのではなく自分から行動するようにする。
いずれの記述とも判断できなかった記述	<p>学びました。サッカーのルールってむずかしい。</p> <p>上からの映像を見て、自分の動きや良くしなきゃいけない所がよくわかった。</p>

（ア）『何を見るか』『どこへ動くか』を理解できたか。』についての考察

12・13時間目では、見るべきものを「ボール」「味方」「相手」「スペース」「ゴール」の5つとし、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きが理解できるよう学習を進めた。13時間目の学習ノート「ボールを持っていない時、周囲の状況を見ながらプレイすることができましたか。」では82.6%の生徒が肯定的な回答をした（図3-14）。6時間目の87.5%（図3-1）、8時間目の86.3%（図3-8）と比べても増えてはいない。「見るべきもの」としての「ゴール」が新たに加わったことが影響しているかもしれない。

12・13時間目の学習ノート「今日の授業で新たにわかったことや理解できたことを書きましょう。」で「シュートする段階の理解」ができたと判断できた生徒は69.6%であった（図3-15）。

12時間目の授業でプレゼンテーションソフトを活用し、攻撃時にねらうべき空間の優先順位や相手DFとGKの間の空間でパスを受ける動きの学習を行ったことが効果的であったと考える。

（イ）フリーでパスを受ける動きができたか。

a VTR分析

相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きができたかどうかを検証するため、13時間目の活動のVTR分析を行った。

VTR分析は筆者が行い、味方がボールをコントロールした際に、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きの出現数をカウントした。

図3-16は13時間目のシュートエリアを設定した5対5のゲームで相手DFとGKの間で、フリーでパスを受ける動きの1分間あたり（攻守を含む）の出現数ごとの人数分布である。

14名の生徒が、相手DFとGKの間の

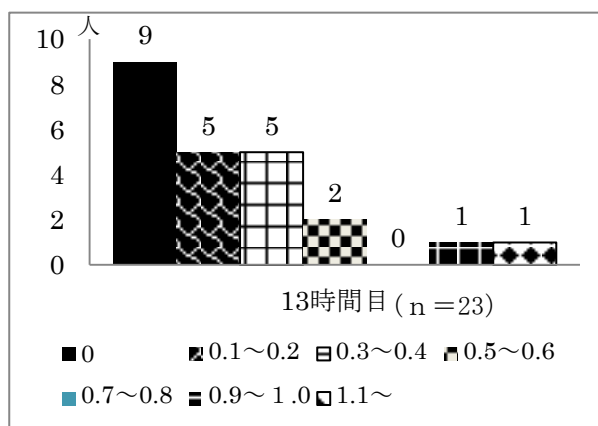


図3-16 VTR分析 相手DFとGKの空間で、フリーでパスを受ける動きの1分間あたりの出現数毎の人数分布(13時間目)

空間で、フリーでパスを受ける動きが出現したが、9名の生徒は出現しなかった。

また、13時間目に行った「5対5のゲーム」における、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数は、0.26回（標準偏差0.30）であった。（図3-17）



図3-17 相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受けようとする1分間あたりの出現数（1人あたりの平均）（13時間目）

図3-18は13時間目の学習ノート「ゲームの中で、フリーの状態でパスを受けることのできるシュートが打つことのできるスペースへ移動することができましたか。」の回答である。「できた」「どちらかというときできた」と回答した生徒は78.2%であった。

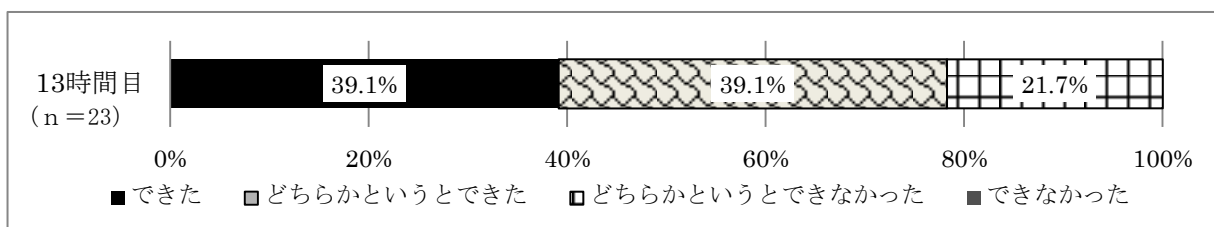


図3-18 学習ノート「ゲームの中で、フリーの状態でパスをもらうことができ、シュートを打てるスペースへ移動できましたか。」の回答（13時間目）

図3-19は13時間目の学習ノート「今日の授業で新たにできるようになったことを書きましよう」の記述から、①「シュートするための空間（相手DFとGKの間の空間）でパスを受ける動きができた」と判断できた生徒、②「進めるための空間でパスを受ける動きができた」と判断できた生徒、③「つなぐための空間でパスを受ける動きができた」と判断できた生徒、④「見ることができた」と判断できた生徒、⑤いずれの記述とも判断できなかった生徒の5つに分類し、割合を示したグラフである。なお、表3-7が分類結果（抜粋）である。（P.42※1、P.43※2参照）

「シュートするための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた生徒は30.4%、「進めるための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた生徒は4.3%、「つなぐための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた生徒は0%であった。

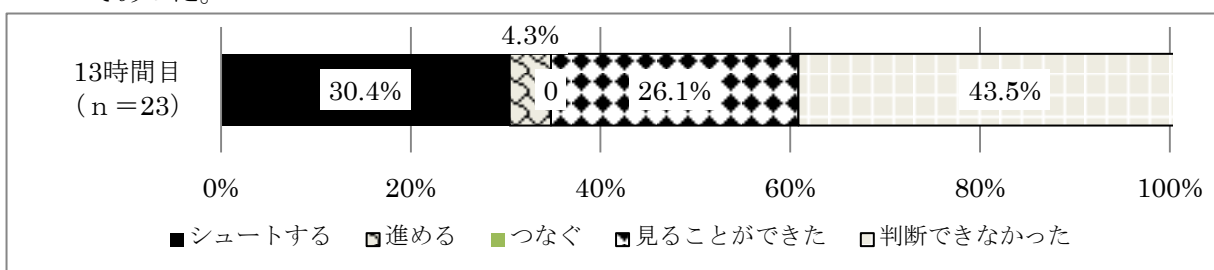


図3-19 学習ノートの記述内容から分類した生徒の割合（13時間目）

表3-7 動きに係る学習ノートの記述内容による分類（13時間目）（抜粋）

「シュートするための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述	<ul style="list-style-type: none"> ・攻める時は相手とゴールを見ながら突っ走りました。 ・GKとDFの間に入る。 ・チームでアイコンタクトをとってタイミングよく裏に抜ける。 ・オフサイドの際のかけひき
「進めるための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述	スペースでもらってからパス出す
「つなぐための空間で、フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述	
「見ることができた」と判断できた記述	<p>ボールを受ける前に周りを見る。</p> <p>周りを見て、相手ゴール前のスペースを見付ける。</p>
いずれの記述とも判断できなかった記述	ディフェンスでひたすら同じ人について、パスをさえぎること。オフサイドでの動き方を今よりもっとできるように。

(イ)「フリーでパスを受ける動きができたか。」についての考察

13時間目のVTR分析で、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きが1回はできた生徒は14名だった（図3-16）。一方、0回だった生徒も9名おり、1分間の1人あたりの平均出現数は0.26回であった（図3-17）。

本授業において、10・11時間目にディフェンスについての学習を行ったことで、生徒のディフェンスが高まり、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きが出現しにくかったのではないかと考える。また、ディフェンスの高まりによって相手ゴール前までボールを進めづらくなったことも、出現数が少なかった要因であると考え。

その他の要因として、ゴール前での待ち伏せを禁止する目的で、簡易オフサイドのルールを設定したことによって、生徒の中にオフサイドにならないようにする意識がめばえ、相手DFとGKの間に動くことを躊躇した生徒がいたかもしれない。VTR分析を行う中でも、シュートエリアに入ることを躊躇している様子が見受けられた。オフサイドになる条件をもう少し緩くする等の工夫をすることによって、相手DFとGKの間でパスを受ける動きの出現数が増えたのではないかと考える。

相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きのVTR分析では、9名の生徒が0回であったにも関わらず、13時間目の学習ノート「ゲームの中で、フリーの状態ですらパスをもらうことができ、シュートを打てるスペースへ移動できたか。」では78.2%の生徒が「できた」「どちらかというときできた」と回答している（図3-18）。これは、相手DFとGKの間の空間（DFの裏側）でパスを受ける動きを「できた」とした筆者の基準と生徒ができたと考える基準の違いがあることに要因があるのではないかと考える。生徒は、シュートエリアに入ることができれば、できたと考えていたのではないかと考える。

13時間目の学習ノート「今日の授業で新たにできるようになったことを書きましよう。」の記述では約70%の生徒が「シュートする空間への動きができた」と判断できない記述をした（図3-19）。やはり、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きをすべての生徒に身に付けさせるには、1時間という時間では、短かったのではないかと考える。

ウ 「シュートするための学習で、説明と条件付けられたゲームによって、『何を見るか』『どこへ動くか』を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。」についてのまとめ

以上のように分析をした結果、以下のようなことが明らかになった。

○ 7割弱の生徒が、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受けるために「何を見るか」「どこへ動くか」を理解することができた。

○ 5割強の生徒が、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きができた。

このことから、「シュートする」ための空間活用の学習によって、「何を見るか」「どこへ動くか」の理解、及び相手DFとGKの間の空間でのフリーでパスを受ける動きについては、説明と条件付けられたゲームは、何らかの修正が必要であると考えられる。

(1) 「段階的な学習で、説明と条件付けられたゲームによって、『何を見るか』『どこへ動くか』を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。」についてのまとめ

ボールを「つなぐ」「進める」「シュートする」ための学習を段階的に設定し、説明と条件付けられたゲームを行うことで、教師にとっての指導内容、生徒にとっての学習内容がより明確になったと考えられる。しかし、「シュートする」ための学習については、オーバーナンバーでの実施、ディフェンス学習のタイミングの調整、オフサイドのルールの更なる修正など、何らかの改善の必要性があると考えられる。

(2) ゲームで、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。

ア 「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたか。

(ア) 事前・事後アンケート分析

図3-20は事前・事後アンケート「ゲーム中に状況把握のために見るべきものが5つあります。わかるものがあれば書いてください。」で5つの項目すべてに正答した生徒の割合である。「ボール、ゴール、味方、相手、スペース」の5つを正答とした。事前では25.0%であったのに対し、事後では87.5%に増加した。

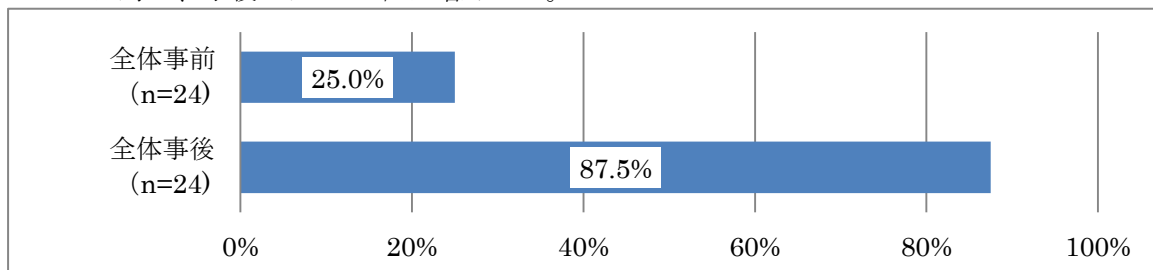


図3-20 事前・事後アンケート「ゲーム中に状況把握のために見るべきもの5つ」すべて答られた生徒の割合の比較

図3-21は、上記質問における各項目の正答の割合である。事前と事後を比較すると、5つある全ての項目で正答した生徒の割合が増加した。最も増加した割合が大きかった項目は「スペース」で、事前では33.3%であったが、事後では91.7%であった。

図3-22は事前・事後アンケート「見るべきものが理解でき、周囲の状況を認識できる。」の回答である。「思う」「どちらかというと思う」と回答した生徒は、事前の54.1%から、事後では91.7%に増加した。

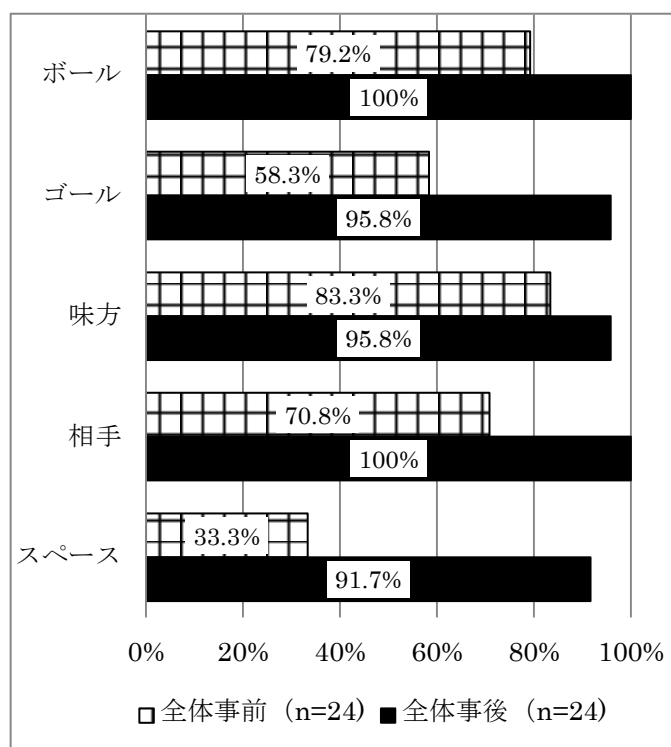


図3-21 事前・事後アンケート「ゲーム中に状況把握のために見るべきもの5つ」の回答の比較

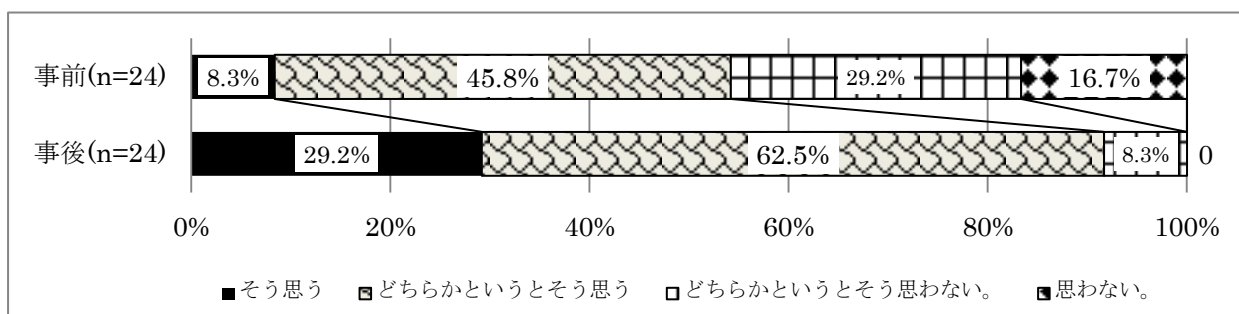


図3-22 事前・事後アンケート「見るべきものが理解でき、周囲の状況を認識できる。」の回答の比較

図3-23は事前・事後アンケート「あなたはパスをもらおうとする時、どのようなところに動きますか。」の回答の比較である。パスを受ける場所として、適切な記述を正答、そうでない記述を誤答、何も書いていないものを無回答として分類し、分析を行った。

事前で「誤答」「無回答」であった生徒は合わせて25.0%であったが、事後では0%になり、すべての生徒が「正答」することができた。また、事前で「正答」することができた生徒の事後の記述には、今回の授業で学んだ事柄が書かれる等、内容が具体的になったものがあった。なお、表3-8は事前と事後の記述の比較である。

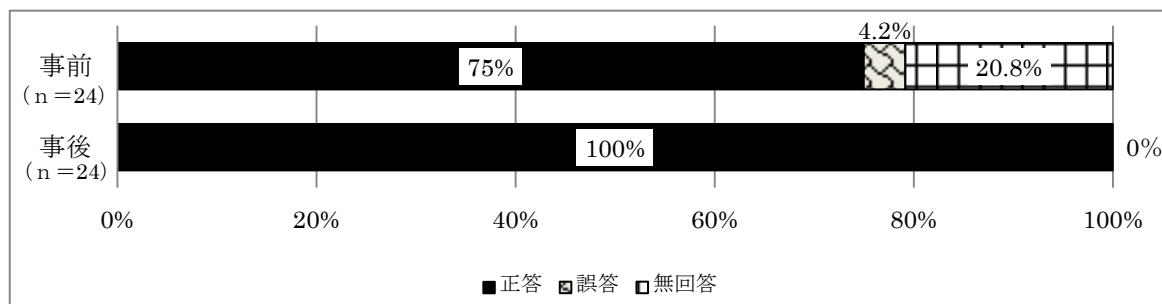


図3-23 事前・事後アンケート「パスをもらおうとする時、どのようなところに動きますか。」の回答の比較

表3-8 事前・事後アンケート「パスをもらおうとする時どこに動くか。」の記述の比較（抜粋）

事前での回答の種類	事前	事後
無回答		スペースの空いている所。
		ディフェンスの裏、ボール保持者よりもゴールに近い方へ移動する。スペースへ移動
		ボールを持ってる人の後ろ相手がいない所のスペース 前に走る。
誤答	すき間がある所	相手の背後にまわり、なるべく空いたスペースに動きながらパスを求める
正答	誰も人がいないところ	相手がいないスペース、味方とも距離をとる。ゴールに近づく
	スペース。前に進めるところ。シュートを打てるところ。	スペース、相手のすくないところ裏、後ろ、横、たて、前を向ける位置
	人が少ない所	人が動いてスペースの空いたところ

図3-24は事前・事後アンケート「ボールを持たない時、どのようにプレイすべきか判断できる。」の回答の比較である。「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した生徒は、事前の58.3%から、事後では87.5%に増加した。また、「そう思う」と回答した生徒は事前の12.5%から、事後では41.7%に増加し、「思わない」と回答した生徒は16.7%から0%になった。

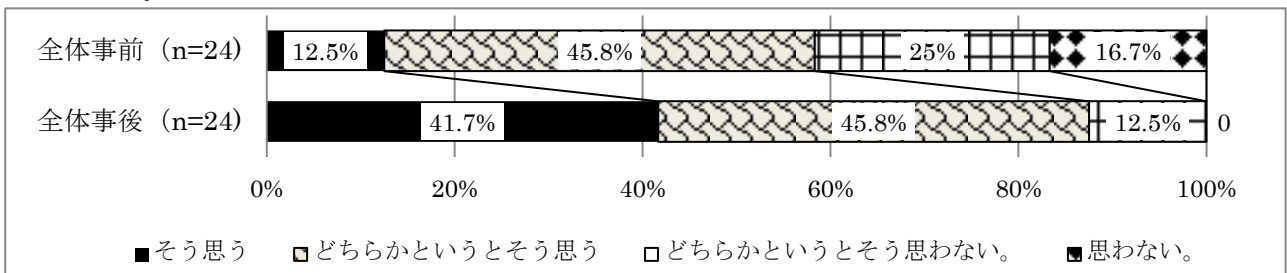


図3-24 事前・事後アンケート「ボールを持たない時、どのようにプレイすべきか判断できる。」の回答の比較

図3-25は事前・事後アンケート「B～Eの中でAからゴロのパスを受けることができる位置にいる選手を記号ですべて選びなさい。」の回答の比較である。3つすべて回答できた生徒は事前の54.2%から、事後では62.5%に増加した。各記号別の正答率を見てみると、Bは事前では79.2%であったが、事後では91.7%に増加した。Cは事前、事後ともに66.7%で変化はなかった。Eは事前の83.3%から、事後では95.8%に増加した。

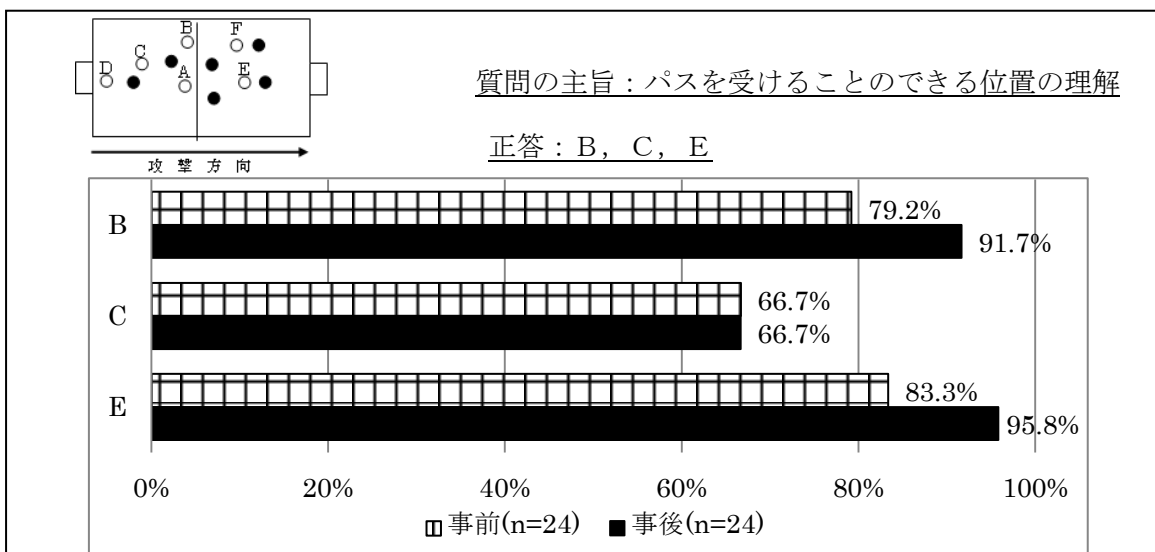


図3-25 事前・事後アンケート「Aからゴロのパスを受けることができる位置にいる選手を選びなさい。」の回答の比較

図3-26は事前・事後アンケート「下の図でAがボールを保持している状態で、Fがシュートを打つためにゴール前のスペースへ移動しようとした。このときAとBはどのようなプレイをしたらよいか答えなさい。」の回答の比較である。ここでは、ボールを持たないときの動きに着目しているため、「Fが動いたことによってできた空間にBが動く」という内容が書かれていれば正答とした。正答した生徒は事前の33.3%から、事後では58.3%に増加した。

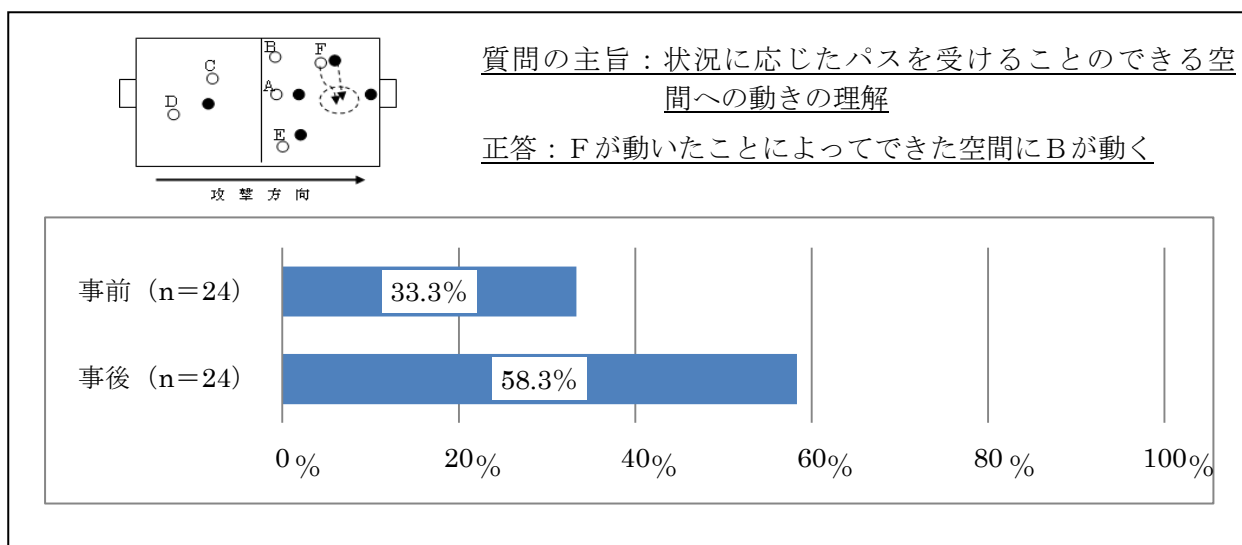


図3-26 事前・事後アンケート「Fがシュートしようとしてゴール前に動いた時、AとBはどのようなプレイをしたらよいか。」で正答できた割合の比較

(イ) 事後アンケート分析

図3-27は事後アンケート「今回の授業を通してわかったこと、理解したことを具体的に書いてください。」の記述で、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたと判断できた生徒と判断できなかった生徒の割合である。(P. 41※1) なお、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたと判断できた記述については、表3-9に示した通りである。

「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたと判断できた生徒は70.8%であった。

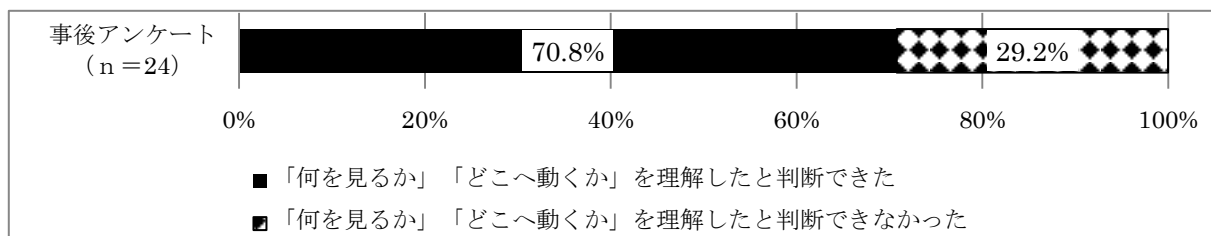


図3-27 学習ノートの記述内容から分類した生徒の割合

表3-9 理解に係る学習ノートの記述内容による分類(抜粋)

- ・ボールだけ見るのではなく、相手の動きやスペース、味方等より大事なことを知れたと思う
- ・周りを見て、スペースに動くこと。
- ・スペースを作るためには動かないといけないし、そこに入るのも重要。
- ・自分達が攻めやすくするためには全体でスペースを作り、考えてプレーしないと点は決められないと思った。
- ・スペースに動いたり、積極的にシュートをすることがいいことだと、改めて実感した。
- ・スペースを利用してゴールにボールをシュートできることがわかった。ゲームをやってスペースの大切さがわかった。
- ・味方がボールを持ってる時にどこのスペースに動いたら、フォローできるか頭を使って動くこと。

ア 『何を見るか』『どこへ動くか』を理解できたか。』についての考察

事前・事後アンケート「ゲーム中に状況把握のために見るべきものがあります。わかるものがあれば書いてください。」で、5つをすべて回答することができた生徒は、事前の25%から事後では87.5%に増加した(図3-20)。また、5つある見るべきものすべてで、回答することができた割合が増加した(図3-21)。その中で、最も増加した割合が大きかったのは「スペース」である。また、事前・事後アンケート「見るべきものが理解でき、周囲の状況を認識できる」では事後で91.7%の生徒が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した(図3-22)。

これらのことに加え、段階的な学習の中で、「見ることができる」と学習ノート等に記述していることから、生徒は「何を見るか」を概ね理解できたものと考えられる。2時間目に見るべきもの5つについての学習をしたことや各段階で見るべきものを明確にしたこと、ゲームの前等に学習ノートを活用してゲーム中に見るべきものの確認を行ったことが効果的であったと考える。

事前・事後アンケートの「パスをもらおうとする時、どのようなところに動くか」では、事後ですべての生徒が正答することができた(図3-23)。また、事前・事後アンケート「ボールを持たない時、どのようにプレイすべきか判断できる。」では、事後で87.5%の生徒が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した(図3-24)。

これらのことから、生徒は「どこへ動くか」を概ね理解できたと考えられる。段階的な学習の中で、「どこへ動くか」を明確にしたことが効果的であったと考えられる。

事前・事後アンケート「B～Eの中でAからゴロのパスを受けることができる位置にいる選手を記号ですべて選びなさい。」では、事後で62.5%が完全正答することができたが、37.5%の生徒ができなかった(図3-25)。項目ごとに見てみると、BとEについて理解することができたと考えられるが、Cは事前と事後で変化がなかった。Cは、攻撃方向とは反対側にいるため、生徒は攻撃に有効な位置ではないと判断したため、正答率が増加しなかったものと考えられる。このことは、7時間目に動きの優先順位についての学習を行ったことや、7時間目以降は常に攻撃方向を意識した活動を行っていたことが要因となっているものと考えられる。

また、事前・事後アンケート「下の図でAがボールを保持している状態で、Fがシュートを打つためにゴール前のスペースへ移動しようとした。このときAとBはどのようなプレイをしたらよいか答えなさい。」では、事後で58.3%の生徒が正答することができた(図3-26)。しかし、41.5%の生徒が正答できなかった。この問題で、生徒の正答率を増加させるためには、意図的に空間を作りだし、作りだされた空間を活用する学習が必要であると考えられる。今回の授業では空間への侵入についての学習を中心に行ったため、あまり正答率が上がらなかったものと考えられる。意図的に作りだされた空間を活用する学習をいかにやっていくかは今後の課題になると考える。

事後アンケート「今回の授業を通してわかったこと、理解したことを具体的に書いてください。」では70.8%の生徒が「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたと判断できた記述をした。

(図3-27) このことから、生徒はゲームの中で「何を見るか」「どこへ動くか」を概ね理解できたと考えられる。一方、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解できたと判断できなかった生徒は、チームワークの大切さやサッカーのルールについて理解したという記述が見られた。

イ フリーでパスを受ける動きができたか。

(ア) VTR分析

ゲームの中で、フリーでパスを受ける動きができたかを検証するためにVTR分析を行った。

フリーでパスを受ける動きの出現数については、チームでボールをコントロールしている状態の時に出現した動きをカウントした。そのため、1分間あたりの出現数を算出する計算では、ルーズボールやボールアウトの時間を除いた、各チームが実際にボールをコントロールしている時間を扱うこととした。

VTRの分析は、筆者とサッカー経験25年以上の体育センター所員の2名で行い、2人がフリーでパスを受ける動きとして判断したものを出現数としてカウントした。

16時間目にもゲームを行ったが、欠席者が2名おり、5人対5人のゲームになってしまったので、チームの人数の条件をそろえて比較するために2時間目と15時間目の比較を行った。

表3-10は各生徒のフリーでパスを受ける動きの出現数の2時間目と15時間目の増減表である。ゴールキーパーを担った生徒を除き、すべての生徒が2時間目から15時間目に、フリーでパスを受ける動きの出現数が増加した。

図3-28は1分間あたりのフリーでパスを受ける動きの出現数の各回数における人数分布(2時間目と15時間目の比較)である。

0.1-0.9回と1.0-1.9回の合計は、2時間目の9人から15時間目では1人に減少した。また、6.0回以上の生徒は2時間目の0人から15時間目では9人に増加した。そのうちの1人は10回以上フリーでパスを受ける動きをした。出現数が0回だった生徒は2時間目と15時間目ともに3名であり、いずれもゴールキーパーを担った生徒であった。

表3-10 各生徒のフリーでパスを受ける動きの出現数の2時間目と15時間目の増減

	2時間目	15時間目	増減	備考		2時間目	15時間目	増減	備考
1	3	3.3	0.3		13	4.0	7.3	3.3	
2	1	4.6	3.6		14	2.4	10.9	8.5	
3	1	2.9	1.9	2GK	15	4.8	8.2	3.4	
4	1.5	5.0	3.5		16	1.6	1.8	0.2	
5	1.5	2.1	0.6		17	1.6	8.2	6.6	
6	2	0.0	-2.0	15GK	18	0.0	0.0	0.0	2・15GK
7	1.6	8.4	6.8		19	4.7	6.4	1.8	
8	4	7.5	3.5		20	0.0	2.0	2.0	2GK
9	2.4	0.0	-2.4	15GK	21	1.3	2.5	1.1	
10	0.8	3.8	3.0		22	4.0	5.5	1.5	
11	0	2.8	2.8	2GK	23	4.0	5.0	1.0	
12	2.4	7.5	5.1		24	2.7	8.4	5.8	

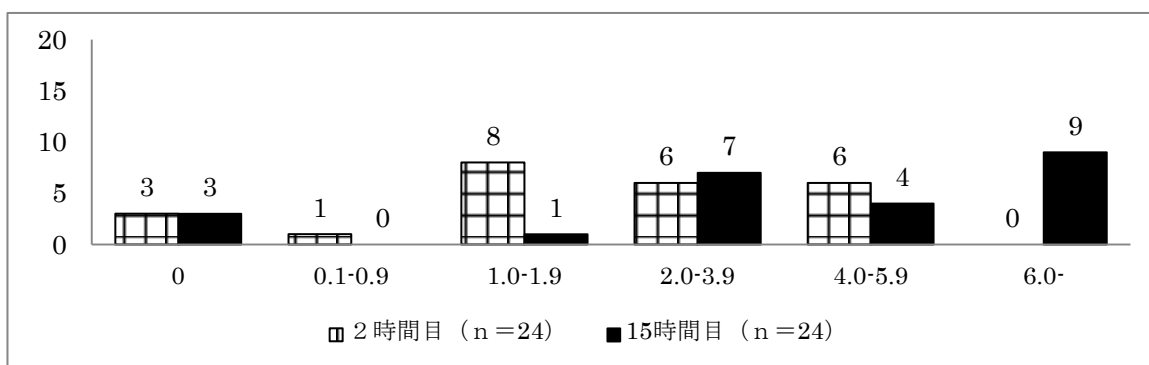


図3-28 1分間あたりのフリーでパスを受ける動きの出現数ごとの人数分布

図3-29は、「つなぐ」場面毎の1分間あたりのフリーでパスを受ける動きの出現数ごとの人数分布である。「つなぐ」「進める」「シュートする」のどの場面に当たるかは、ボール保持者からボールが離れた時点でのボールとボールを受けようとする人の位置関係によって、判断した。なお、シュートするための空間への動きについては、相手ゴールからの距離(8m以内)と相手D

Fとの位置関係によって判断した。

0回の生徒は2時間目の11名から15時間目では5名に減少した。0.1-0.9回の生徒は2時間目の6名から15時間目では7名に増加し、1.0-1.9回の生徒は2時間目の4名から15時間目では7名に増加した。さらに2.0-3.9回の生徒も2時間目の3名から15時間目では5名に増加した。

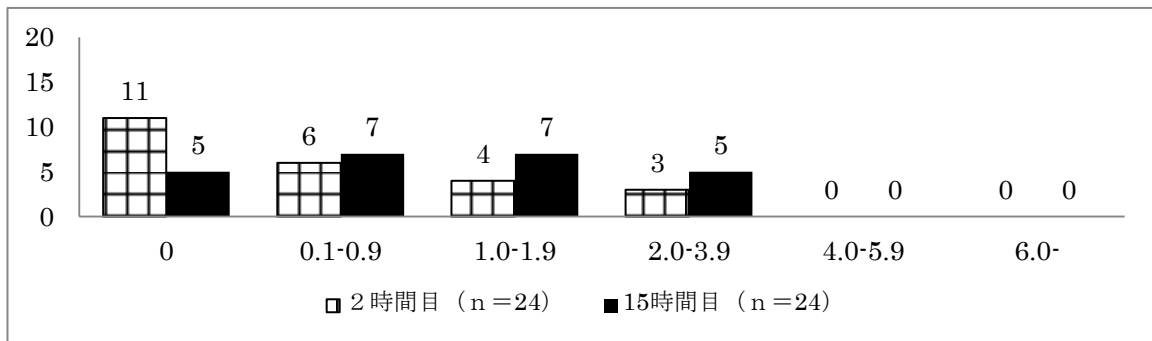


図3-29 「つなぐ」場面でフリーでパスを受ける動きの1分間あたりの出現数ごとの人数分布

図3-30は、「進める」場面で、フリーでパスを受ける動きの1分間あたりの出現数ごとの人数分布（2時間目と15時間目の比較）である。

出現数が0回の生徒は2時間目の7名から15時間目では4名に減少した。また、6回以上の生徒が2時間目の0名から15時間目では4名に増加した。

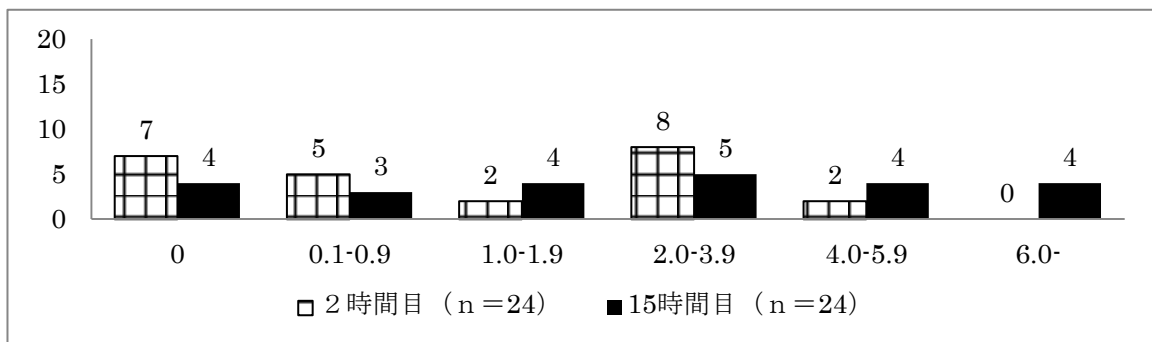


図3-30 「進める」場面でフリーでパスを受ける動きの1分間あたりの出現数ごとの人数分布

図3-31は、「シュートする」場面で、フリーでパスを受ける動きの1分間あたりの出現数ごとの人数分布（2時間目と15時間目の比較）である。

出現数が0回だった生徒は2時間目の19名から17名に減少した。1.0-1.9回も2時間目の1名から0名に減少した。

一方、0.1-0.9は2時間目の4回から5回に増加し、2.0-3.9回も0名から2名に増加した。

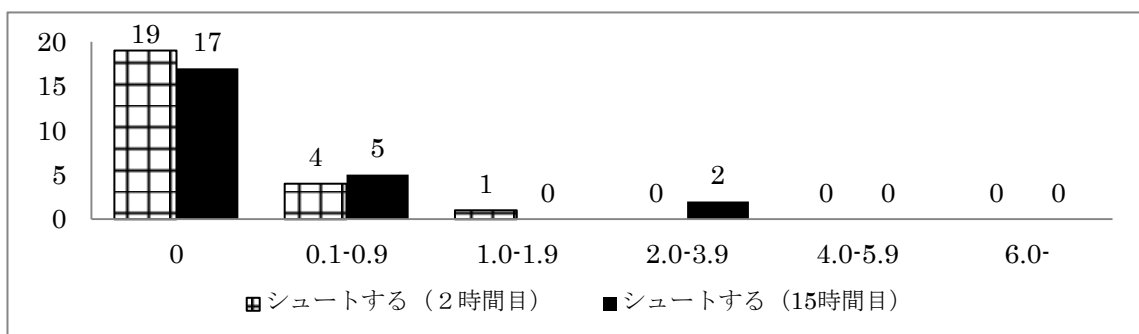


図3-31 「シュートする」場面でフリーでパスを受ける1分間あたりの出現数ごとの人数分布

図3-32は2時間目と15時間目のゲームにおける、フリーでパスを受ける生徒の動きの1分間の1人あたりの平均出現数の比較であり、2時間目の2.2回（標準偏差1.5）から、15時間目の4.7回（標準偏差3.1）に増加した。

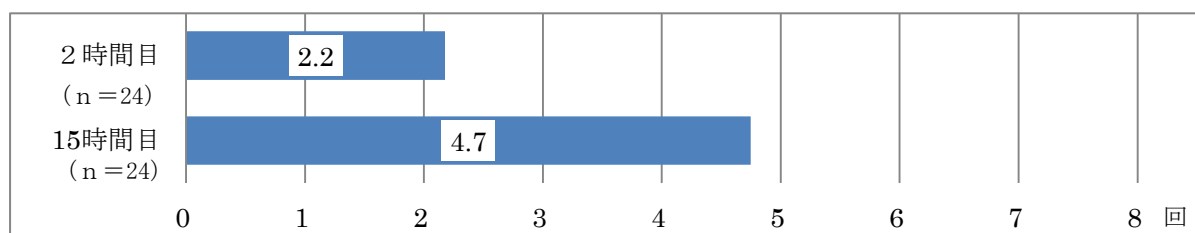


図3-32 VTR分析 ゲーム中のフリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数の比較

図3-33は、フリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数をチーム毎に2時間目と15時間目を比較したグラフであり、すべてのチームにおいて、平均出現数が増加した。

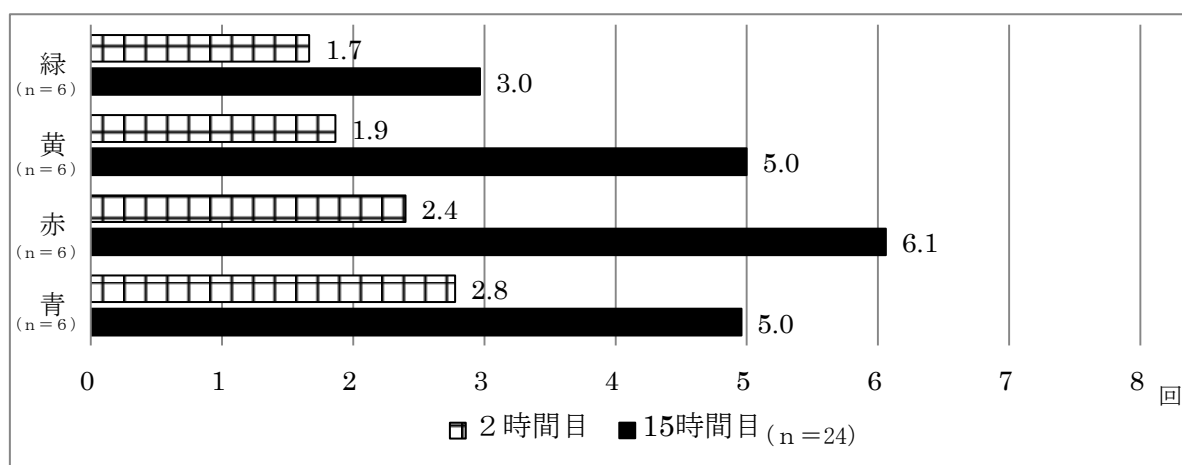


図3-33 VTR分析 フリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数の比較（チーム間）

図3-34は、フリーでパスを受ける動きを「つなぐ」「進める」「シュート」の場面ごとに分けた1分間の1人あたりの平均出現数の比較である。

「つなぐ」場面での動きは2時間目の0.68回から、15時間目では1.25回に増加した。具体的な動きとして、ボール保持者が前へ進めなくなってしまった際に、ボール保持者の横や後ろでパスを受ける動きなどがVTRの中で見られた。

「進める」場面での動きは2時間目の1.34回から、15時間目では3.13回に増加した。具体的な動きとしては、2時間目では見られなかったが、15時間目では、ボール保持者を追い越す動きやコート斜めに走る動き等が見られた。

「シュートする」場面での動きは2時間目の0.16回から、15時間目は0.36回に増加した。具体的な動きとして、センタリングに合わせてゴール前の空間に走り込む動きや相手の裏を取る動きなどが見られた。各場面でのフリーでパスを受ける動きにおいて、出現数の変化だけでなく、動きの質も変化していることがVTR分析で見受けられた。

また、出現数の増加の割合は、「つなぐ」が約1.85倍、「進める」が約2.33倍、「シュート」が約2.28倍で「進める」のための空間への動きがもっとも増加した割合が高かった。さらに、すでに存在する空間への動きだけでなく、人が動いたことによってできた空間へ入り込む動きも見られた。

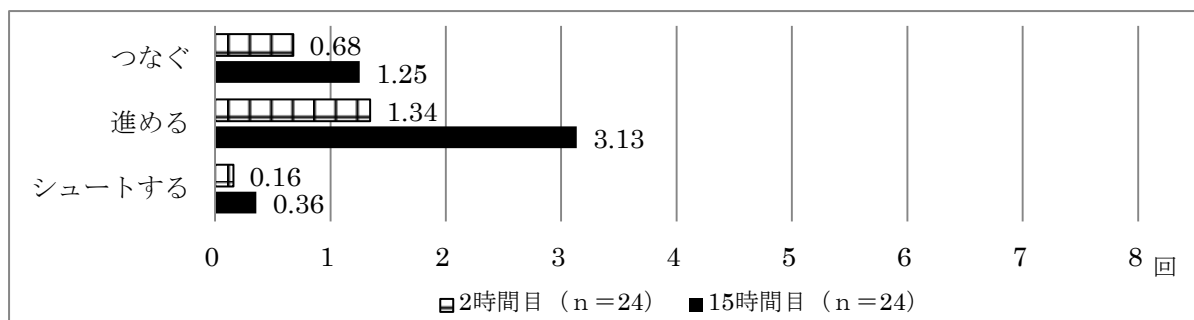


図3-34 VTR分析 各場面の空間への動きの1分間あたりの出現数(全体)

表3-11は、2時間目に各場面の動きが出現しなかった生徒の15時間目での変容について、まとめた表である。「進める」「つなぐ」「シュートする」の順に高い割合で、生徒に動きが出現した。

表3-11 2時間目に各場面の動きが出現しなかった生徒の15時間目での変容

場面	2時間目	15時間目の出現回数			
		1回以上	出現割合	0回	備考
つなぐ	11人	7人	64%	4人	内3名はGK
進める	7人	6人	86%	1人	GK
シュートする	19人	5人	26%	14人	内3名はGK

(イ) 事前・事後アンケート分析

図3-35は事前・事後アンケート「パスをもらえる空間に動くことができる。」の回答である。「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した生徒は、事前の54.2%から、事後では83.3%に増加した。また、「そう思わない」と回答した割合は事前では16.7%であったが、事後では0%となった。

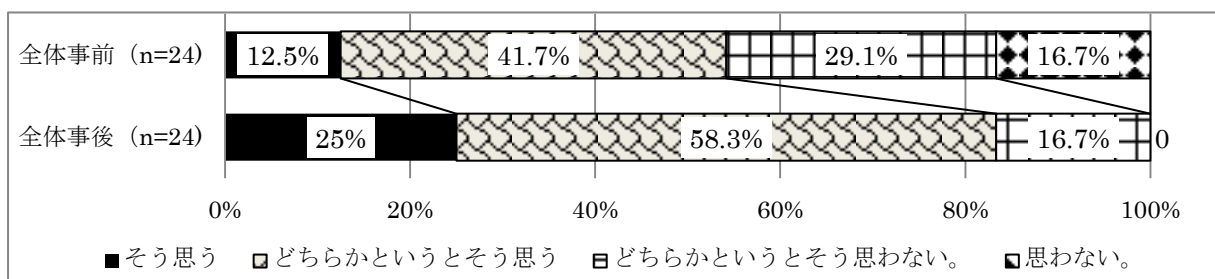


図3-35 事後アンケート「パスをもらえる空間に動くことができる」の回答

(ウ) 事後アンケート分析

図3-36は事後アンケート「今回のサッカーの授業を通してあなた自身ができるようになったことや身に付いたことを書いてください。」から、①「フリーでパスを受けることができた」と判断できた生徒、②「見ることができた」と判断できた生徒、③いずれの記述とも判断ができなかった生徒の3つに分類し、割合を示したグラフである。なお、表3-12が分類結果(抜粋)である。(P. 41※1、P. 44※2参照) 50%の生徒がフリーでパスを受けることができた。

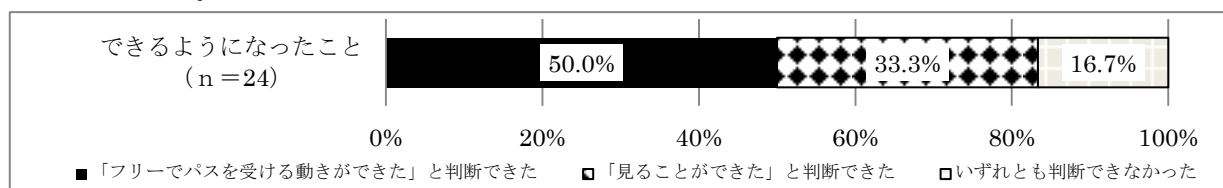


図3-36 事後アンケート「できるようになったことや身に付いたこと」の内容を分類した生徒の割合

表3-12 できるようになったことに係る事後アンケートの記述内容による分類（抜粋）

<p>「フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースを見つけて動くこと。 ・ただボールに集まるだけじゃなくて、スペースとか考えてできるようになったこと。 ・最初よりはスペースを生かして動けるようになったと思う。 ・自分がボールを持ってない時のスペースに動くのも最初より出来るようになった。
<p>「見ることができた」と判断できた記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スペースを見付ける。 ・周囲を見る。
<p>いずれの記述とも判断できなかった記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力、判断力 ・声を自分から出せるようになった。あと意見も言えるようになった。 ・サッカーのルールとか動き方をわかりやすく教える力

(イ)「フリーでパスを受ける動きができたか」についての考察

1分間あたりのフリーでパスを受ける動きの出現数が0.1回から1.9回の生徒が9名から1名に減少し、6回以上の生徒が2時間目では0名だったが、15時間目では9名に増加した。出現数が0回だった生徒は2時間目と15時間目ともに3名だった（図3-28）。15時間目で0回だった生徒は、1試合通してゴールキーパーを行っていた生徒であった（表3-10）。ゴールキーパーもゲームの中で、フリーでパスを受ける動きをする必要があるポジションであるが、ゴールキーパーがフリーでパスを受ける動きをする必要があるという指導をしなかったことも、0回であった要因であると考えられる。15時間目ではフリーでパスを受ける動きの出現数が0回だった3名は、他の時間においては、3名ともフリーでパスを受ける動きができていた。したがって、ゲームの中で、フリーでパスを受ける動きを全員ができるようになったと言える。

場面ごとのフリーでパスを受ける動きの出現数を見てみると、「つなぐ」ための空間で、フリーでパスを受ける動きの出現数は2時間目で11名いた0回の生徒が5名に減少した（図3-29）。15時間目で0回だった生徒のうち、ゴールキーパーの生徒を除いた2名は、比較的相手ゴールに近い位置でプレイしていた。そのことで、ボールをつなぐために、自陣側に下がってパスを受ける動きをしても、結果的にボール保持者よりも前方でパスを受けることになってしまったのではないかと考えられる。その結果、ボール保持者の横や後ろの空間でパスを受ける動きが0回になったと考えることができる。

「進める」ための空間で、フリーでパスを受ける動きは、6.0回以上が2時間目の0名から8名に増加した（図3-30）。15時間目で0回だった4名のうちゴールキーパーではなかった1名は、15時間目のゲームの中で比較的自陣のゴール付近でプレイしており、攻撃よりも守備の意識が高かったことが0回となった要因であると考えられる。VTRでのプレイの様子や、学習ノートの「ディフェンスをしっかりとできた。ボールに触らせないように頑張った。」「ディフェンス！ボールに近づけないように頑張った。攻守の切り替え」等の記述から、ディフェンスに力をいれていたことがうかがえる。また、その他の場面における、フリーでパスを受ける動きでは、ボール保持者よりも横や後ろで受ける動きは出現しているが、相手DFとGKの間の空間でパスを受ける動きは出現していない。このことから、自陣の深い位置でプレイをして、味方のフォローしようとしていたのではないかと考えられる。一方で、7・8時間目の学習では、ボール保持者よりも前方で受ける動きが出現していた。

「シュートする」ための空間で、フリーでパスを受ける動きの出現数は2時間目で19名、15時間目で17名であった（図3-31）。出現数が増加しなかった要因としては、相手DFとGKの間の空間で、フリーでパスを受ける動きの難しさがあるのではないかと考える。それに加え、動きを身に付けさせるための活動が13時間目にしかできなかったため、技能を身に付けさせるのに十分な時間が確保できなかったことも要因の一つである。また、10・11時間目にディフェンスの学習を行ったことによって、ディフェンスの技能が高まったことで、ディフェンスが裏を取らせないようにしたことによって、攻撃側しにくくなったことも要因として考えられる。

フリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数を見てみると、2時間目の2.2回から15時間目では4.7回となっており、約2.13倍の増加となっている（図3-32）。

フリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数をチーム毎に2時間目と15時間目を比較したが、全てのチームで増加していた（図3-33）。

各場面におけるフリーでパスを受ける動きの1分間の1人あたりの平均出現数もすべての場面で増加しており、増加した割合が最も高かったのが、「進める」ための空間での、フリーでパスを受ける動きであった（図3-33）。

また、2時間目に各場面の動きが出現しなかった生徒において、15時間目には「進める」及び「つなぐ」ためのパスを受ける動きが、それぞれ86%、64%の割合で出現した。「シュートする」ためのパスを受ける動きは、「進める」「つなぐ」に比べ、26%と低かった（表3-11）。

また、事前・事後アンケート「パスをもらえる空間に動くことができる」では、83.3%の生徒が「できる」「どちらかというところできる」と回答した（図3-35）。

事後アンケート「今回の授業であなた自身ができるようになったことや身に付いたことを書いてください」で、「フリーでパスを受ける動きができた」と判断できた記述をした生徒は50.0%であった（図3-36）。

これらのことから、ゲームで、フリーでパスを受ける動きが身に付いたのではないかと考えられる。

（2）「ゲームで、『何を見るか』『どこへ動くか』を理解し、フリーでパスを受ける動きができたか。」についてのまとめ

以上のように分析をした結果、以下のことが明らかになった。

○ゲームで、フリーでパスを受けるために「何を見るか」「どこへ動くか」を概ね理解することができた。

○ゲームで、フリーでパスを受ける動きの出現数が2時間目と比較して15時間目で増加した。

このことから、ゲームで、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解し、フリーでパスを受ける動きができたと考える。

5 指導の工夫の効果と課題

(1) 仮説に係る手だての工夫について

ア 説明について

(ア) 学習ノート

毎時間、学習ノートによってねらいを明確に示して説明を行ったことや各時間の振り返りを行わせたことによって、生徒自身が課題を見付けたり、目標を立てたりしながら学習することができた。

課題としては、学習ノートに記入する時間が長く、活動時間が短くなってしまったり、逆に活動時間が長すぎて、授業時間内で記入しきれなかったりしたことがあり、タイムマネジメントの面で課題が残った。

(イ) ホワイトボード・マグネット表示

マグネット表示でポイントを端的に表すことによって、生徒自身がそのポイントを意識しやすくなったのではないかと考える。また、実際に動き方を説明する際も、上からの視点で動き方を示したことでどのように動いたらよいか理解しやすかったのではないかと考える。

しかし、上から見た時の動き方を理解できたとしても、実際にプレイするのは見え方が違うため、うまく動くことができないこともあった。上からの視点を実際にプレイしている時の視点に置き換えることが課題であったと考える。

(ウ) プレゼンテーションソフト

ゲームの中で見るべきものやフリーでパスを受ける動きを理解させるためにプレゼンテーションソフトを使用した。選手の動きをイメージできるようアニメーションを使い、動きを表す等の工夫を行った。プレゼンテーションソフトそのものが生徒にとっては、新鮮だったようで、集中して説明を聞く様子が見られた。

課題としては、2時間目の前半と雨天であった12時間目にしか活用することができなかったため、場所等を工夫して、晴天時のグラウンドの活動でも使うことができればよかった。

(エ) ゲームVTRの活用

自分たちのプレイを見て、何ができていて、何が課題となるのかを認識させるのに効果的であった。また、見るべきポイントを教師からしっかりと提示できたこともよかったと考える。

ただ、今回は雨天時にVTRを見る時間を設けることができたが、雨が降らなければ、見せる機会がなかった。晴天時にどのようにVTRを見せるか、場所や方法面での課題が残った。

イ 条件付けられたゲームについて

(ア) 4対1でのパス回しゲーム

本活動のねらいであった「普通のパスとゴロのパスのどちらがパスを回しやすいか考えさせ、ボールを持たない人が動かなくてはならないことを気付かせる。」ことはある程度達成できたのではないかと考える。

一方で、本授業の対象生徒の技能が思ったより高かったため、3対1でもよかったと考える。

(イ) 4対2パス回しゲーム

5・6時間目を通して、すべての生徒がパスコースを作り、パスを受ける動きができたことから、ねらいとした動きを出現させるのに効果的な活動であったと考える。

(ウ) 4対3のパス回し+シュート

ディフェンスが1人増えたことによって、ねらいとしていたパスを受ける動きが出現する前にディフェンスがボールをカットしてしまう状況があり、技能的に難しい活動であった。

(エ) 3対3+1フリーマンのラインゴールゲーム

シュートの要素を取り除き、「ゴールエリアにボールを運ぶことができれば1点とする。」というルールにしたことで、ボール保持者よりも前方の空間で、フリーでパスを受ける動きが出現しやすかったと考える。

生徒の技能レベルを考えるとコート横幅がもう少し広い方がよかったと考える。また、得点の際にドリブルでゴールエリアに持ち込んで得点というケースがあったので、「ゴールエリアでパスを受けたら得点」というルールの方がよかったと考える。

(オ) 4対4+1フリーマンのゲーム（ゴール6個設置）

ラインゴールゲームの発展形として、シュートの要素を入れた活動で、ラインゴールゲームよりも動きの出現数が減少したが、シュートがある分、生徒は意欲的に活動に取り組んでいるように見受けられた。

多くのパスを受ける動きを出現させるためにフリーマンの条件を技能に合わせて設定する必要があったと考える。

(カ) シュートエリアを設定した5対5のゲーム

相手DFとGKの間の空間でフリーでパスを受けるための動きの獲得をねらいとして行った活動であったが、動きはあまり多く出現しなかった。相手DFとGKの間の空間でパスを受ける難しさやボールをゴール前まで運ぶ難しさ、ディフェンスの高まりなどが要因であると考えられる。また、簡易オフサイドを設定したことによって、動くことに対して躊躇してしまっただけではないかと考える。

そのため、オフサイドについて教えるタイミングや、生徒の技能レベルに応じてアウトナンバーを設定するなどの条件付けを工夫する必要があった。

(2) その他の工夫について

ア サッカーの知識の学習について

様々な運動経験や意欲の生徒がいる中で、サッカーの原理原則やゲームの中で見るべきもの等をきちんと指導し、全体で共有できたのはよかった。2時間目の前半約15分で知識の学習を行った後、ためしのゲームを行ったが、学習したことを意識してプレイしようとしている生徒の姿が見られた。学習ノートの自由記述に「スペースを見付けるのが難しい。ボールを見ないで動くのは難しい」、「ゲームは楽しかったけど、考えながらプレイするとうまくいかなかった」等のコメントからもうかがえた。

イ 周囲を見ることを意識したウォーミングアップについて

(ア) ランニンググルーピング

グリッド内でドリブルとフリーランニングに分けて行った。難しくてもボールを扱った方が、生徒の積極性が見られた。

(イ) 2人1組鬼ごっこ

決められた範囲内をドリブルしながら鬼から逃げる活動。鬼の動きを見ながら他の生徒とぶつからないようにしなくてはならないため、ドリブルをしながら周囲を見る意識を高めるには効果的であった。生徒の能力に応じてのグループ構成や、コートの広さを変えたりなどする必要もあった。

(ウ) パスコースを増やしたパス&ムーブ

3人対3人で向かい合い、3つのボールを使ってパス交換をする活動。2つのボールが1人に行かないようによく見てパスを出すことによって、周囲を見てパスを出す意識が身に付いた。

(エ) ゲット・ザ・コーン

空いている空間を埋める動きを学習するために行った。鬼からコーンを守るように、空いているコーンを見つけ、移動する。最初は簡単にコーンを取られてしまったが、セット数を重ねるにつれて、鬼からコーンを守る時間が長くなっていった。

(オ) ミニ2対2

2対2のラインゴール方式のゲームを、ハンドパスで行った。見るべきものを明確にして行うことで周囲を見る意識が高まったと考える。また、ディフェンスにおけるチャレンジ&カバーの動きを意識するのにも有効であった。

ウ ディフェンスを意識した活動について

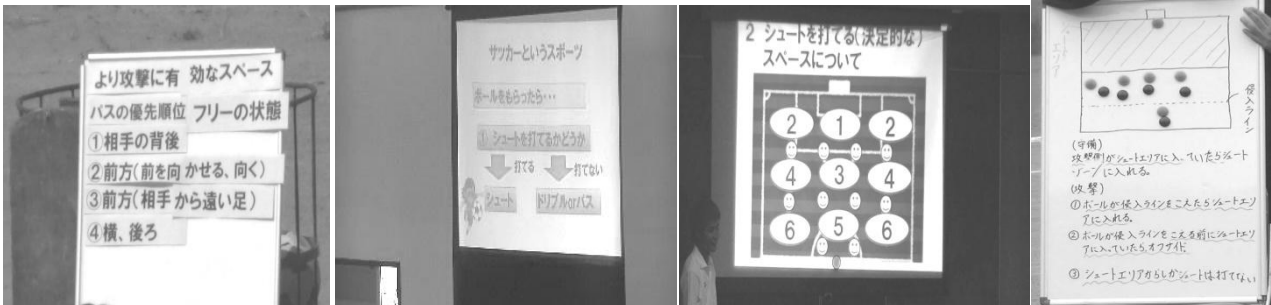
(ア) 2対2からスタートのゲーム

ディフェンスをテーマにした活動であったが、ディフェンスを扱ったことで、攻撃にもよい影響が出たのではないかと考えられる。特に、人数が少ない状況からのスタートなので、相手の裏を取る動きなどがよく見られた。生徒による学習ノートの記述「ディフェンスの裏でパスをもらうことができた」「相手の裏にまわれました！」等からもその様子をうかがえた。

エ 班編成について

役割を明確にしたことにより円滑に班活動を行うことができた。また、各班がサッカー一部を中心に積極的な教え合い活動を行ったことで、授業のねらいが生徒に伝わりやすかったと考える。活動中の指示の声や、チームメイトを励ます声などを積極的に出している姿も見られた。

課題としては、運動技能が均等になるように配慮して班編成したつもりだったが、1チームだけ、技能の高いチームができてしまった。しかし、そのチームに勝とうと他のチームも一生懸命作戦を練ったり指示を出したりする姿が見られた。



6 授業全体を振り返って

今回のクラスでは、サッカー部の生徒（8名）とそれ以外の生徒の間に、知識や技能に大きな差があることが課題の一つと考えられた。そこで、サッカー部とサッカー部以外の生徒の比較を、事前・事後に行った診断的・総括的授業評価（詳細は p10～p11 参照）の項目「まなぶ」「できる」「たのしみ」について、述べていきたい。

(1) まなぶ（認識目標）について

図3-34は診断的・総括的授業評価の「まなぶ（認識目標）」の得点を、全体、サッカー部の生徒、サッカー部以外の生徒に分けた事前・事後の比較である。

サッカー部の生徒は2.62、サッカー部以外の生徒は1.81増加した。

図3-35は事前・事後アンケート「ゲーム中に状況把握のために見るべきものが5つあります。わかるものがあれば書いてください。」の回答の中で、「スペース」と答えられた生徒の割合を全体、サッカー部の生徒、サッカー部以外の生徒に分けた事前・事後の比較である。

事前にサッカー部の生徒は全員が正解していたが、サッカー部以外の生徒は、誰も正解していなかった。

当初、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解することについては、サッカー部の生徒にとっては、既存の知識であり、サッカー部以外の生徒の方が大きく増加すると考えていた。

しかし、実際は、サッカー部以外の生徒が知らなかった知識を身に付ける以上に、サッカー部の生徒の学ぶ意識を高めることができた。それは、サッカー部の生徒が今までもっていた知識を再確認できたことや新たな発見があったこと、サッカー部以外の生徒に指示を出したり、技能を教えたりすることでより知識が深まったのではないかと考える。サッカー部の生徒の学習ノートには、「スペース、オフサイドについて改めて理解した。」「オフサイドが待ち伏せ禁止だということを知った」という記述や「サッカーをしたことない人と、どう伝えれば理解してもらえるか、どのボールが受けやすいのか、とかを考えて、今まで自分がやってきたサッカーとは違った見方ができました。」等の記述があった。今回の授業は、サッカー部以外の生徒は知識が身に付き、サッカー部の生徒は既存の知識が深まったと考えられる。

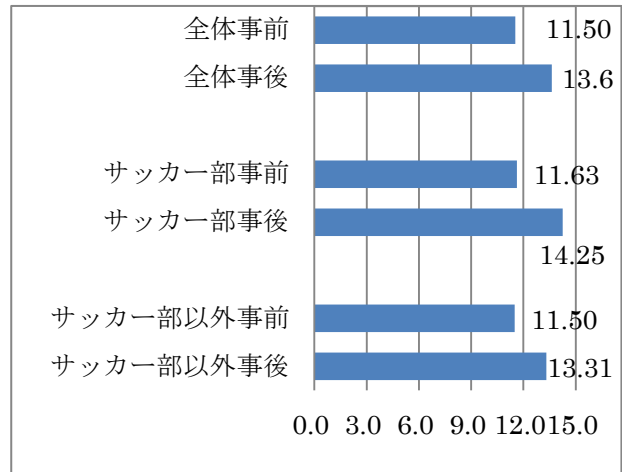


図3-34 診断的・総括的評価「まなぶ（認識目標）」

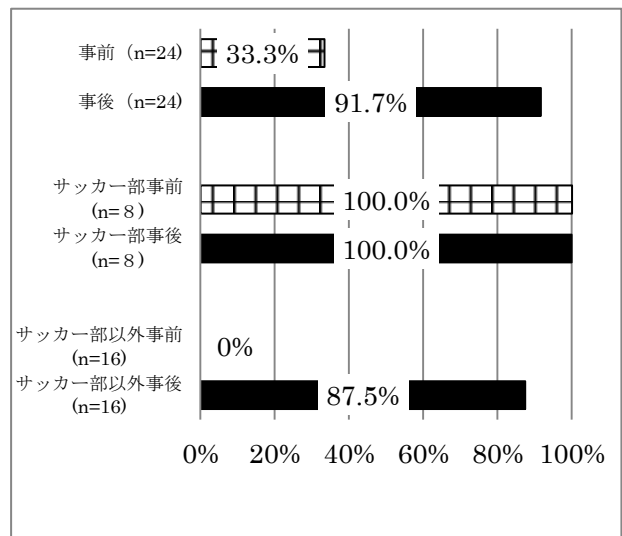


図3-35 「ゲーム中に状況把握のために見るべきもの5つ」で「スペース」を答えられた生徒の割合



(2) できる (運動目標) について

図3-36は診断的・総括的授業評価の「できる (運動目標)」の得点を、全体、サッカー一部の生徒、サッカー部以外の生徒に分けた事前・事後の比較である。

サッカー部の生徒は0.63、サッカー部以外の生徒は1.00増加した。

図3-37は2時間目と15時間目のパスを受ける動きの1分間での1人あたり平均の出現数である。パスを受ける動きの総数は、サッカー部以外の生徒の方が多く出現していた。場面ごとに見てみると、「シュートする」ための空間と「進める」ための空間への動きの出現数はサッカー部以外の生徒の方が、「つなぐ」ための空間への動きの出現数についてはサッカー部の生徒の方が多かった。

その結果の要因として、フリーでパスを受ける動きはサッカー部の生徒もサッカー部以外の生徒も概ね身に付けることができたが、パスを出す技能に差が見られたため、サッカー部の生徒は後方からパスの出し手となり、前方でサッカー部以外の生徒が受け手となるが多かったことが考えられる。サッカー部の生徒は、高い技能を使って自分たちだけでゲームを行うのではなく、サッカー部以外の生徒のパスを受ける動きをうまく引き出してパスを出していたことがうかがえた。サッカー部以外の生徒は、パスが出てくることで、よりできたと感じられたのではないかと考える。

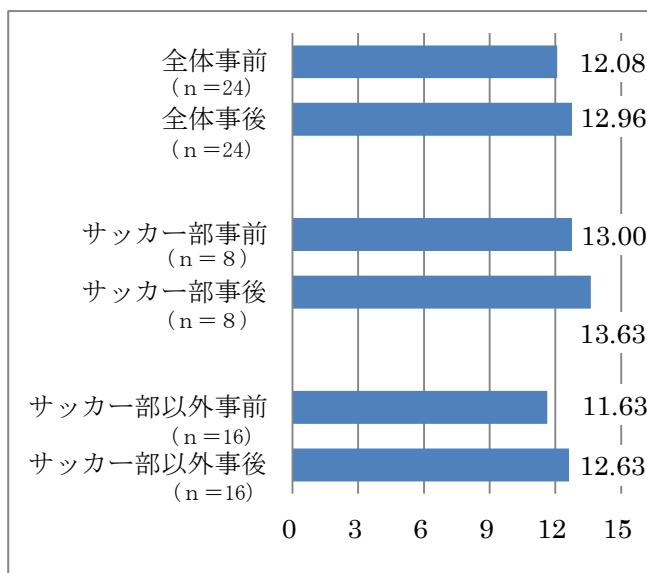


図3-36 診断的・総括的評価「できる (運動目標)」

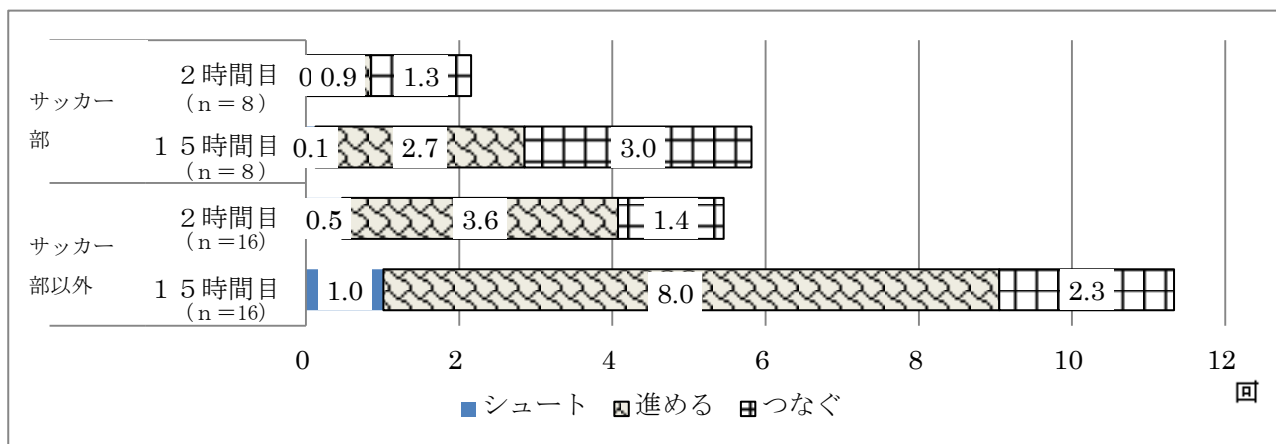


図3-37 VTR分析 パスを受ける動きの出現数の1人あたりの平均 (15時間目)

(3) たのしむ (情意目標) について

図3-38は診断的・総括的授業評価の「たのしむ (情意目標)」の得点を、全体、サッカー部の生徒、サッカー部以外の生徒に分けた事前・事後の比較である。

サッカー部の生徒は0.87、サッカー部以外の生徒は0.69増加し、両者に「まなぶ」「できる」ほどの差は見られなかった。

図3-39は事前・事後アンケートの「あなたはサッカーの授業は好きですか。」の回答の比較である。事前では、8.4%の生徒が「どちらかという嫌い」「嫌い」と回答したが、事後では全員が「好き」「どちらかという好き」と回答した。

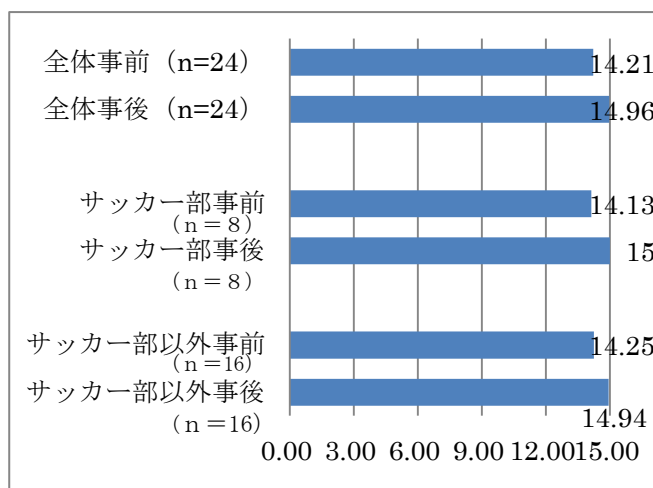


図3-38 診断的・総括的評価「たのしむ (情意目標)」

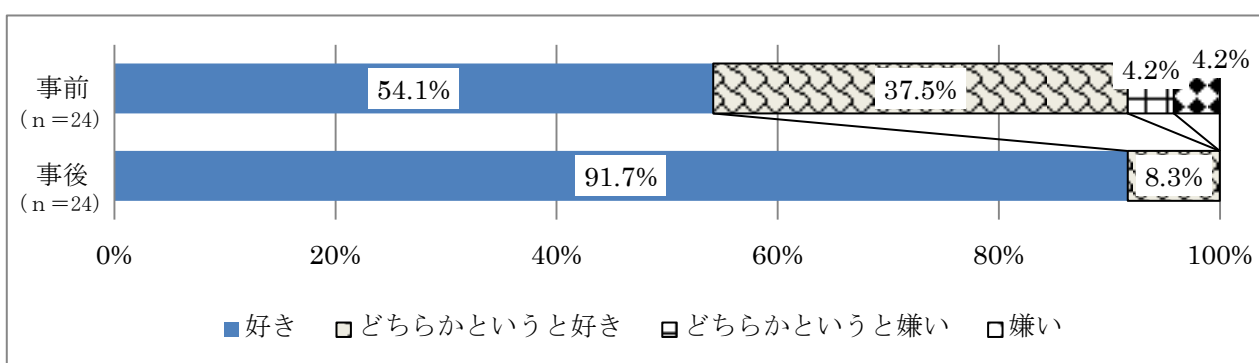


図3-39 事前・事後アンケート「あなたはサッカーの授業が好きですか。」の回答の比較

図3-40 事前・事後アンケート「あなたはサッカーをすることが得意ですか。」の回答の比較である。「得意」「どちらかという得意」と回答した生徒が、事前の45.8%から事後で58.3%に増加し、「苦手」と回答した生徒が、事前の16.7%から事後で4.2%に減少した。

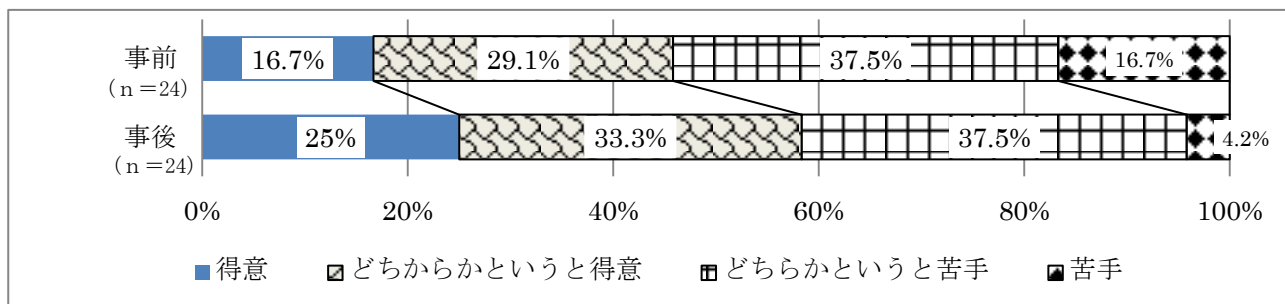


図3-40 事前・事後アンケート「あなたはサッカーをすることが得意ですか。」の回答の比較

図3-41は事後アンケート「今回のサッカーの授業は楽しかったですか。」の回答である。全員が「楽しかった」「どちらかといえば楽しかった」と回答した。

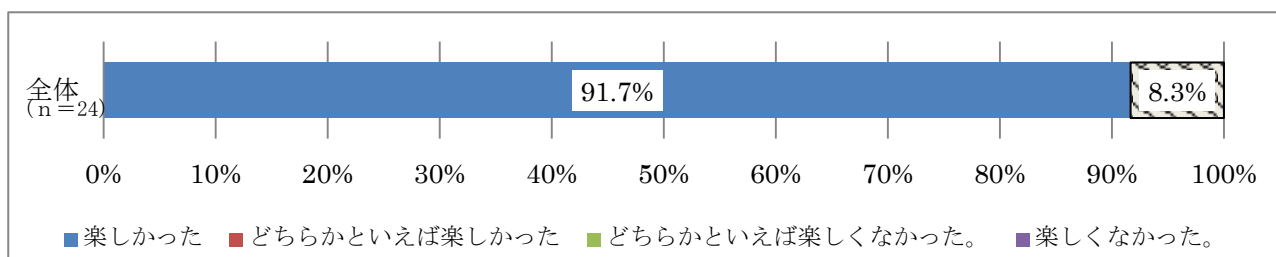
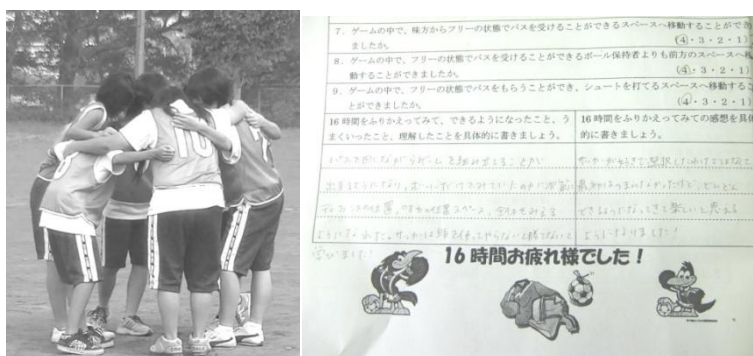


図3-41 事後アンケート「今回のサッカーの授業は楽しかったですか。」の回答

今回の授業では、「サッカーの授業が好きか」「サッカーの授業が楽しかったか」の回答に、すべての生徒が授業後には、肯定的な回答を行った。それは、14～16 時間目に行ったゲームで、試合前に自発的にチームで円陣を組み、気持ちを高める様子やラインを割るまで全力でルーズボールを追いかける様子、試合と試合の間にチームで話し合う様子などからも見て取れ、今回の授業が充実したものであったことがうかがえた。

ただ、授業の前半で、「パスとシュート練だけでちょっともの足りなかった。」「ゲームしたい。」(いずれも3時間目)、「次こそはゲームをやりたい。」「試合やりたい」(いずれも6時間目)といった学習ノートの記事や、「最初はゲームできなくて退屈だった」という事後アンケートの自由記述等があり、パスを受ける動きを丁寧に行ったことが、できる生徒にとってはやや退屈な活動になってしまったという部分があり、より、サッカーの特性を深く味わいながら、フリーでパスを受ける動きの学習ができるような活動を、工夫する必要があったのではないかと考える。

今回の授業はサッカー部の生徒にとってもサッカー部以外の生徒にとっても、概ね満足できる授業内容であったと考える。



第4章 研究のまとめ

1 研究の成果と課題

本研究では、サッカーの授業において、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解させ、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせる指導を提案することを目的に研究を進めてきた。

その結果、次のようなことが明らかになった

(1) 研究の成果

サッカーの授業において、ボールを「つなぐ」「進める」「シュートする」ための段階的な学習で、説明と条件付けられたゲームを行うことによって、「何を見るか」「どこへ動くか」を理解させ、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせることができることがわかった。そして、各段階における見るポイントや動きのポイントの提示、身に付けるべき動きが明確になる条件付けられたゲームの考案、さらには空間や動きの確認のためのVTRの活用など、教師にとっては指導内容を、生徒にとっては学習内容を明確にすることができる指導方法が、生徒間での課題の共有化につながり、複数の者が連携して行うパスを受けるといった技能の向上に効果があった。

(2) 研究主題に関わる課題

○今回の授業は、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせることをねらって行ったが、ゲームでその動きにあわせてパスが出なければ、その動きが活きることにならない。今回はサッカー部の生徒が中心となりパスの出し手となったことで、パスを受ける動きも多く出現したが、パスを出すための技能（ボール操作）を身に付けさせるとともに、ボール操作の技能が低い場合には、さらに条件付けられたゲーム等を工夫する必要がある。

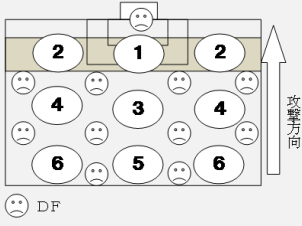
○今回、3つの段階的な学習を通して、フリーでパスを受ける動きを身に付けさせることを16時間扱いで計画をしたが、生徒は授業でサッカーを行うのが、高校入学以来初めてだったため、ボール操作にも時間を取らねばならず、1つの段階に2時間しか取ることができなかった。特に、「シュートする」ための段階のように難易度が高く、試合の中での出現数が少ない動きについては、もう少し時間を確保する必要がある。

2 指導についての提案

次の表のとおり、フリーでボールを受ける動きを身に付けさせる指導について提案する。

ボールを持たない時の動きに関すること

空間活用の段階		ねらい	何を見るか	「見る」ためのポイント
つなぐための段階	ボール保持者	①パスコースのある味方を見つけ、パスを出すことができるようにする。	ボール 味方 相手	<ul style="list-style-type: none"> 顔をあげて周囲の状況を見ること。 ボールをトラップする前に周囲の状況を見ること。
	ボールを持たない時	①パスを受けることのできる位置について理解する。 ②パスコースを作ることができるようにする。	ボール 味方 相手	<ul style="list-style-type: none"> 顔をあげて周囲の状況を見ること。
進めるための段階	ボール保持者	①パスの優先順位を理解する。 ②相手ゴールに近い味方へパスを出せるようにする。	ボール 味方 相手 ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ボールをトラップする前に周囲の状況を見ること。 相手ゴールに近い味方から探す。
	ボールを持たない時	①動きの優先順位を理解する。 ②ボール保持者よりも前のスペースでボールを受けることができるようにする。	ボール 味方 相手 スペース	<ul style="list-style-type: none"> 常に周りを見ること。 ボール保持者の状態を把握すること。 相手の位置を把握すること。 相手ゴールに近い空間から順番に見ていく。
シュートするための段階	ボール保持者	①攻撃時にねらうべきスペースの優先順位を理解できるようにする。 ②オフサイドの意味を理解できるようにする。 ③相手DFとGKの間のスペースにタイミングよくパスを出すことができるようにする。	ボール 味方 相手 ゴール スペース	<ul style="list-style-type: none"> 味方の動きを見て予測することが大切であること。 ゴール前の相手ディフェンスを意識する。
	ボールを持たない時	①攻撃時にねらうべきスペースの優先順位を理解できるようにする。 ②オフサイドの意味を理解できるようにする。 ③相手DFとGKの間のスペースにタイミングよく動くことができるようにする。	ボール 味方 相手 スペース ゴール	<ul style="list-style-type: none"> ボール保持者の状況を把握する。 ゴール前の相手の状況を把握できるように見る。

どこへ動くか	「動く」ためのポイント		活動（『資料編』 P21～24）
ボール保持者と自分の間に相手がいない位置	ボール保持者	①フリーの味方の足もとへのパス	① 4対2のパス回し ② 攻撃方向を意識した4対3のパス回し ※15m四方の正方形に、コーンゴールを3つ設置する。（多少攻撃方向を意識させ次時へつなげる。）
ボール保持者よりも前方の空間	ボール保持者	①ボール保持者と自分の間に相手がいないようにする。 ②パスをコースにいても、パスが来ない時があることを理解する。 ③状況が変わったら動きなおすことが必要であることを理解する。	① 運ぶ4対3のラインゴールゲーム（攻守交替制） ② 3対3 + 1フリーマンのラインゴールゲーム ③ 4対4 + 1フリーマンのゲーム（ゴール6個設置） ④ 4対4 + 1フリーマンのゲーム ※生徒の技能レベルに合わせて、フリーマンに条件を付ける。
相手DFとGKの間の空間 	ボール保持者	①ゴールに近い、得点につながる位置から順番に見ていく。 ①動きの優先順位を理解する。 ア 相手の背後 イ 前方（前を向く） ウ 前方（相手から遠い足） ②ボールを持たない味方との距離とボール保持者との距離を適切に取る。（近ければ遠ざかり、遠ければ近づく） ③得点につながりやすい位置を意識する。 ④ボール保持者よりも前方でパスコースを作ること。	①シュートエリアを設定した5対5のゲーム（攻守交替制） ※生徒の技能レベルに応じて攻撃側に数的有利を作る等の工夫をする。 ②シュートエリアを設定した5対5のゲーム ※生徒の技能レベルに応じて攻撃側に数的有利を作る等の工夫をする。
ボール保持者	ボールを持たない時	①味方の動きを予測する。 ②受け手とのタイミングを合わせる。 ①攻撃時にねらうべき空間の優先順位について理解する。（左図参照） ②シュートが打てる空間へ動く。 ③シュートが打てるタイミングで空間に動く。 ④オフサイドを理解し、気を付ける。	

3 今後の展望

今回の授業では、フリーになることができる空間を見つけて動くことに重点を置いたが、学習指導要領解説には空間を作りだしたり、その空間に移動したりという例示が示されている。VTRの中では、フリーでパスを受けるために、人が動いたことによってできた空間に入り込む動きやボール保持者から離れて空間を広げる動きが見られた。このことから、今回の学習を「意図的に空間を作りだし、その空間を活用する」¹⁾ 学習につなげることが可能であると考え。そのことにより、連携した動きが高まり、チームでゴールを目指すというサッカーの楽しさを生徒はより味わうことができるのではないだろうか。ひいては、そのことをバスケットボールやハンドボール等、その他のゴール型種目の学習につなげることができるのではないかと考える。

また、今回の授業実践では、3つの段階的な学習を1単元の中で全て行ったが、先にも述べたように、時間的に厳しい部分があった。このことから、ある特定の学年だけで指導するのではなく、第1学年から3年間を見通して計画を立てていくこと、バスケットボールやハンドボールといったゴール型の種目の中で、型に共通した技能として指導していけるとよいと考える。

4 最後に

今年度から学年進行により実施された学習指導要領では、「状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開する」¹⁾ といったゲームの様相が示され、ボール操作とともにボールを持たないときの動きが解説の例示に明確に示された。

今回、高等学校第3学年の女子のサッカーの授業を展開する上で、学習指導要領に示されたゲームの様相や解説に示されたボールを持たないときの動きを指導することは大変難しいと考えていた。しかし、フリーでパスを受ける動きを目的により段階をつくり、各段階において見るポイントや動きのポイントを丁寧に説明し、身に付けるべき動きが明確になる条件付けられたゲームを行うことで、生徒は意欲的に学習に取り組み、多くの生徒がその技能を身に付けることができた。また、もともとの技能差が大きい中でも、9割以上の生徒が、「サッカーの授業が好き」「サッカーの授業が楽しい」と感じられたことは、私が授業を通して一番嬉しかったことである。このようなことが、サッカーを「する」ことだけでなく、「見る」ことや「支える」ことといった、生涯にわたる豊かなスポーツライフにつながっていくのではないかと感じた。

今回の研究を通して、私の今までの授業では、「何を学ばせるのか」という授業の根幹であるねらいが不明確であったことを実感した。そして、教師にとっては指導内容を、生徒にとっては学習内容を明確にすることが大切であることを感じる事ができた。

今回、長期研究員としての機会をいただき、自分自身の授業を振り返ることができたことは非常に大きな経験となった。その中でも特に、「空間」に係るボールを持たないときの動きについての指導を行えたことは、今後、自分自身がゴール型の授業を実施する上で、大きな財産になると感じた。

今後は、今回の研究を通して得た成果と課題を生かして、よりよい授業づくりを行っていきたい。

<引用・参考文献>

- 1) 『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』文部科学省、2009年12月
- 2) 林雅人『サッカー ゴールを奪う攻撃戦術ー得点するために、個人、チームは何をすべきか』ナツメ社、2011年
- 3) 湯浅 健二『サッカー戦術の仕組み』池田書店、2012年
- 4) ランデル・エルナンデス・シマル著、倉本和昌訳『スペイン流サッカーライセンス講座 - 「育成大国」の指導者が明かす考えるトレーニング理論』ベースボールマガジン社、2012年
- 5) 『高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編』文部科学省、1999年12月
- 6) 『杉山重利・高橋健夫他『新学習指導要領による高等学校体育の授業 下巻』大修館書店、2001年
- 7) 中川明「ボールゲームにおける状況判断研究のための基本概念の検討」体育学研究 第28巻 日本体育学会 1984年3月
- 8) 『サッカー指導教本 2007』財団法人日本サッカー協会、2007年
- 9) 林雅人『サッカー オフ・ザ・ボールの動き・戦術・トレーニング』ナツメ社、2012年
- 10) リンダ・L・グリフィン他著 高橋健夫・岡出美則 監訳 『ボール運動の指導プログラム』大修館書店、1999年
- 11) 高橋健夫『体育の授業を創る』大修館書店、1994年
- 12) 高橋健夫編著『体育授業を観察評価する』明和出版、2003年